市内遺跡調査報告書

第　8　集

2013

茨城県石岡市教育委員会

例　　言

1. 本書は平成23年度に石岡市が行った試掘調査、平成18年度に土地区画整理に伴い発掘調査を行った白久台遺跡５次調査に関する報告書である。また、平成23年度に行った茨城廃寺跡の確認調査の概要も収録した。
2. 調査は石岡市教育委員会が主体となって実施した。
3. 現地調査は小杉山大輔・曾根俊雄が担当した。また、調査・整理の参加者は、下記の通りである。

   五十嵐正　岡田正夫　小松﨑利夫　山口晋一　吉田幸男

   石﨑清子　石﨑亘子　伊藤利江　　小山信子　木間塚千代子　鈴木真紀子　松浦正美　吉野文子

   なお、遺構・遺物の実測・トレースは小杉山・曾根・松浦が、採拓は小杉山・曾根・石﨑（清）・石﨑（亘）・伊藤・小山・木間塚・鈴木・松浦・吉野が行った。
4. 本書の執筆は、Ⅰ～Ⅲ、Ⅴ、Ⅵを曾根、Ⅳを小杉山が行った。編集は小杉山・曾根が分担して行った。
5. 調査に関する遺物・図面・写真等の資料はすべて石岡市教育委員会で保管している。
6. 現地調査及び報告書刊行に当たっては下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。ここに記して、感謝申し上げる次第である。（敬称略・五十音順）

   大橋泰夫　川口武彦　木本挙周　中村哲也　比毛君男　松本太郎　三井 猛　山路直充　　茨城県教育庁文化課
7. 事務局は下記の通りである。

   石橋　凱（教育長）、高野喜市郎（教育部長）、立川芳男（次長）、真家　忠（生涯学習課長）、吉川　隆・箕輪健一（生涯学習課課長補佐）、木植　繁・小河原　修・鬼澤将隆・小杉山大輔（生涯学習課係長）、武川加代子・中里洋一・加藤幸恵・萩原幸子・曾根俊雄・金澤史典・長島万梨映（課員）

凡　　例

1. 本書使用の方位は磁北である。ただし、都市計画図を利用した調査地点位置図については座標北である。
2. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、平瓦・丸瓦が１／６、土器・軒丸瓦・軒平瓦が１／３、鉄製品が１／２、石器が１／３（剥片は４／５）を基本とした。

   なお、それ以外の縮尺の場合はその都度、実測図に縮尺を明記した。

目　次

例　言

凡　例

目　次

Ⅰ　調査の概要

1　調査の概要 …… 1

2　試掘調査の方法 …… 1

Ⅱ　試掘調査（平成 23 年度）

1　尼寺ヶ原遺跡 …… 4

2　木間塚遺跡 …… 4

3　木間塚遺跡 …… 5

4　東ノ辻遺跡 …… 5

5　鹿の子遺跡（第 25 次）…… 6

6　野田（未周知） …… 6

7　野田館跡 …… 7

8　山崎（未周知）…… 7

9　鹿の子遺跡（第 26 次）…… 7

10　柿岡（未周知）…… 8

11　大塚遺跡…… 8

12　柿岡池下遺跡（第 1 地点－ 4 ）…… 8

13　宮部遺跡（第 4 地点）……10

14　鹿の子遺跡（第 29 次） ……10

15　片野柳原遺跡……11

16　常陸国分寺跡……11

17　鹿の子遺跡（第 30 次） ……12

18　柿岡池下遺跡（第 1 地点－ 5 ）……13

19　国分遺跡……13

20　木間塚遺跡……14

21　大増（未周知）……15

22　鹿の子遺跡（第 31 次） ……15

23　申内遺跡……15

24　鹿の子遺跡（第 32 次） ……15

25　長原（未周知）……16

26　鹿の子遺跡（第 33 次） ……16

27　鹿の子遺跡（第 34 次） ……17

28　鹿の子遺跡（第 35 次） ……17

29　宇治会（未周知）……18

30　国分遺跡……19

31　山崎（未周知）……19

32　木間塚遺跡……21

33　鹿の子遺跡（第 36 次） ……21

34　鹿の子遺跡（第 37 次） ……21

35　大塚遺跡……23

36　小目代遺跡……23

37　富田遺跡……23

38　鹿の子遺跡（第 38 次） ……25

39　鹿の子遺跡（第 39 次） ……25

40　国分遺跡……25

41　宮部遺跡（第 5 地点）……25

42　尼寺ヶ原遺跡……27

43　尼寺ヶ原遺跡……27

44　国分遺跡……28

45　東成井（未周知）……28

46　弥陀ノ台遺跡……29

47　狐塚遺跡……29

Ⅲ　確認調査（平成 23 年度）

1　茨城廃寺跡（第 4 次） ……30

Ⅳ　発掘調査

1　白久台遺跡　5 次調査（ 2 ）遺物編 ……32

Ⅴ　その他の調査

1　旭遺跡 ……49

2　小倉古墳群 ……49

3　丸山古墳群 ……49

4　長堀 6 号墳 ……50

Ⅵ　埋蔵文化財包蔵地の新規登録と範囲変更……51

報告書抄録

Ⅰ　調 査 の 概 要

1　調査の概要

試掘調査は基本的には遺跡の範囲内を行うが、範囲外であっても現地踏査の結果、地形等から遺跡の存在する可能性があると判断した場合、または、開発面積が広大である場合には範囲外であっても試掘調査を行った。また、現地踏査を行った結果、アスファルトなどで覆われていて遺跡の現状が把握しきれなかったものに対しては、試掘調査を必ずしも行わず、工事立会いを行ったものもある。

2　試掘調査の方法

試掘調査は開発予定地内に数㎡の大きさのトレンチを設定し、重機（バックホー）及び人力により、地山上面まで掘り下げ、遺構の有無を確認した。遺構か否か判断が困難な場合は、サブトレンチを設定するなど一部精査を行い、遺構の確認をおこなった。また、遺跡の時期や性格を判断するため、遺構であっても、あえてサブトレンチを設定し、掘り下げた場合もある。遺物は表面採集、トレンチ覆土中出土、遺構出土にわけて取り上げた。

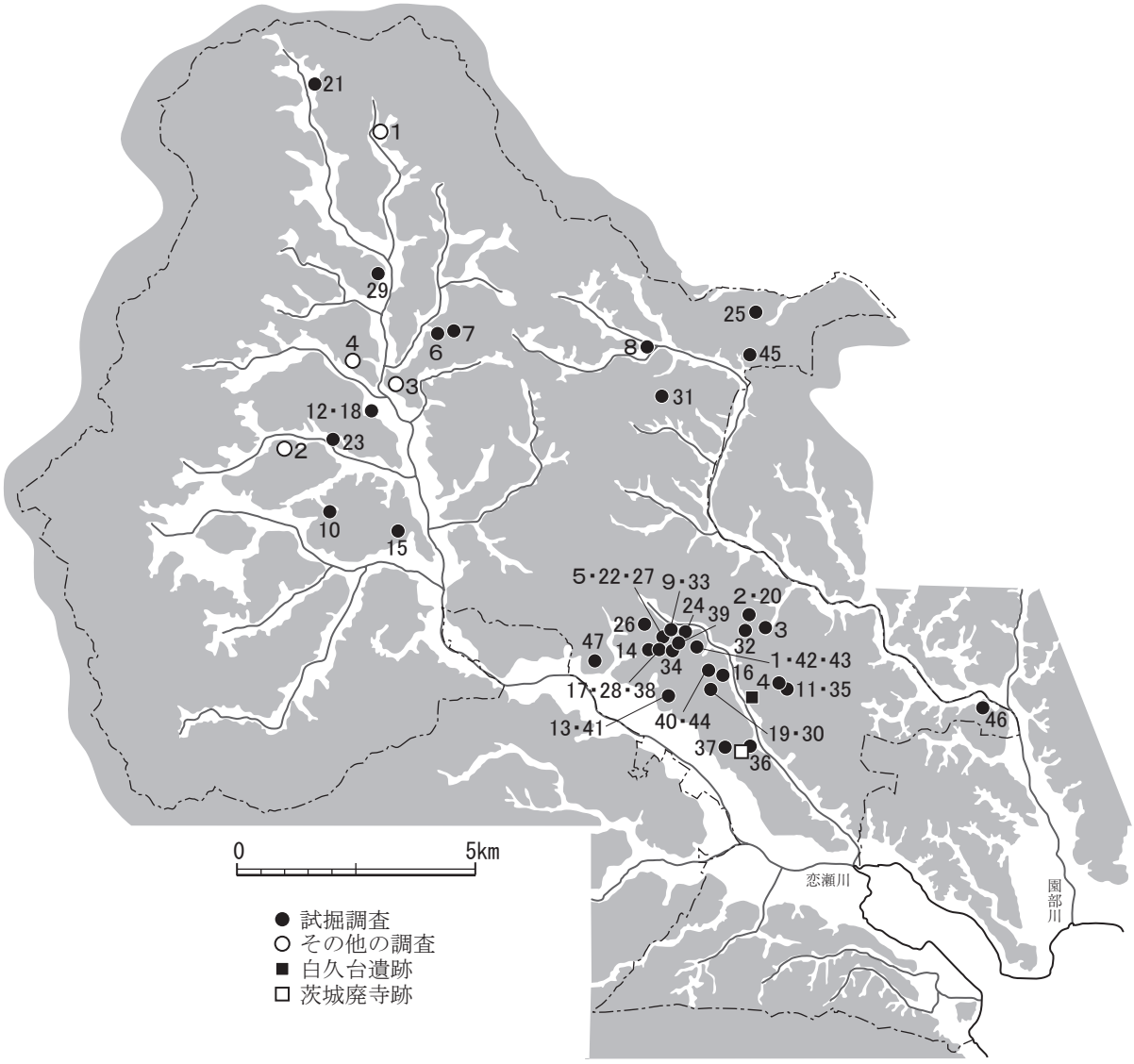


図１　本書所収の遺跡位置図

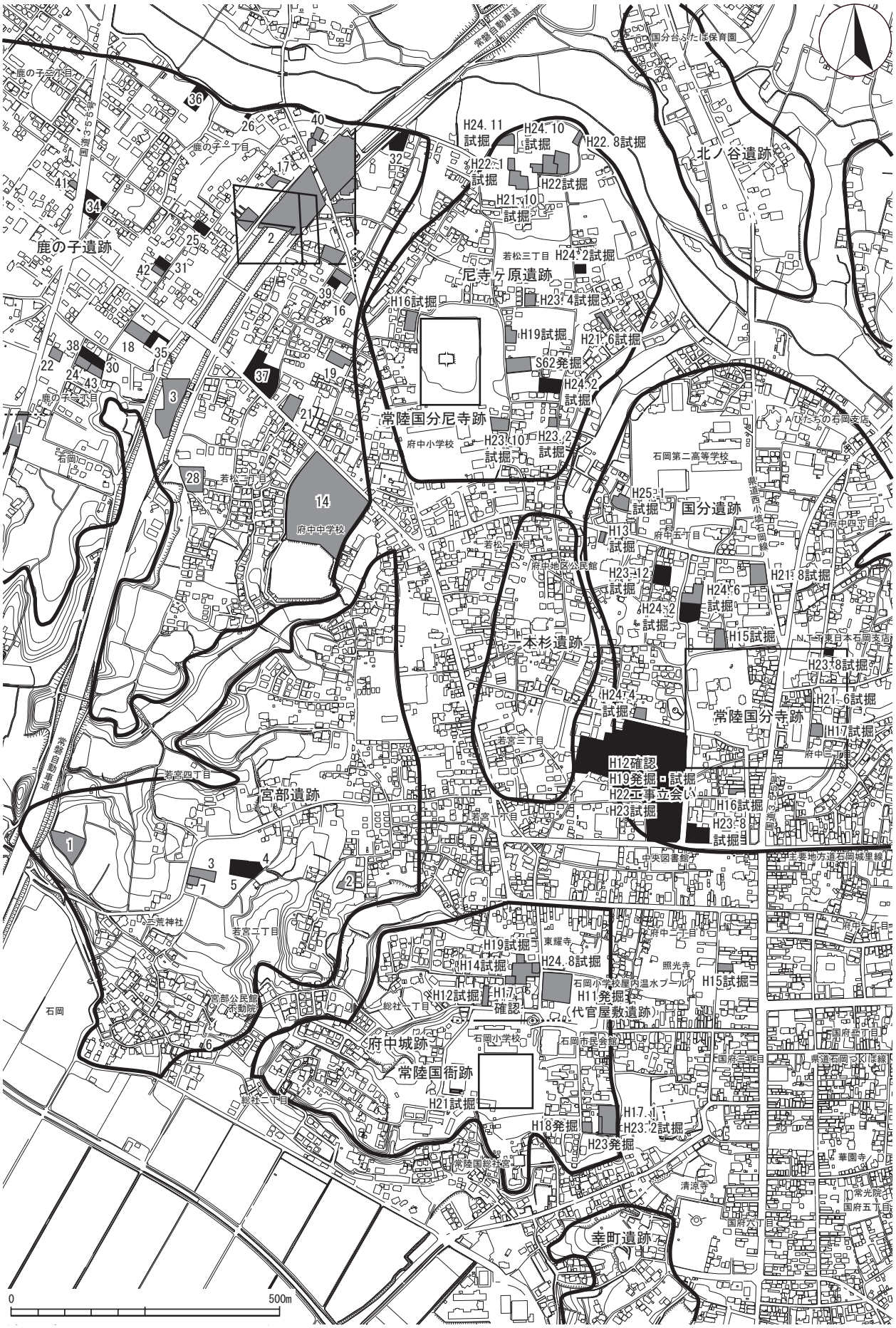


図２　常陸国衙跡・常陸国分寺跡・常陸国分尼寺跡ほか調査地点位置図（S=1/10,000）

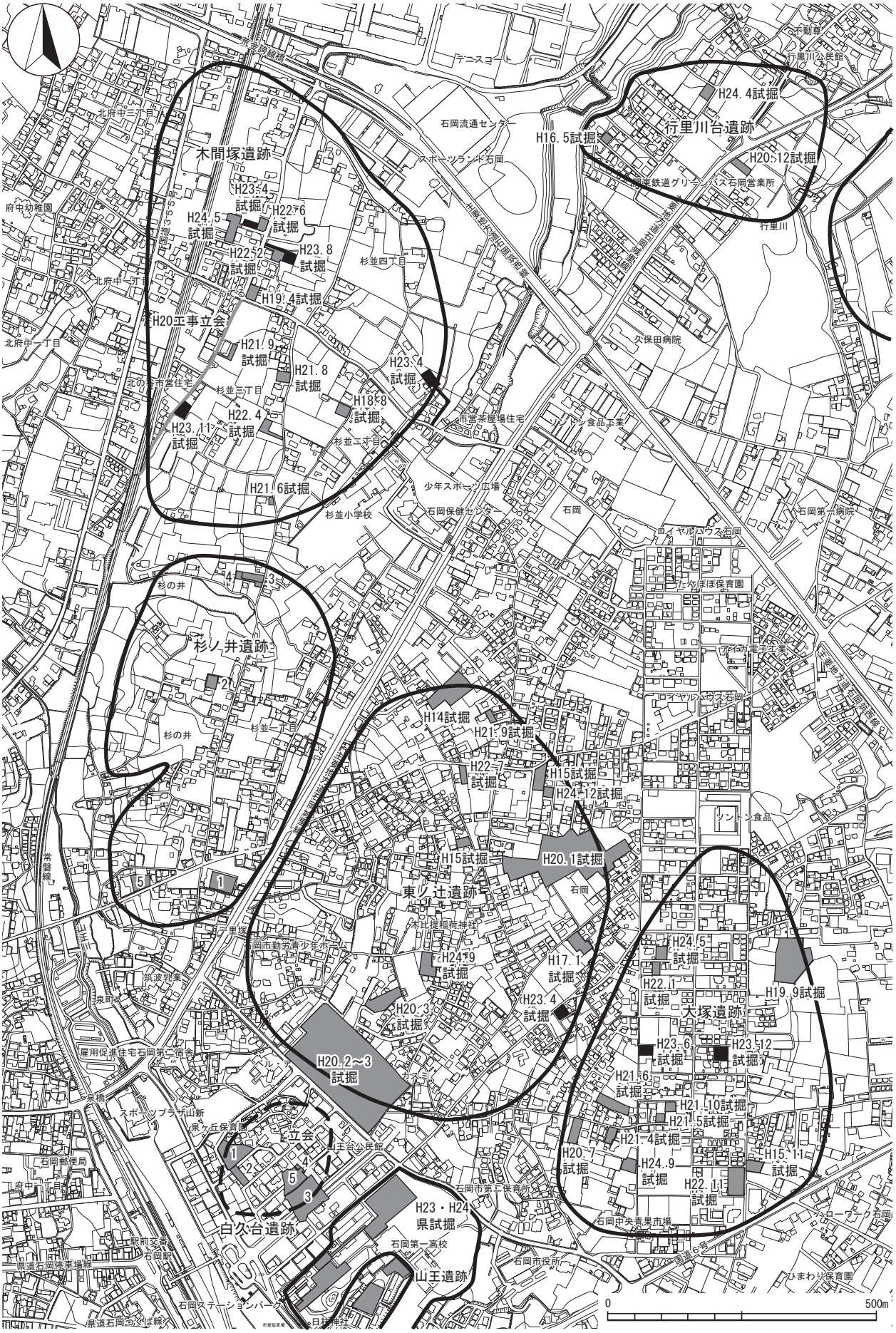


図３　木間塚遺跡・東ノ辻遺跡・大塚遺跡ほか調査地点位置図（S=1/10,000）

Ⅱ　試掘調査（平成23年度）

1　尼寺ヶ原遺跡

①所在地　石岡市若松３丁目8653　**②開発面積**　428㎡　**③調査日**　平成23年４月７日、６月21日　**④調査原因**　長屋住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄・小杉山大輔　**⑥調査概要**　開発区域内に８ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴住居跡２軒（SI01･02）と土坑１基（SK01）を確認した。遺構確認面までの深さは60cm程度。試掘トレンチより土師器・須恵器片が、SI01より瓦片が出土している。

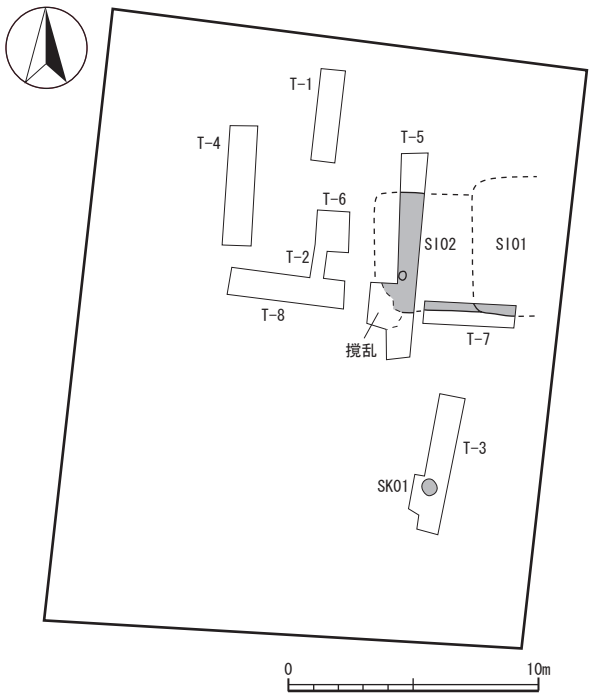


図４　尼寺ヶ原遺跡　全体図（S=1/300）

2　木間塚遺跡

①所在地　石岡市杉並４丁目12215番58　**②開発面積**　286㎡　**③調査日**　平成23年４月12日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に３ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構･遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは80 ～ 90cm程度。なお、東側隣接地、西側隣接地の試掘調査をそれぞれ平成22年６月、平成24年５月に実施しているが、遺構は確認されていない。　**⑦遺物**　開発地および周辺で採集した遺物を紹介する。１は土師質土器の皿。口径75mm、器高25mm、底径33mm。外面は淡赤褐色、橙褐色、内面は明赤褐色。

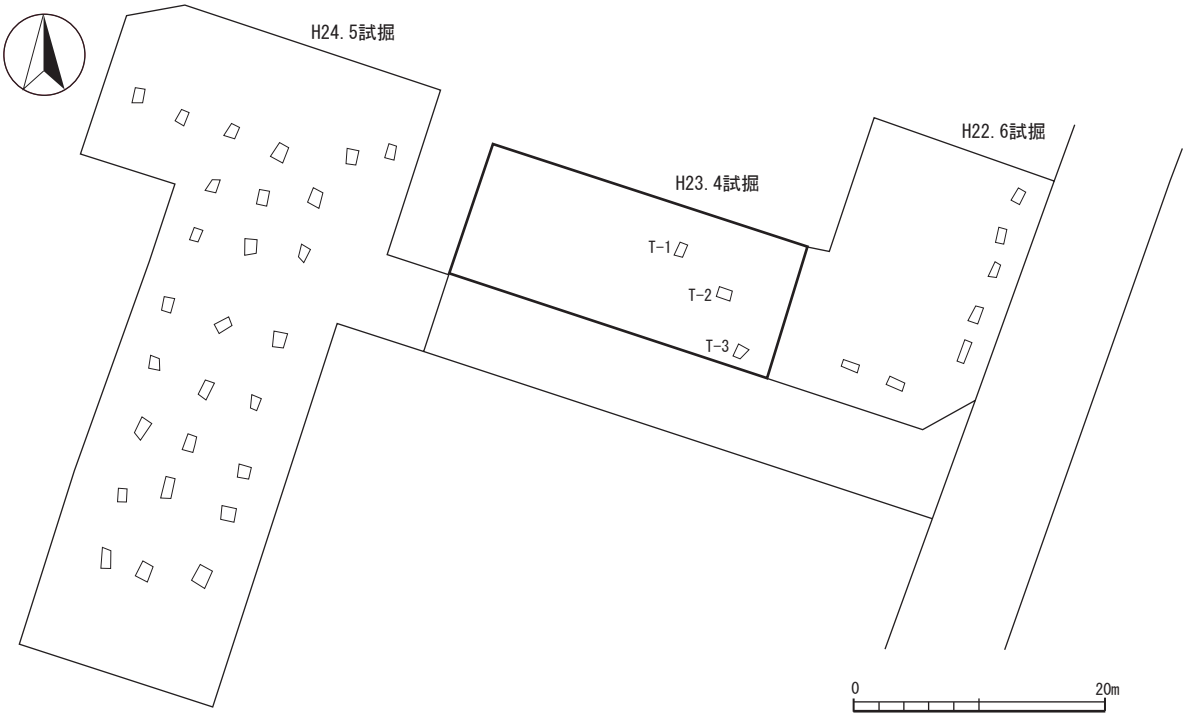


図５　木間塚遺跡　全体図（S=1/500）

黒雲母・白雲母・砂粒多量、骨針・白色粒微量含む。焼成やや良。底部回転糸切り。25%残存。２は不明土製品。淡褐色。白色粒・砂粒少量、黒色粒微量含む。焼成やや良。

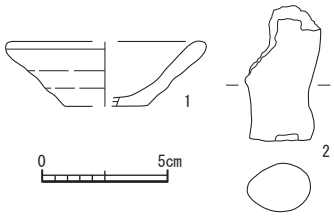


図６　木間塚遺跡出土遺物（S=1/3）

３　木間塚遺跡

①所在地　石岡市杉並４丁目12967-10ほか　**②開発面積**　999㎡　**③調査日**　平成23年４月21日　**④調査原因**　賃貸住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に４ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは25 ～ 40cm程度。

４　東ノ辻遺跡

①所在地　石岡市石岡字東ノ辻2860番　**②開発面積**　417㎡　**③調査日**　平成23年４月25日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは20 ～ 40cm程度。

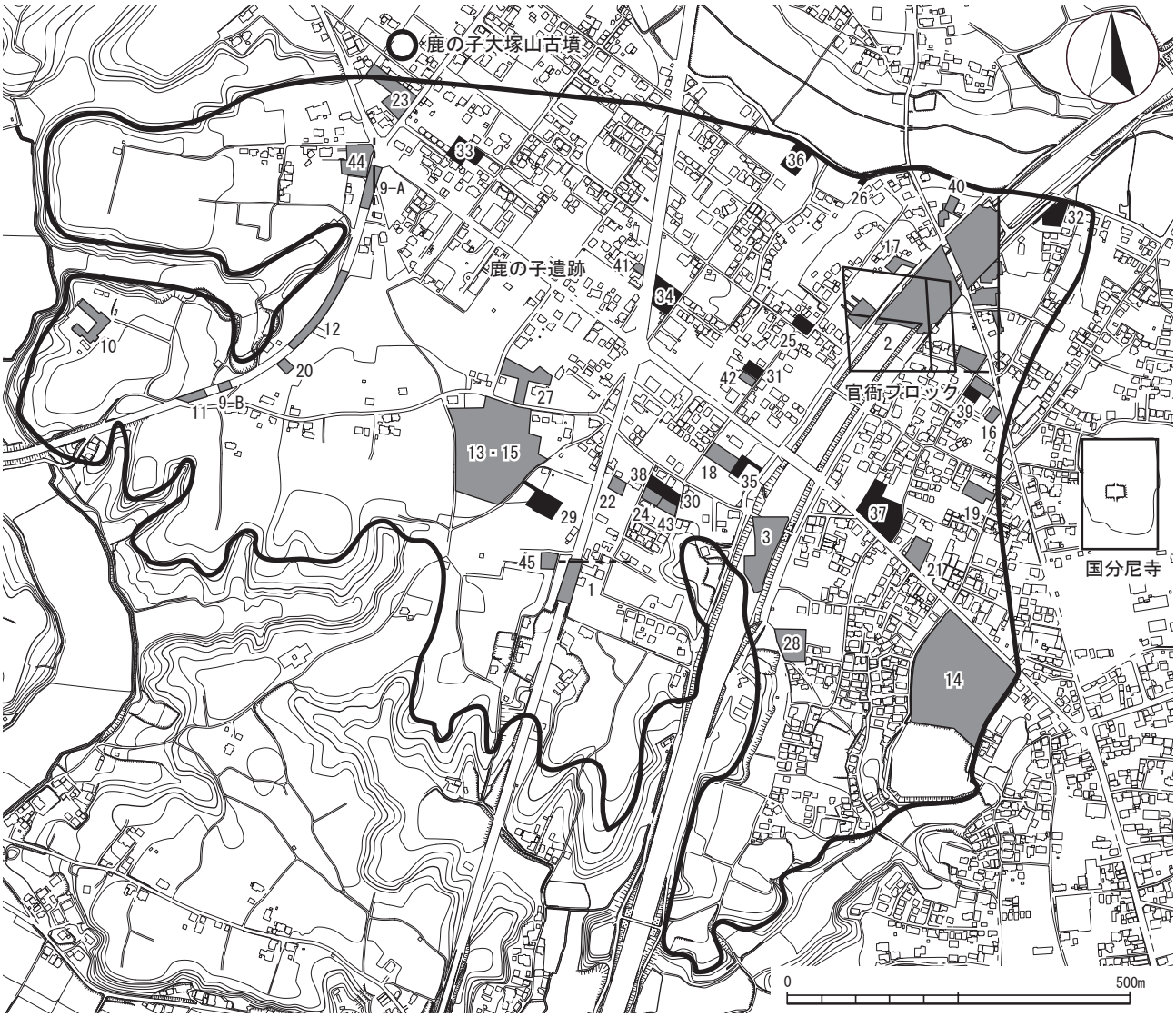


図７　鹿の子遺跡　調査地点位置図（S=1/10,000）

5　鹿の子遺跡（第25次）

①所在地　石岡市鹿の子１丁目9412-１, 9412-８　**②開発面積**　533㎡　**③調査日**　平成23年５月９日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**

開発区域内に10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは60cm程度。　**⑦遺物**　１は土師質土器の皿。淡褐色。砂粒多量、黒雲母・白雲母微量含む。表面採集。２はポピー製､銀河鉄道999のスタートレイン(縮尺１/170)。333・ベガラス３号（商品番号SG-03)。1978年製か。試掘トレンチ出土。

図８　鹿の子遺跡（第 25 次）　出土遺物

6　野田（未周知）

①所在地　石岡市野田116-２, 117-２　**②開発面積**　35㎡　**③調査日**　平成23年５月16日　**④調査原因**　防火水槽設置　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　周知の遺跡の範囲外であるが、現地踏査の結果、開発地の南側周辺地において遺物が採集されたため試掘調査を行った、開発区域内に４ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは25 ～ 40cm程度。遺跡の散布が認められる南側の周辺地については「野田田向遺跡」として平成23年５月20日付で茨城県教育委員会に「遺跡発見の通知」を提出した。　**⑦遺物**　野田田向遺跡で採集した土器を紹介する。１は弥生土器の壺。外面は赤褐色、内面は淡褐色。白色粒・半透明粒多量、白色粒･砂粒を含む。２は土師器の坏。外面は淡橙褐色、内面は淡暗褐色。白雲母多量、砂粒・白色粒少量含む。３は橙褐

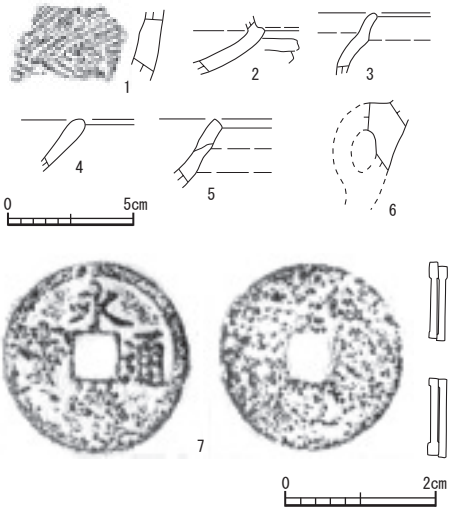


図９　野田田向遺跡
採集遺物（S=1/3）

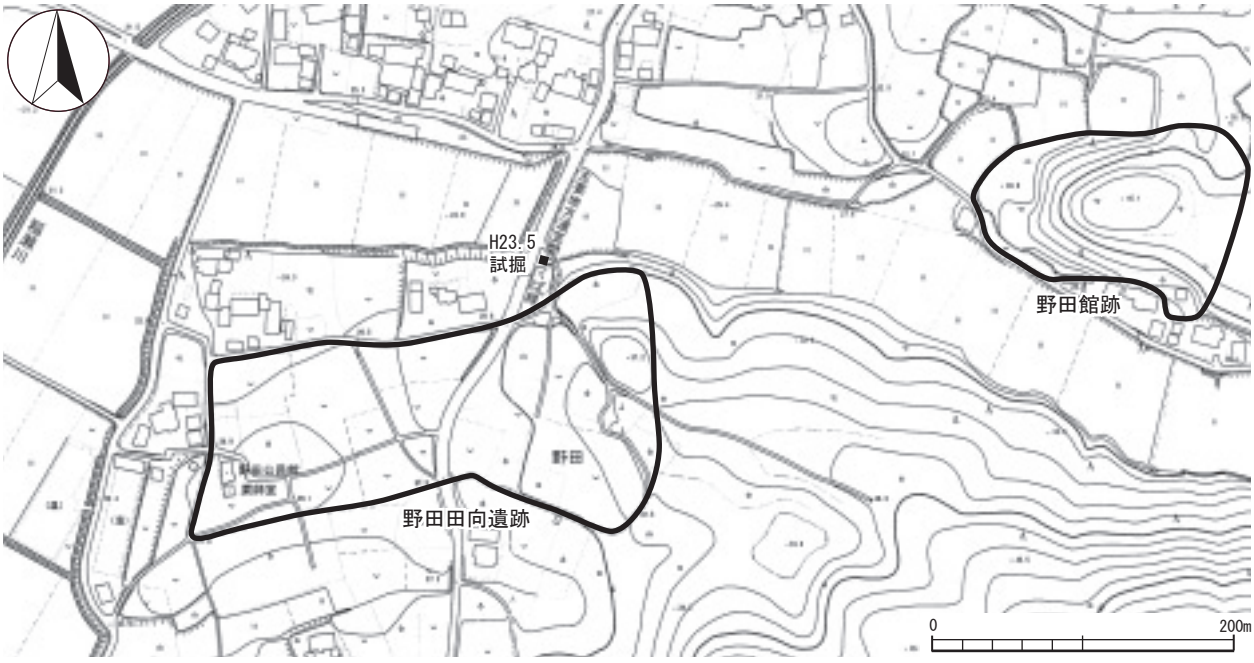


図 10　野田　調査地点位置図（S=1/5,000）

色。白色粒含むほか、白雲母微量。4・5は土師質土器の小皿。4は外面暗褐色、内面にぶい褐色。白色粒少量、角閃石・透明粒・黄褐色粒微量含む。5は外面にぶい赤褐色～淡暗赤褐色、内面淡暗赤褐色。黒雲母・白雲母多量、赤色粒・骨針微量、白色粒含む。焼成やや良。6は土師質土器の鍋。明赤褐色。黒雲母・砂粒多量含む。内面に油煙粒付着。7は銭貨。2枚癒着。永楽通宝1枚他不明。

7　野田館跡（位置修正）

①所在地　石岡市野田・瓦谷　**②開発面積**　175,000㎡　**③調査日**　平成23年5月16日、11月16日～24日　**④調査原因**　農道整備　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　周知の遺跡の範囲外だが、現地踏査の結果、遺物（奈良・平安時代）の散布や土塁状遺構が認められ、遺跡の存在する可能性が考えられたため試掘調査を行った。開発区域内に59ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、中世の土器が出土したほか、中世の城館に伴うと考えられる土塁や整地面を確認した。この開発に伴い、平成24年度に発掘調査を実施し、『野田館跡―農村交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査―』（2013年）を刊行している。詳細は発掘調査報告書に譲る。

写真1　野田館跡

8　山崎（未周知）

①所在地　石岡市山崎3293-2　**②開発面積**　35㎡　**③調査日**　平成23年5月18日　**④調査原因**　防火水槽設置　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　周知の遺跡の範囲外であるが、現地踏査の結果土器が表面採集されたため試掘調査を行った。開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

⑦遺物　1は擂鉢。外面明灰色、内面灰色。白雲母少量、骨針微量、白色粒含む。外面に油煙付着。焼成やや不良。表面採集。2は土師質土器の小皿。淡橙褐色。黒雲母・白雲母多量、赤色粒・黒色粒微量、白色粒含む。表面採集。

図11　山崎　調査地点位置図（S=1/15,000）

9　鹿の子遺跡（第26次）

①所在地　石岡市鹿の子1丁目9419-1　**②開発面積**　35㎡　**③調査日**　平成23年5月23日　**④調査原因**　防火水槽設置　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、埋没谷が確認されたが、遺構・遺物は確認さ

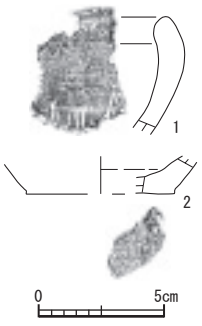


図12　山崎
採集遺物（S=1/3）

写真2　鹿の子遺跡（第26次）調査風景

れなかった。また、各トレンチにおいて埋没谷の掘り下げを行ったところ、湧水が認められた。谷覆土中からも遺物の出土はない。

10　柿岡（未周知）

①所在地　石岡市柿岡字富士谷719-１　**②開発面積**　581㎡　**③調査日**　平成23年５月25日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当**者　曾根俊雄　**⑥調査概要**　周知の遺跡の範囲外であるが、現地踏査の結果、土師器・須恵器が表面採集されたため試掘調査を行った。開発区域内に６ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

11　大塚遺跡

①所在地　石岡市石岡字東ノ辻14002　**②開発面積**　378㎡　**③調査日**　平成23年６月３日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に７ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは30 ～ 50cm程度。

12　柿岡池下遺跡（第１地点－4）

①所在地　石岡市柿岡3023-10　**②開発面積**　298㎡　**③調査日**　平成23年６月７日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発地およびその周辺は平成17年度に宅地造成に伴う試掘調査により遺跡が確認され（第１地点、小杉山2006）、平成18年度に道路部分について発掘調査を実施し、古墳時代中期の竪穴住居跡１軒などが確認されている（第１地点－１、小川・小杉山2007）。また、試掘調査を平成21年度

写真３　柿岡池下遺跡（第１地点－４）
全景（南東から）

写真４　SI01 調査風景（北から）

写真５　SI01 柱穴遺物出土状況

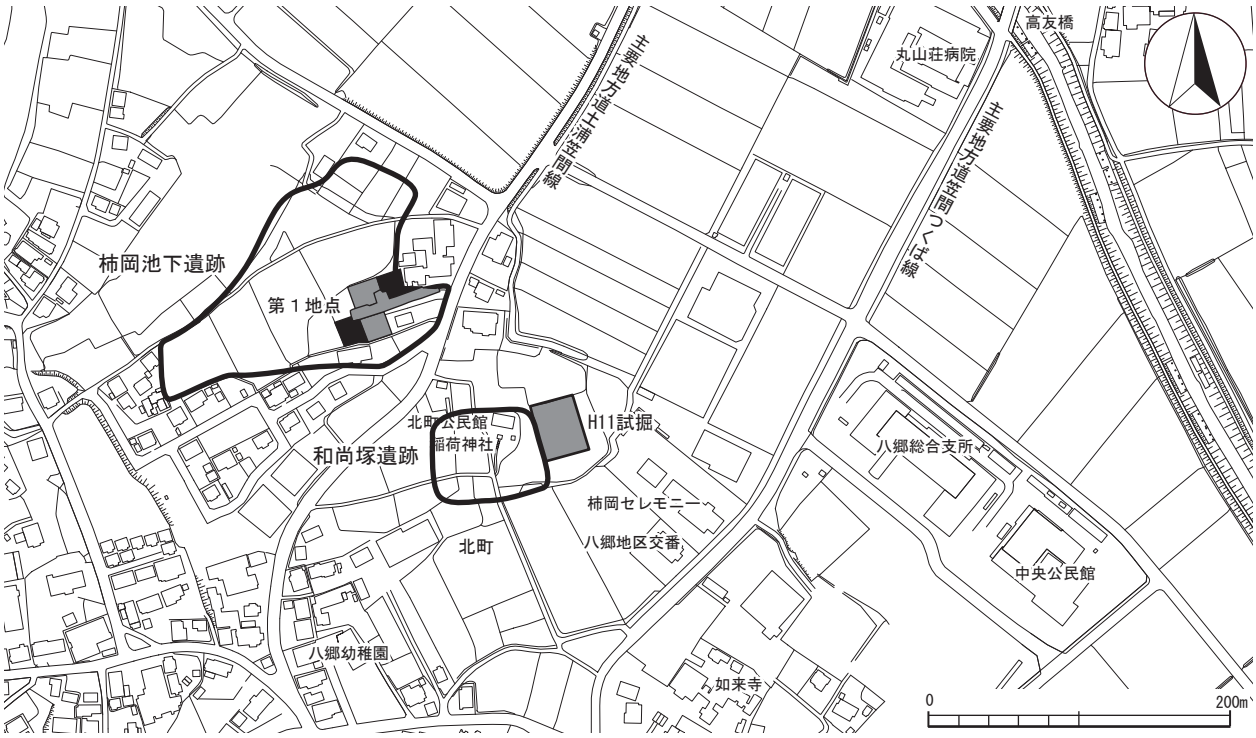


図 13　柿岡池下遺跡　調査地点位置図（S=1/5,000）

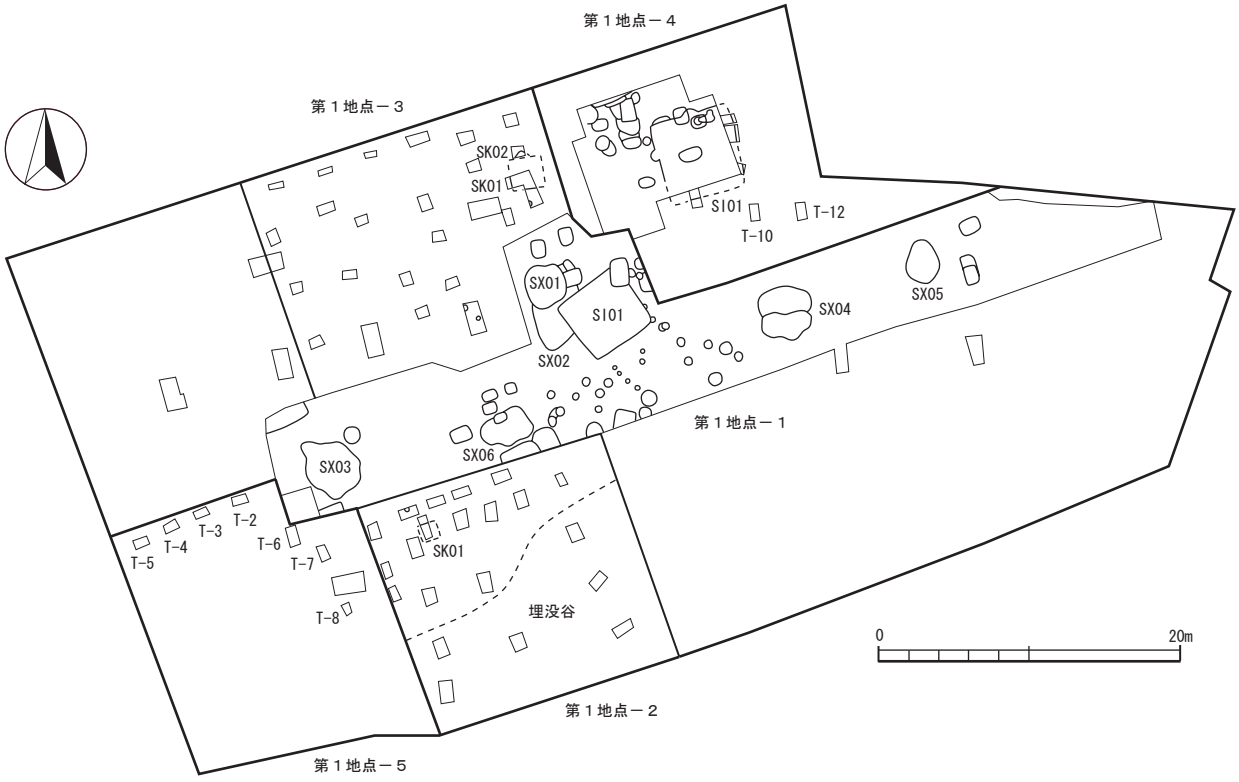


図 14　柿岡池下遺跡（第 1 地点）全体図（S=1/500）

（第 1 地点－ 2、小杉山・曾根2011）、平成22年度（第 1 地点－ 3、小杉山・曾根2012）に実施している。開発区域内に12 ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、古墳時代後期の竪穴住居跡や土坑を確認した。この開発に伴い、平成23年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

<引用文献>小杉山大輔2006『石岡市内遺跡調査報告書』石岡市教育委員会

小川和博・小杉山大輔2007『柿岡池下遺跡　発掘調査報告書』石岡市教育委員会

小杉山大輔・曾根俊雄2011『市内遺跡調査報告書　第６集』石岡市教育委員会
小杉山大輔・曾根俊雄2012『市内遺跡調査報告書　第７集』石岡市教育委員会

13　宮部遺跡（第4地点）

①所在地　石岡市若宮2丁目156-２　**②開発面積**　596㎡　**③調査日**　平成23年７月19日、25日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に16ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴住居跡や土坑を確認した。この開発に伴い、平成24年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。なお、西側隣接地の試掘調査（第５地点）を平成24年１月に実施している（「41　宮部遺跡（第５地点）」）。

14　鹿の子遺跡（第29次）

図 15　鹿の子遺跡（第 29 次）全体図（S=1/1,500）

①**所在地**　石岡市鹿の子２丁目2728番、2720番５　②**開発面積**　1,337㎡　③**調査日**　平成23年７月21日　④**調査原因**　資材置き場　⑤**調査担当者**　曾根俊雄　⑥**調査概要**　鹿の子遺跡の中央部、第13・15次調査地点の東側隣接地にあたる。第13・15次調査地点では羽口や多量の椀形滓が出土しており、複数の鍛冶工房の存在が予想されている（小杉山・曾根2008、小杉山・曾根2011）。開発区域内に６ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、土器片（奈良・平安時代）が数片出土したが、遺構は確認されなかった。また、開発区域の東側において埋没谷を確認した。トレンチ内は谷覆土を完掘したが、遺物は出土していない。埋没谷は100m程東側にあたる第22・24・38次調査地点（小杉山・曾根2012）でも確認されており、第13・15次調査地点と第３次調査地点（鹿の子Ａ遺跡）との間には谷が入り込んでいたことになる。　⑦**遺物**　１は須恵器の蓋。外面暗灰色、内面灰色。砂粒少量、長石･骨針微量含む。焼成良好。木葉下産。T-２出土。

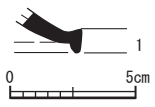


図 16　出土遺物
（S=1/3）

＜引用文献＞小杉山大輔・曾根俊雄2008『市内遺跡調査報告書　第3集』石岡市教育委員会

小杉山大輔・曾根俊雄2011「鹿の子遺跡について」『官衙・集落と鉄』第14回古代官衙・集落研究会報告書、奈良文化財研究所研究報告第６冊

小杉山大輔・曾根俊雄2012『市内遺跡調査報告書　第７集』石岡市教育委員会

写真６　鹿の子遺跡（第 29 次）東から
奥の建物が第 13・15 次調査地点

写真７　片野柳原遺跡
SI01 遺物出土状況（北西から）

15　片野柳原遺跡（新発見）

①**所在地**　石岡市片野324番地ほか　②**開発面積**　3,000㎡　③**調査日**　平成23年８月11日～17日　④**調査原因**　市道改良　⑤**調査担当者**　小杉山大輔　⑥**調査概要**　周知の遺跡の範囲外だが、現地踏査の結果、土器が採集されたため試掘調査を実施した。開発区域内に21ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、古墳時代中期の竪穴住居跡を確認したことから、「片野柳原遺跡」として平成23年８月23日付で「遺跡発見の通知」を茨城県教育委員会に提出した。この開発に伴い、平成23年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

16　常陸国分寺跡

①**所在地**　石岡市府中４丁目8167番１　②**開発面積**　196㎡　③**調査日**　平成23年８月18日　④**調査原因**　個人住宅建設　⑤**調査担当者**　曾根俊雄　⑥**調査概要**　開

写真８　常陸国分寺跡　T-3（北東から）

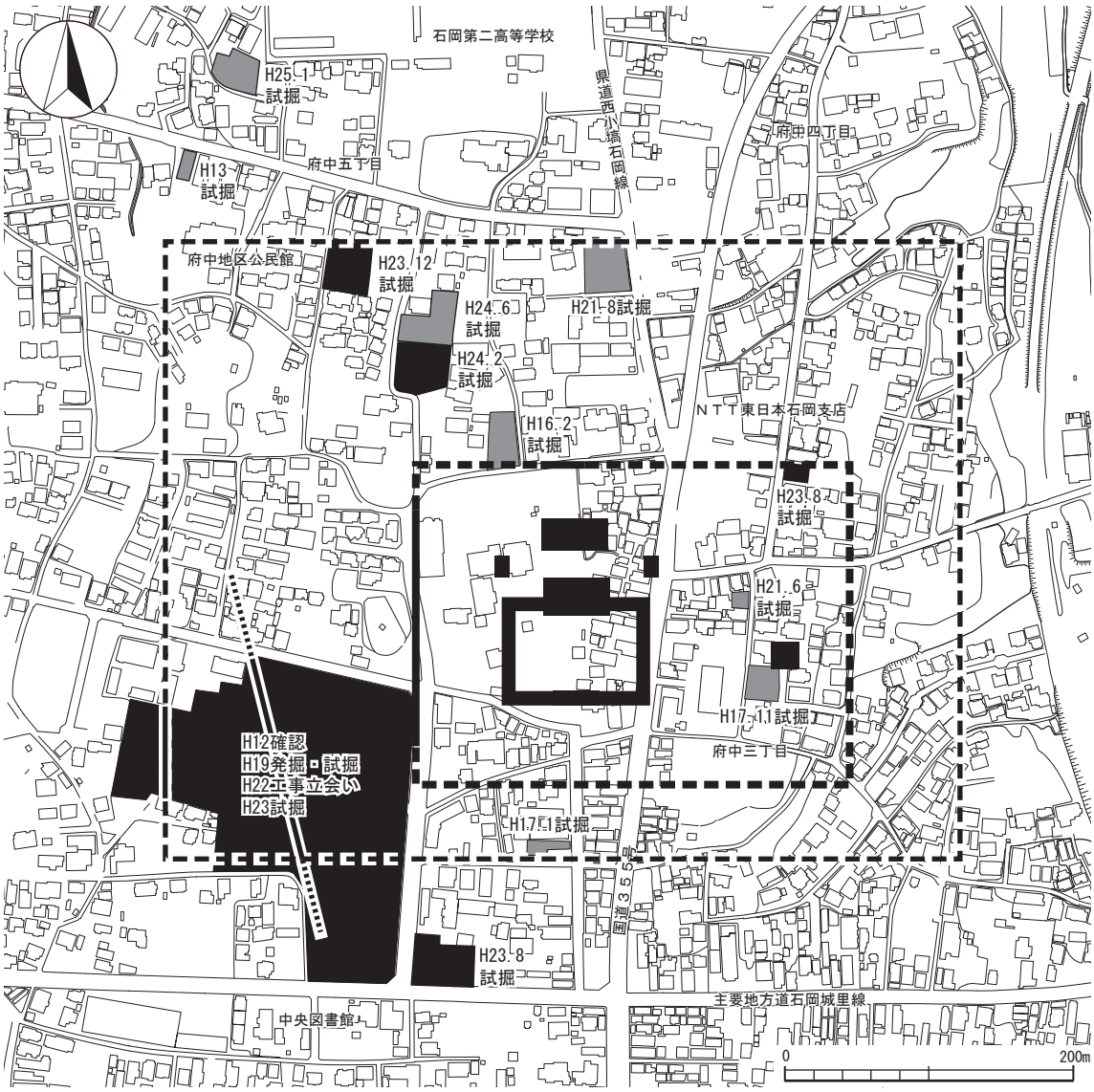


図 17　常陸国分寺跡・国分遺跡　調査地点位置図（S=1/5,000）

発地は国分寺跡伽藍地区画溝の北辺想定ラインにかかっていたため、この溝の確認を主目的に３ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定した。調査の結果、地表下20 ～ 30cm程度で地山（ハードローム）を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。　⑦**遺物**　1は土師器の坏。外面橙褐色、内面淡橙褐色。黒雲母多量、黒色粒少量、砂粒含む。表面採集。

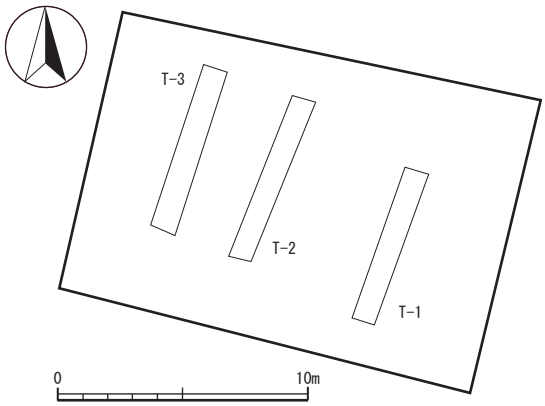


図 18　常陸国分寺跡　全体図（S=1/300）

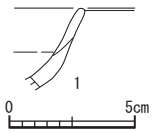


図 19　常陸国分寺跡　採集遺物（S=1/3）

17　鹿の子遺跡（第30次）

①所在地　石岡市鹿の子１丁目9361番４　**②開発面積**　408㎡　**③調査日**　平成23年８月23日、９月６日～ ８日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、平安時代の竪穴住居跡２軒や縄文時代の陥し穴１基などを確認した。この開

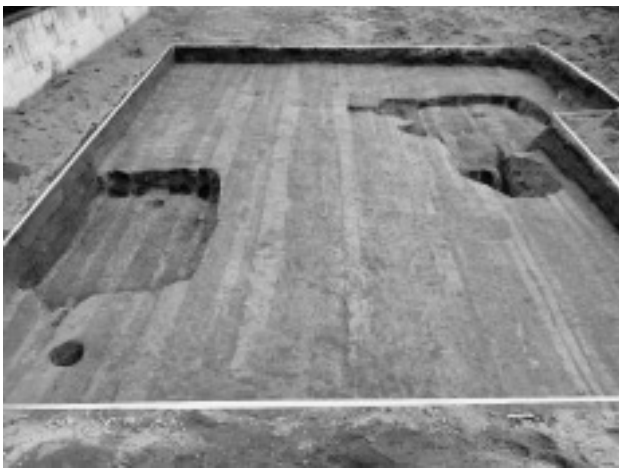


写真９　鹿の子遺跡（第 30 次）全景（西から）

写真 10　鹿の子遺跡（第 30 次）SK02（東から）

発に伴い、平成23年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

18　柿岡池下遺跡（第1地点－5）

①**所在地**　石岡市柿岡字池下3023番11　②**開発面積**　274㎡　③**調査日**　平成23年８月25日　④**調査原因**　個人住宅建設　⑤**調査担当者**　曾根俊雄　⑥**調査概要**　開発区域内に８ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構･遺物は確認されなかった。

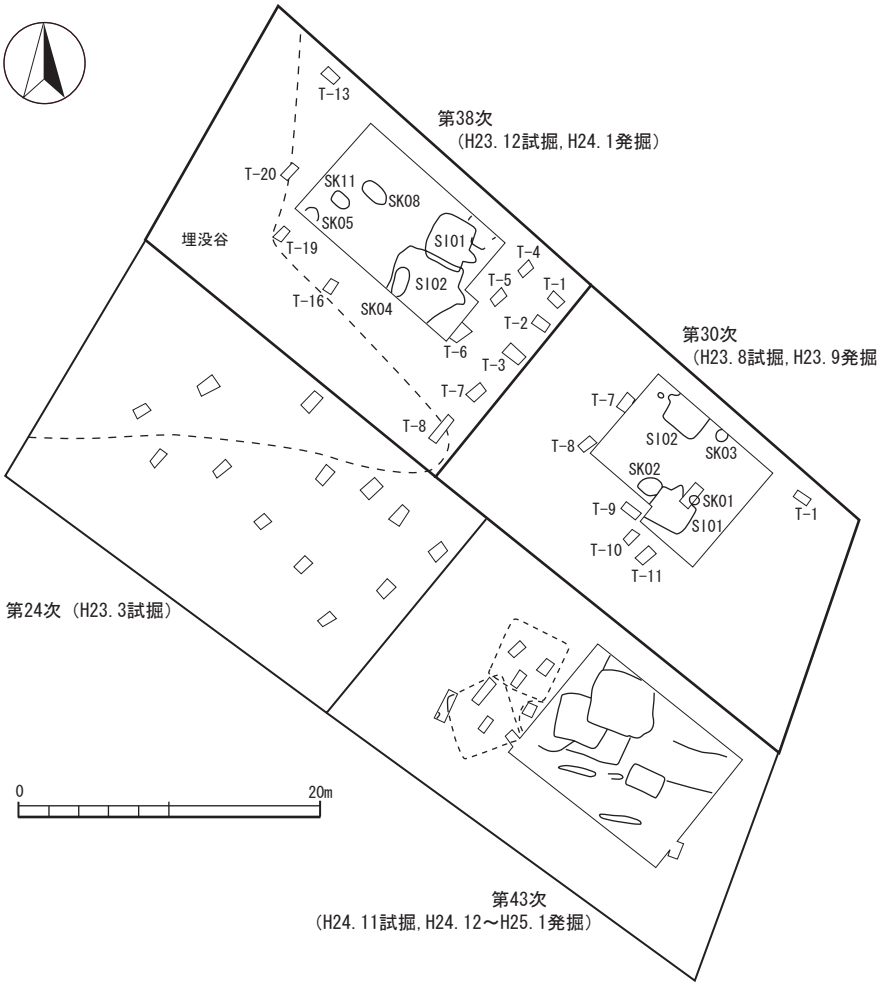


図 20　鹿の子遺跡（第 30・38 次）全体図（S=1/500）

19　国分遺跡

①**所在地**　石岡市府中３丁目874,873-２　②**開発面積**　1,290㎡　③**調査日**　平成23年８月31日　④**調査原因**　コンビニエンスストア建設　⑤**調査担当者**　曾根俊雄　⑥**調査概要**　開発区域内に３ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴住居跡3軒を確認した。遺構確認面までの深さはT-１では70cm程度、T-３では90～120cm程度。 なお、T-１の北端において遺構が確認されたため、土地所有者のご協力のもと、開発区域外までトレンチを延長した。　⑦**遺物**　１は軒平瓦。黒褐色。白色粒・黄褐色粒少量、半透明粒・白雲母・黒色粒微量含む。7260型式。T-１、SI01出土。２は須恵器の坏。灰褐色。白雲母、角閃石少量、白色粒･黄褐色粒微量含む。焼成やや不良。T-１サブトレンチ出土。３は須恵器の坏。灰褐色。黒雲母多量、白雲母、黄褐色粒微量含む。焼

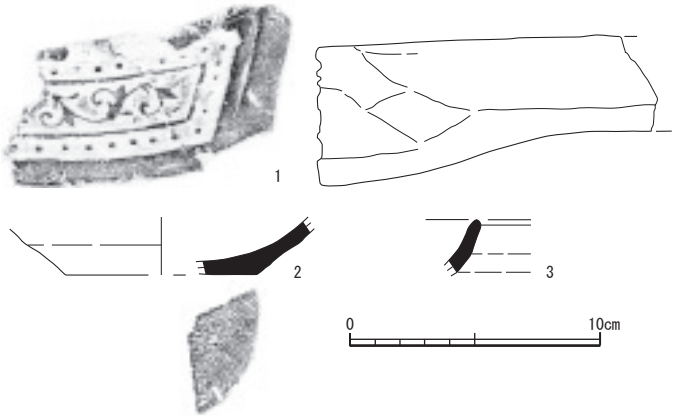


図 21　国分遺跡　出土遺物（S=1/3）

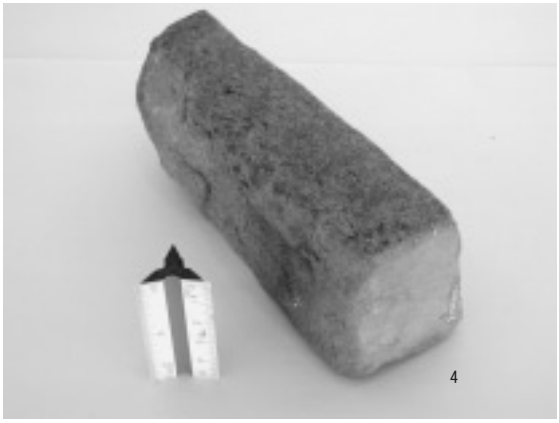


写真 11　国分遺跡　出土遺物

写真 12　T-1（北から）

写真 13　青柳新兵衛商店　米蔵・煉瓦門
（大正 5 年ないし大正 10 年建築）

成やや不良。T-1 サブトレンチ出土。4 は煉瓦。T-1 出土。開発地は「青柳新兵衛商店」の一角に位置するが、青柳新兵衛商店は明治以降建てられた商家建築がほぼ当時のまま良好に遺存している（写真13）。また、当時の近代化を象徴する材料のひとつである煉瓦が積極的に使用されており、歴史的建造物としてだけではなく地方における近代化遺産としても評価されている。本資料は現存する建物、もしくはすでに解体されてしまった遺構に伴うものと考えられる。

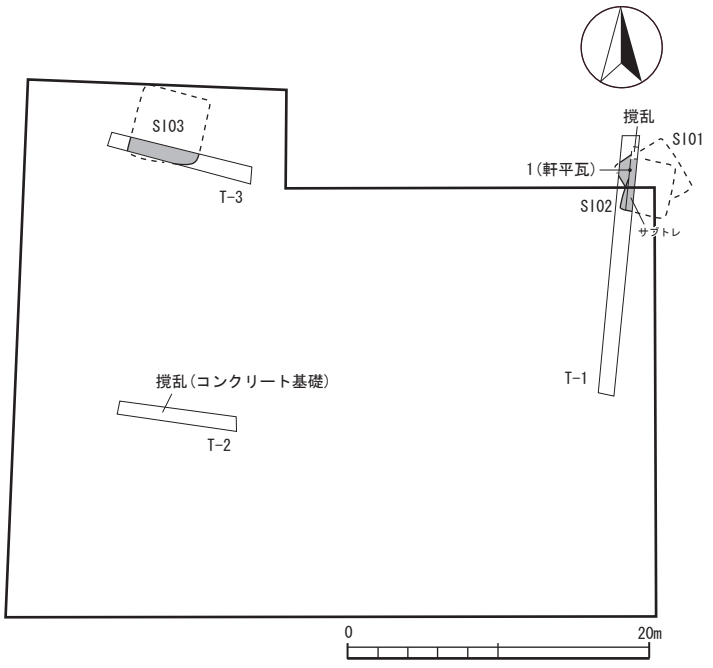


図 22　国分遺跡　全体図（S=1/500）

20　木間塚遺跡

①所在地　石岡市杉並 4 丁目12973-59　**②開発面積**　587㎡　**③調査日**　平成23年 9 月14日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に 6 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは50 ～ 70cm程度。なお、西側隣接地の試掘調査を

平成22年２月に実施しているが、遺構・遺物は確認されていない。

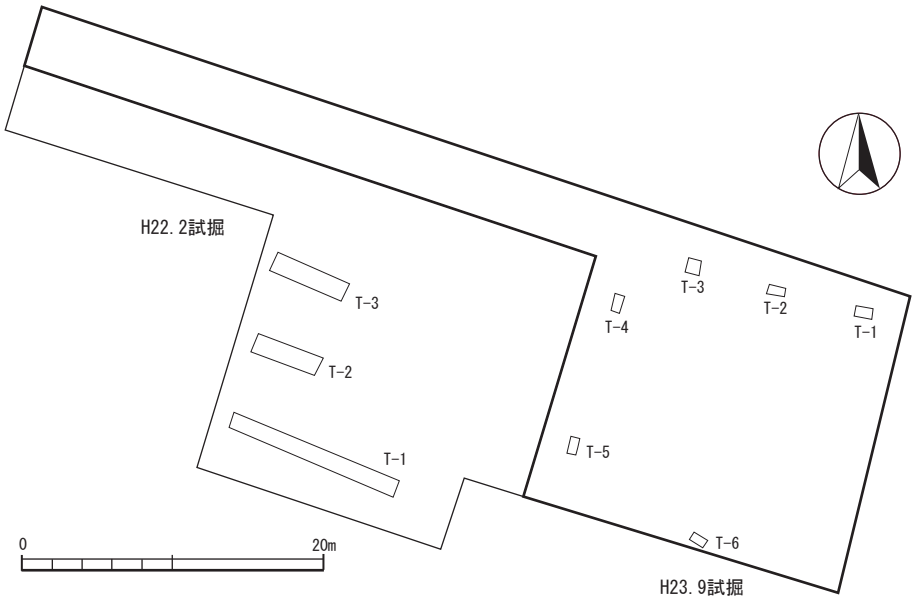


図23　木間塚遺跡　全体図（S=1/500）

21　大増（未周知）

①所在地　石岡市大増字宮台1959番３　**②開発面積**　879㎡　**③調査日**　平成23年９月22日　**④調査原因**　作業所兼資材置場　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　周知の遺跡の範囲外であるが、現地踏査の結果縄文土器が採集されたため試掘調査を実施した。開発区域内に10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

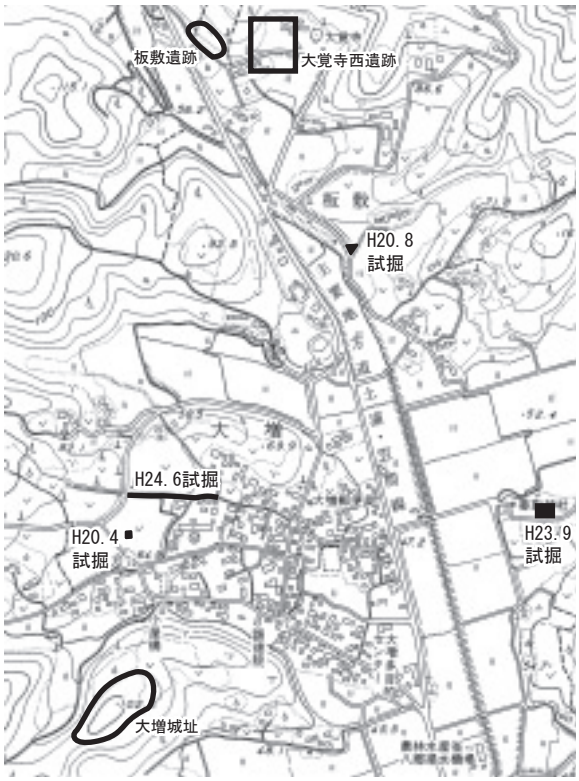


図24　大増　調査地点位置図（S=1/15,000）

22　鹿の子遺跡（第31次）

①所在地　石岡市鹿の子１丁目9375番13　**②開発面積**　380㎡　**③調査日**　平成23年９月26日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に７ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

23　申内遺跡

①所在地　石岡市柿岡字申内1735番２　**②開発面積**　429㎡　**③調査日**　平成23年10月３日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

24　鹿の子遺跡（第32次）

①所在地　石岡市若松３丁目8813番１　**②開発面積**　1,264㎡　**③調査日**　平成23年10月４日　**④調査原因**　建売住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に５ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、縄文土器･土師器片が出土したが、遺構は確認されなかった。　**⑦遺物**　１は繊維を含む縄文時代前期の土器。外面淡褐色～黒褐色、内

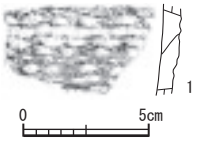


図25　鹿の子遺跡（第32次）出土遺物（S=1/3）

面にぶい赤褐色。砂粒多量、黒雲母・骨針少量含む。焼成やや不良。T-4出土。

25　長原（未周知）

①所在地　石岡市真家字長原2833番51ほか　**②開発面積**　2,683㎡　**③調査日**　平成23年10月6日　**④調査原因**　駐車場及び進入路　**⑤調査担当者**　曾根俊雄

⑥調査概要　周知の遺跡の範囲外であるが、長原遺跡の隣接地にあたることから試掘調査を行った。長原遺跡は、国道355号石岡岩間バイパス整備に伴い茨城県教育財団によって発掘調査が行われ、縄文時代の陥し穴が検出されている（大久保2010）。開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。なお、南側隣接地の試掘調査を平成25年3月に実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

<引用文献>大久保隆史2010『猫松遺跡　長原遺跡―国道355号石岡岩間バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書―』茨城県教育財団文化財調査報告第348集

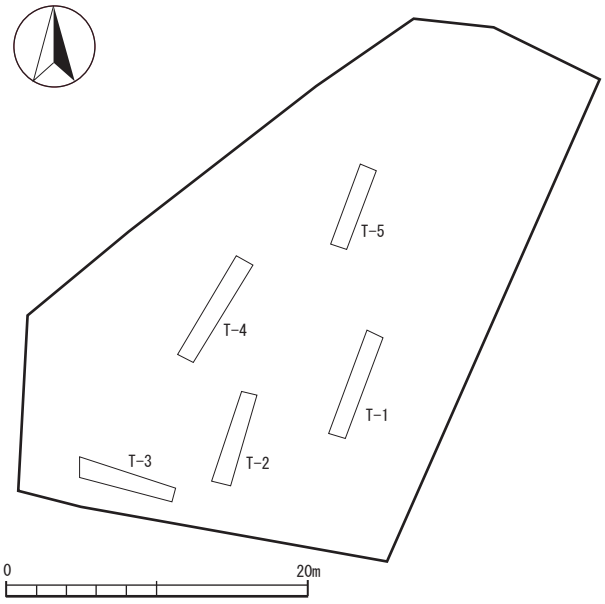


図26　鹿の子遺跡（第32次）全体図（S=1/500）

写真14　鹿の子遺跡（第33次）調査風景

26　鹿の子遺跡（第33次）

①所在地　石岡市鹿の子2丁目9852-1　**②開発面積**　1,195㎡　**③調査日**　平成23年10月12日　**④調査原因**

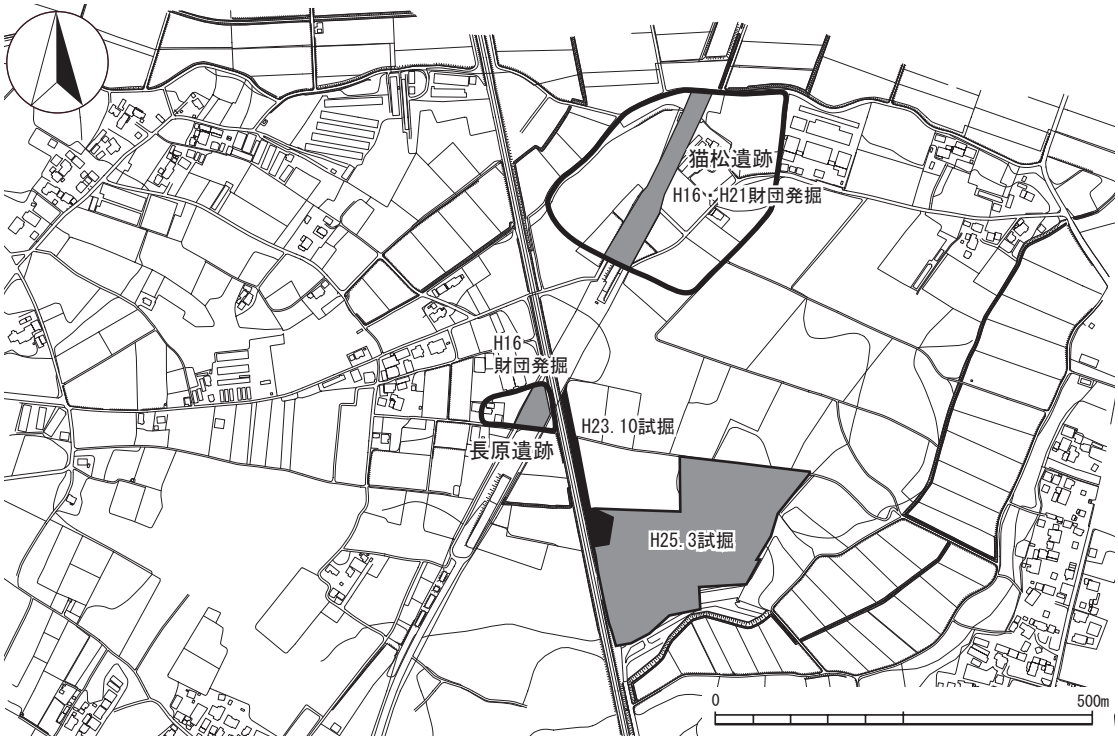


図27　長原　調査地点位置図（S=1/10,000）

開発を目的とした売買　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に５ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは30 ～ 60cm程度。

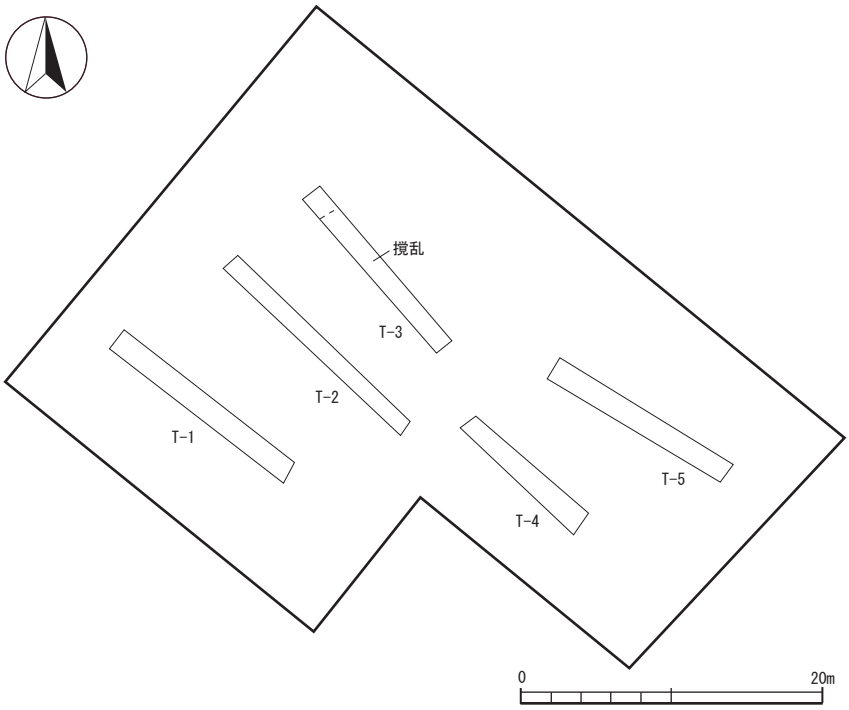


図 28　鹿の子遺跡（第 33 次）全体図（S=1/500）

27　鹿の子遺跡（第34次）

①所在地　石岡市鹿の子１丁目9598番１　**②開発面積**　1,375㎡　**③調査日**　平成23年10月13日　**④調査原因**　駐車場　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**

開発区域内に29ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、表土下約30 ～ 60cmにおいてローム層を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。なお、T-7・12・13において径2.5m程度の土坑を１基確認した（SK01）。確認面において遺物の出土はなく、遺構かどうかの判断がつきかねたため、その確認・判断のため、掘り下げを行った。各トレンチ内は完掘したが、遺物の出土は皆無であり、発掘調査の対象となる遺構との判断はしなかった。　**⑦遺物**　１は擂鉢。やや光沢のある赤褐色。白色粒・砂粒少量、礫微量含む。焼成良好。T-28出土。

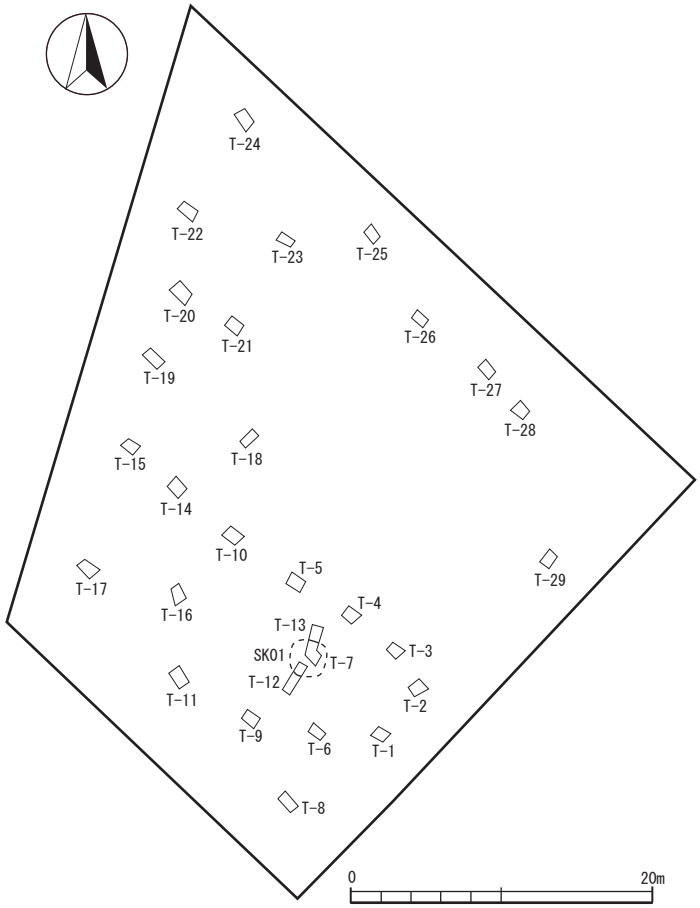


図 29　鹿の子遺跡（第 34 次）全体図（S=1/500）

28　鹿の子遺跡（第35次）

①所在地　石岡市鹿の子１丁目9368-8　**②開発面積**　500㎡　**③調査日**　平成23年10月17日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に19ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構は確認されなかった。地山確認面までの深さは35 ～ 55cm程度。

⑦遺物　１は須恵器の坏。底径60mm（復元）。明灰色。白雲母多量、砂粒、白色粒少量、

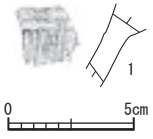


図 30　鹿の子遺跡出（第 34 次）出土遺物（S=1/3）

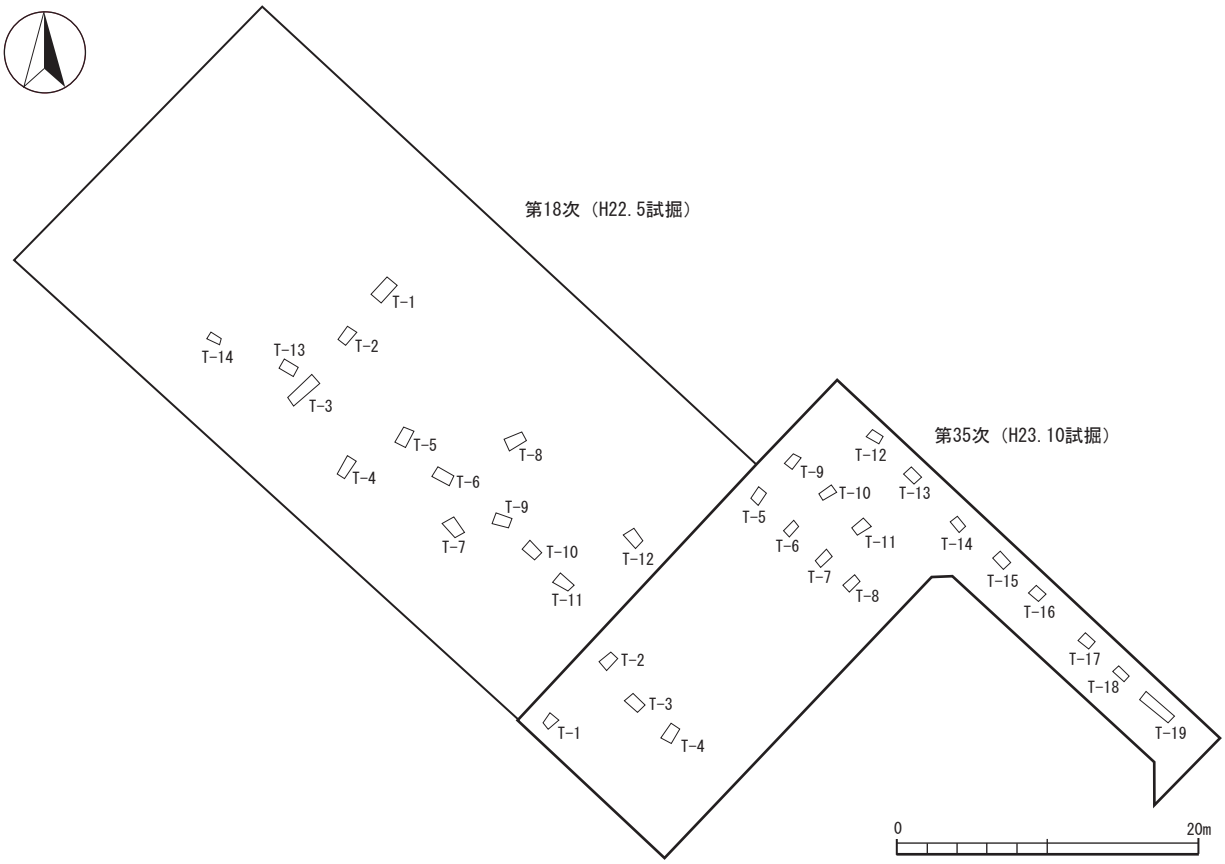


図 31　鹿の子遺跡（第 35 次）全体図（S=1/500）

骨針・黒色粒微量含む。木葉下産。T-19出土。２は須恵器の高台付坏。底径105mm。淡灰色。黒色粒多量、白色粒、砂粒少量、骨針微量含む。焼成やや良。木葉下産。T-19出土。３は須恵器の蓋。口径160mm外面暗灰色、内面灰色。砂粒多量、白雲母少量、白色粒少量、骨針微量含む。木葉下産。T-19出土。４は土師器の甕。口径209mm（復元）。淡赤褐色。白色粒・砂粒・白雲母・黒雲母多量、赤色粒少量、骨針微量含む。T-19出土。５は平瓦。白色粒多量、砂粒少量、黒色粒・白雲母微量含む。T-10出土。

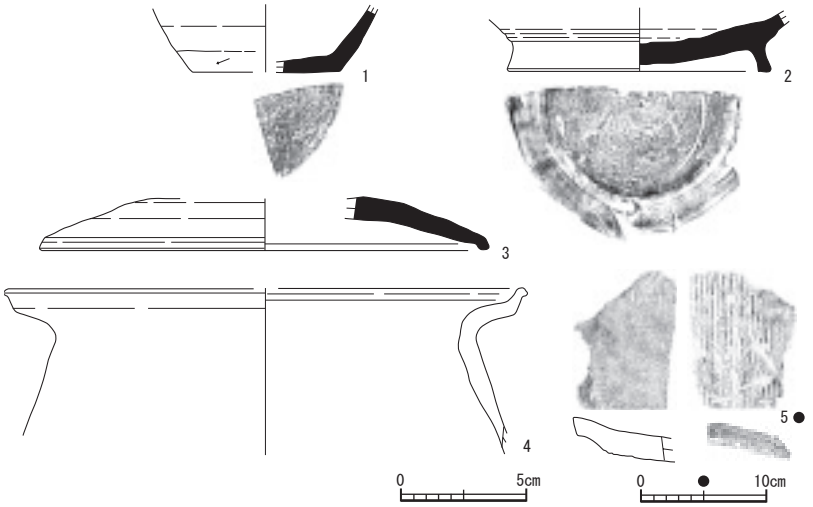


図 32　鹿の子遺跡（第 35 次）出土遺物（S=1/3）

29　宇治会（未周知）

①**所在地**　石岡市宇治会2670番地先　②**開発面積**　350㎡　③**調査日**　平成23年10月20日　④**調査原因**　市道改良　⑤**調査担当者**　曾根俊雄　⑥**調**

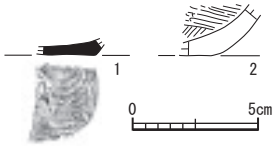


図 33　宇治会採集遺物（S=1/3）

図 34　宇治会　調査地点位置図（S=1/15,000）

査概要　周知の遺跡の範囲外だが、現地踏査の結果土器が採集されたため、試掘調査を行った。開発区域内に24ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。　**⑦遺物**　開発地およびその周辺で採集した土器を紹介する。1は須恵器の坏。灰褐色。黒色粒・白色粒少量、白雲母含む。底部回転糸切り。2は土師器の埦。外面橙褐色、内面にぶい褐色。白色粒・黄褐色粒・白雲母少量含む。図示したものほか、内面黒色処理の土師器片も採集されている。

30　国分遺跡

①所在地　石岡市若宮3丁目400番4の一部　**②開発面積**　224㎡　**③調査日**　平成23年11月1日　**④調査原因**　トイレ・倉庫建設　**⑤調査担当者**　小杉山大輔　**⑥調査概要**　開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。調査の結果、溝1（SD01）、土坑1（SK01）、ピット2（SP01・02）を確認した。SD01は、T-1～3にかけて確認され、南北方向に走る溝である。T-1では粘土や焼土の塊を検出した。住居跡に伴うカマドの可能性も考えられたが、外面が焼け、内面が粘土質であることから、カマド構築材を廃棄したものと判断した。遺構確認面までの深さは85～115cm程度。なお、T-4の東端においても遺構（SK01）が確認されているが、SD01とは土質が異なることから別遺構と判断した。

調査地は常陸国分寺跡の伽藍区画溝の西辺想定ラインの西側に位置する（黒澤1998）。今回確認したSD01の方向は真北よりやや東に振れており、ほぼ南北主軸をとる伽藍主軸とは異なる。だが、平成15年度の発掘調査で確認した伽藍区画溝もやや東にふれており（小杉山・曾根2011）、今回確認したSD01とほぼ同じである。両者はほぼ同一線上に位置することから（図36の濃いトーン）、大胆に復原するならば、両者は同一の溝であり、伽藍区画溝であったとも考えられる。

⑦遺物　1は土師器の小皿。外面橙褐色、内面黒。白色粒･黄褐色粒･半透明粒少量、白雲母含む。内面黒色処理。焼成良好。T-1出土。2は土師器の坏。橙褐色。白雲母･白色粒･黒色粒少量､黄褐色粒微量含む。3は土師器の坏。淡橙褐色。白雲母･白色粒･砂粒少量､角閃石微量含む。焼成良好。4は土師器の甕。赤褐～暗赤褐色。白雲母多量、白色粒少量､砂粒･半透明粒含む。5は平瓦。凸面にぶい褐～暗赤褐色。凹面暗赤褐～暗褐色。黒雲母･白雲母少量、白色粒・砂粒・半透明粒含む。焼成やや不良。凹面に火熱痕跡あり。2～5はＴ－1・ＳＤ01粘土出土。6は鉄釘。T-2・SP01出土。

<引用文献>黒澤彰哉1998「常陸国分寺」『聖武天皇と国分寺』雄山閣出版

小杉山大輔・曾根俊雄2011『市内遺跡調査報告書　第6集』石岡市教育委員会

曾根俊雄2011「常陸国分寺の回廊」『茨城県考古学協会誌』第23号

31　山崎（未周知）

①所在地　石岡市山崎3193-1ほか　**②開発面積**　28,440㎡　**③調査日**　平成23年11月4日～17日　**④調査原因**　市道新設　**⑤調査担当者**　小杉山大輔　**⑥調査概要**　開発区域内に29ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、縄文時代の打製石斧1点が出土したものの、遺構は確認されなかった。なお、本事業に伴う試掘調査を平成24年度も継続して実施しており、山崎塩海道遺跡および北田向遺跡において遺跡を確認した。両遺跡の発掘調査は平成25年度に実施する予定である。

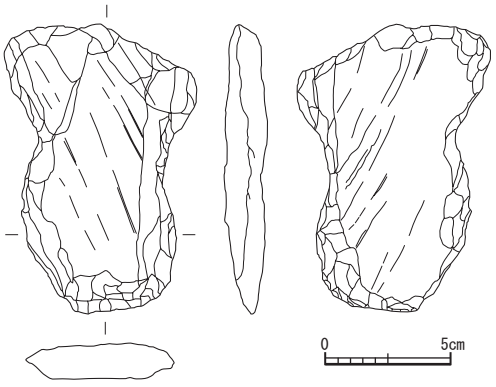


図35　山崎　出土遺物（S=1/3）

⑦遺物　1は分銅形の打製石斧。灰色。両面加工。長さ11.2cm、幅7.8cm、厚さ1.7cm。

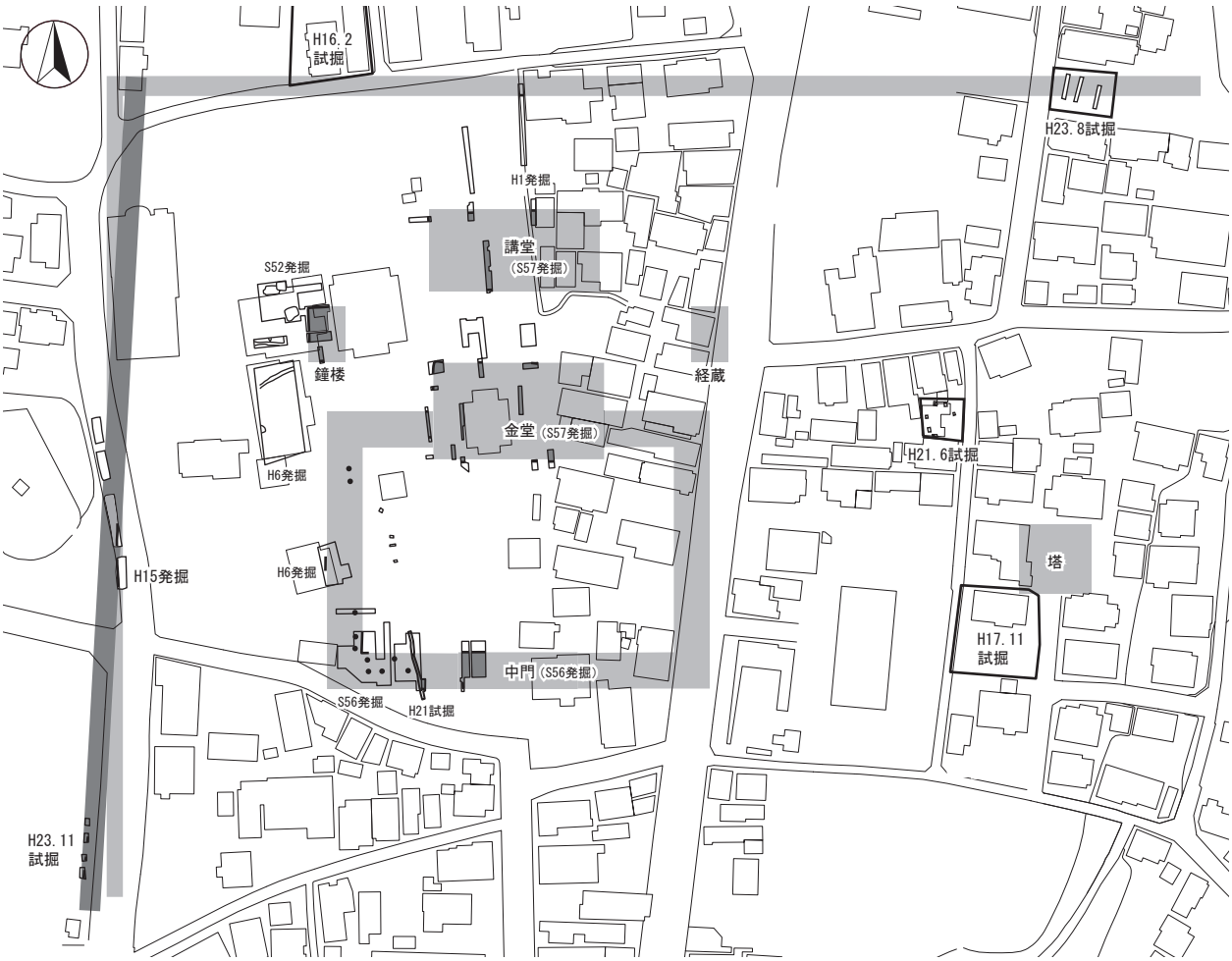


図 36　常陸国分寺跡・国分遺跡　調査地点位置図（S=1/2,000）

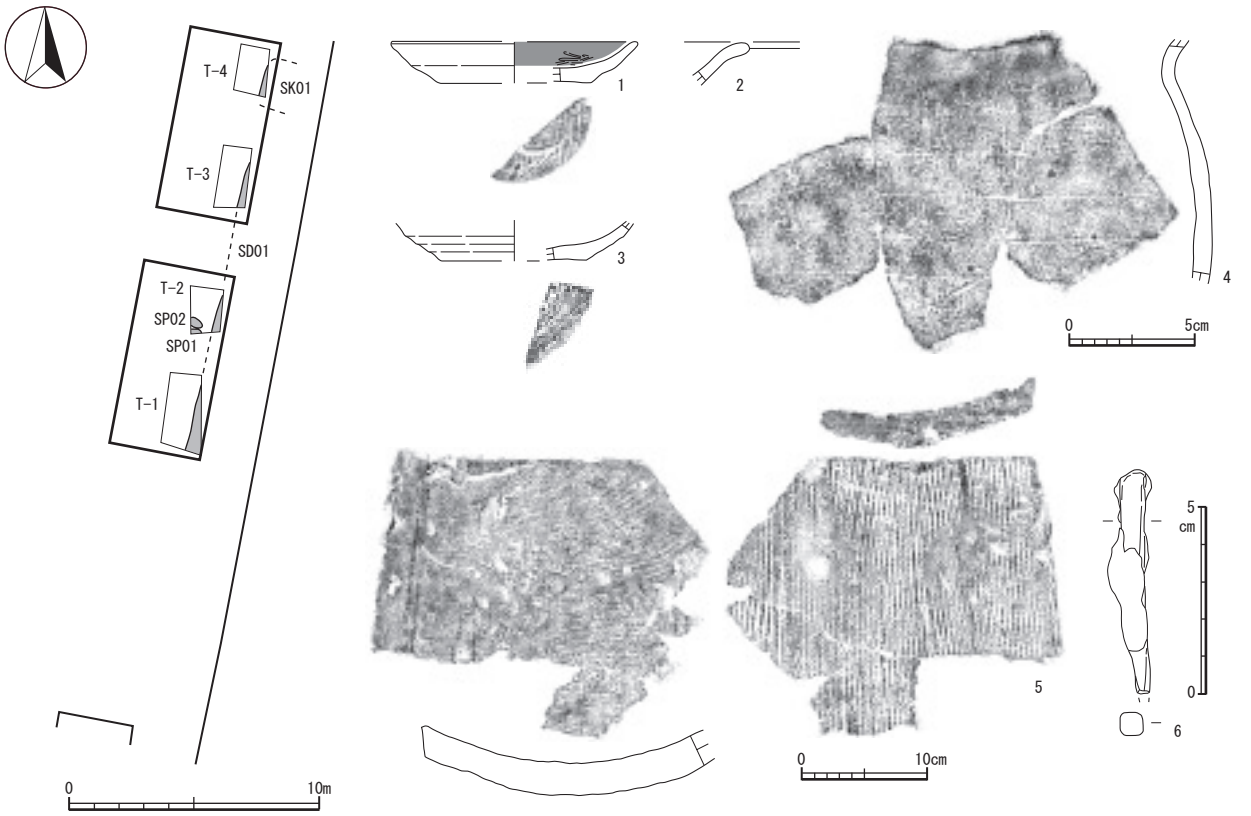


図 37　国分遺跡　全体図（S=1/300）・出土遺物（S=1/3・1/6・1/2）

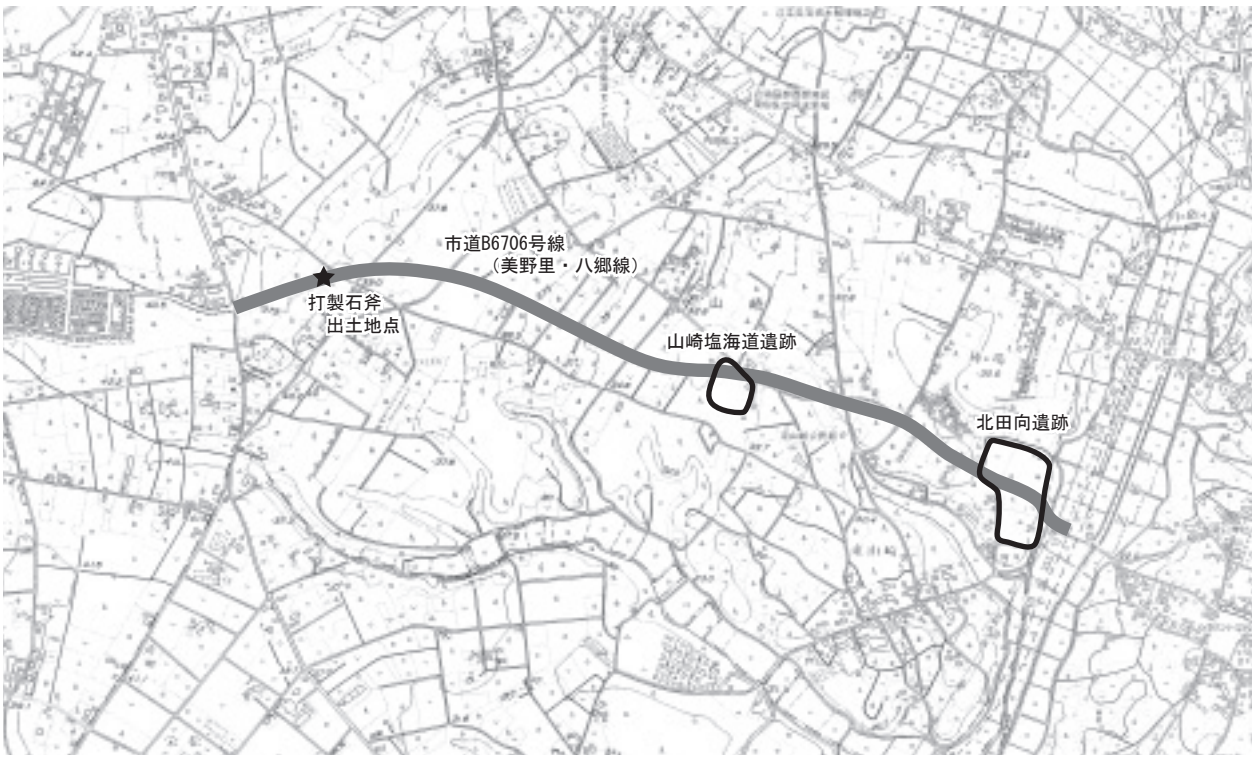


図 38　山崎　調査地点位置図（S=1/20,000）

32　木間塚遺跡

①所在地　石岡市杉並３丁目12542番１　**②開発面積**　493㎡　**③調査日**　平成23年11月９日　**④調査原因**　資材置場　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは35 ～ 55cm程度。

33　鹿の子遺跡（第36次）

①所在地　石岡市鹿の子１丁目9574-1,2　**②開発面積**　786㎡　**③調査日**　平成23年11月24日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　小杉山大輔　**⑥調査概要**　開発区域内に４ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、土器・石器片が出土したが、遺構は確認されなかった。

34　鹿の子遺跡（第37次）

①所在地　石岡市若松２丁目9216番　**②開発面積**　3,101㎡　**③調査日**　平成23年11月28日～ 12月１日　**④調査原因**　セレモニーホール建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に９ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の南側では埋没谷を確認したが、北側では竪穴住居跡６軒（SI01 ～ 06）、土坑６基を確認した。また、奈良・平安時代の土器が出土している。なお、T-４・６において幅１m程度の溝１条（SD01）を確認した。時期・性格把握のため一部掘り下げを行ったところ、深さは30cm程度であり、遺物の出土もなく、覆土も住居跡とは異なることから、発掘調査の対象となる遺構との判断はしなかった。

今回の調査地点の周辺にあたる第３次（鹿の子Ａ遺跡、渡辺1982）・第21次調査地点（小杉山・曾根2012）でも８世紀後半～ 10世紀の竪穴住居跡が確認されており、当地やその周辺には集落の展開が予想される。その一方で、鍛冶工房が存在しないのが特徴といえる（小杉山・曾根2011）。

⑦遺物　１は須恵器の蓋。灰色。砂粒･白色粒少量､黒色粒微量含む。焼成良好。T-４出土。２は須恵器の長頸瓶。外面灰色～黒褐色、内面暗灰色。白色粒少量含む。外面自然釉付着。焼成良好。T-６出土。３は須恵器の坏。灰

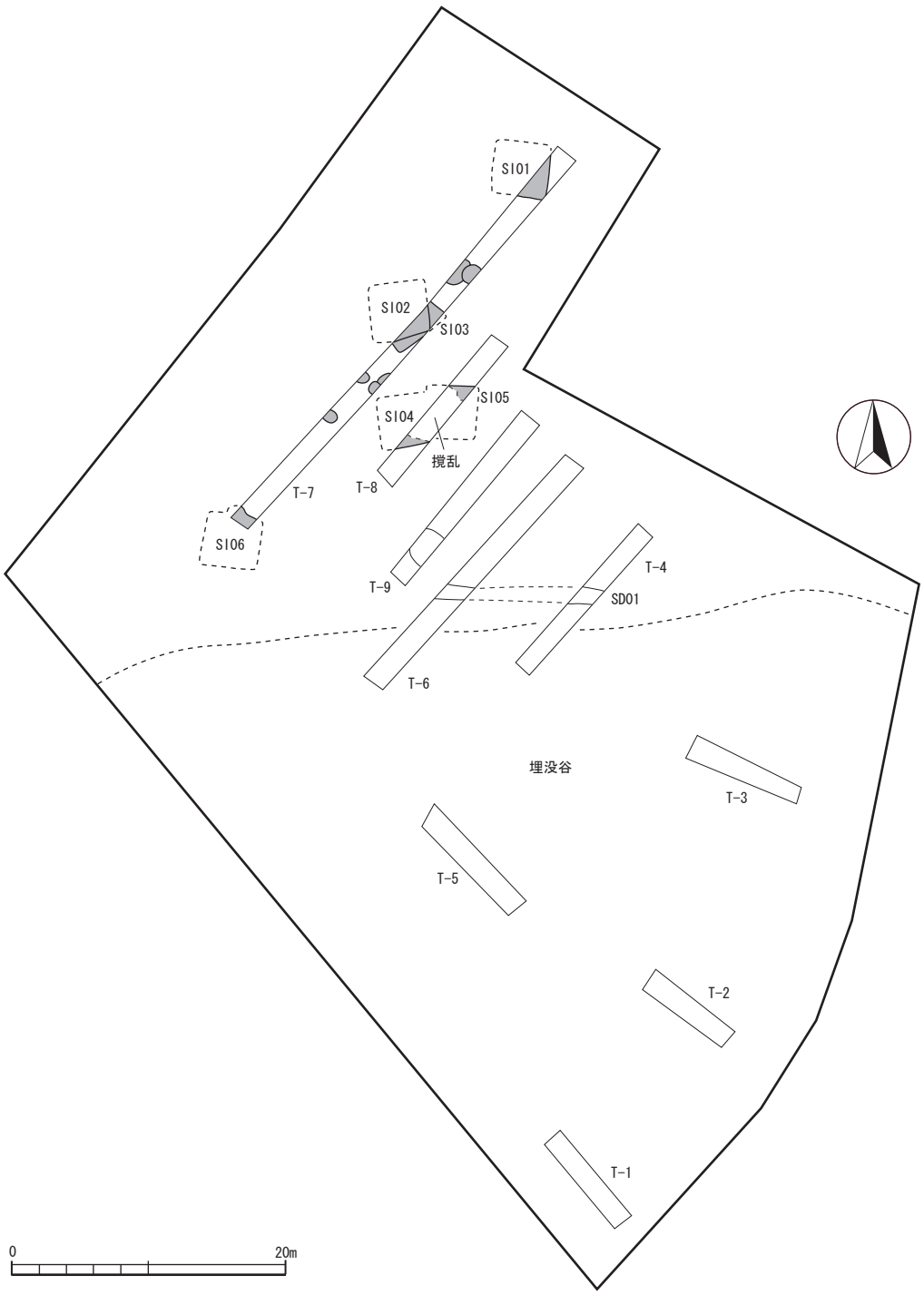


図 39　鹿の子遺跡（第 37 次）全体図（S=1/500）

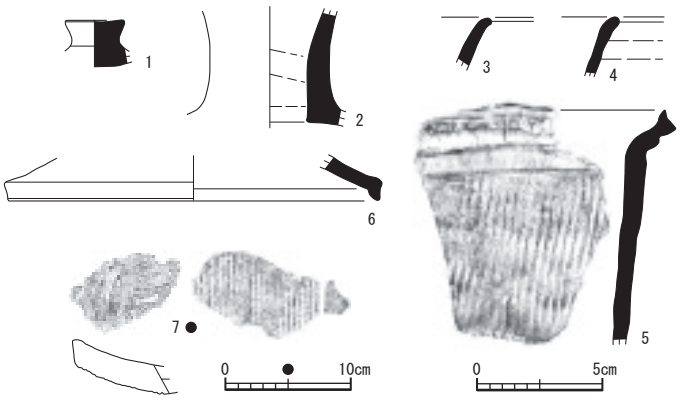


図 40　鹿の子遺跡（第 37 次）出土遺物（S=1/3）

写真 15　Ｔ－７（南から）

色。白雲母・砂粒少量含む。焼成やや良。４は須恵器の坏。淡灰褐色。白色粒、黒雲母・白雲母少量、黒色粒・砂粒微量含む。５は須恵器の甕。外面黒褐色～暗赤褐色、内面にぶい褐色～赤褐色。砂粒･黒雲母多量、白色粒、黒雲母少量､骨針微量含む。焼成やや良。３～５はT-７出土。６は須恵器の蓋。口径148mm。灰色。白色粒･砂粒･白雲母少量含む。T-８出土。７は平瓦。にぶい灰色。砂粒・白雲母少量含む。焼成やや不良。表面採集。

<引用文献>

小杉山大輔・曾根俊雄2011「鹿の子遺跡について」『官衙・集落と鉄』第14回古代官衙・集落研究会報告書、奈良文化財研究所研究報告第６冊

小杉山大輔・曾根俊雄2012『市内遺跡調査報告書　第７集』石岡市教育委員会

渡辺俊夫・佐藤正好1982『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書４』茨城県教育財団文化財調査報告16

35　大塚遺跡

①所在地　石岡市石岡14001-16　**②開発面積**　662㎡　**③調査日**　平成23年12月５日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面の深さは25～35cm程度。

36　小目代遺跡

①所在地　石岡市貝地２丁目5042番１　**②開発面積**　864㎡　**③調査日**　平成23年12月６日　**④調査原因**　賃貸住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に32ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構･遺物は確認されなかった。

37　富田遺跡

①所在地　石岡市貝地１丁目1370番、1370番１、1374番　**②開発面積**　857㎡　**③調査日**　平成23年12月８日、12日　**④調査原因**　賃貸住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に30ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴住居跡２軒（SI01･02）、土坑7基（SK01～07）、ピット２口（P01・02）を確認した。また、縄文時代の土器や石器、奈良・平安時代の土器（土師器・須恵器・灰釉陶器）や瓦、中世～近世の土器、近世の土人形などが出土している。　**⑦遺物**　１は土師質土器の皿。外面淡黒色、内面明褐色。砂粒・半透明粒・白雲母少量、赤色粒微量含む。２は土師器の高台付坏。橙褐～暗褐色。砂粒･黒雲母多量、半透明粒、骨針・赤色粒微量含む。３は土師器の坏。明褐～暗褐色。砂粒少量、白雲母含む。４は繊維を含む縄文時代前期の土器。褐色～にぶい褐色。砂

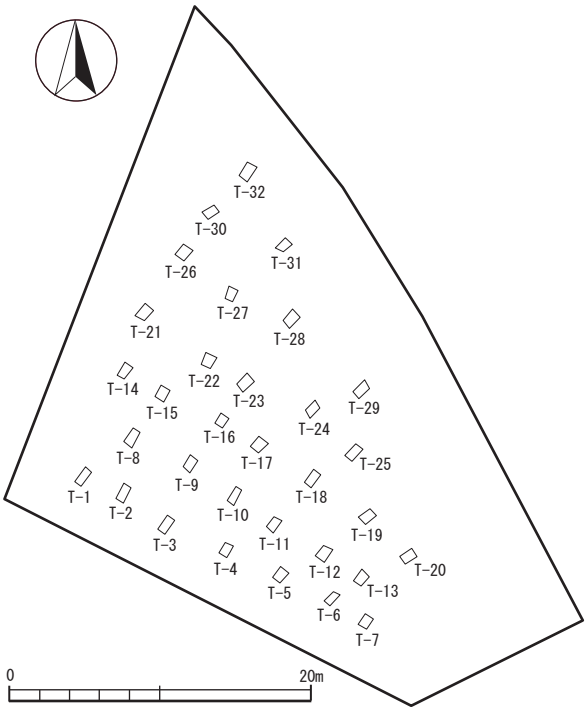


図 41　小目代遺跡　全体図（S=1/500）

写真 16　小目代遺跡　調査風景

粒・半透明粒少量、白雲母微量含む。焼成不良。5は敲石か。重さ100g。6は須恵器の蓋。灰色。半透明粒・砂粒少量、白雲母・骨針・黒色粒少量含む。焼成良好。木葉下産。7は土師質土器の鍋。褐～暗褐色。黒雲母多量、赤色粒微量、砂粒含む。8は土師質土器の鍋。暗褐色。砂粒・黒雲母・白雲母多量、半透明粒少量、骨針・赤色粒微量含む。9は敲石。重さ30g。10は灰釉陶器の瓶類。にぶい明緑色。砂粒少量含む。焼成良好。11は土師質土器の鍋。暗褐～淡褐色。砂粒・黒雲母・白雲母多量、黒色粒・半透明粒微量含む。外面煤付着。12は土人形。にぶい明橙褐色。型作り成形。近世か。米俵にのった恵比寿もしく大黒の下部分か。13は灰釉陶器の瓶類。明灰色。白色粒微量含む。焼成良好。高台の底面に型押し上の圧痕が残る。14は平瓦。淡灰褐色。白色粒少量、黒色粒・砂粒・骨針微量含む。焼成良好。15は土師質土器の鍋。黒褐～明褐色。黒雲母・白雲母・砂粒、半透明粒・赤色粒微量含む。16は灰釉陶器の壺か。灰～黒褐色。半透明粒・黒色粒微量。胎土緻密。焼成良好。17は須恵器の瓶類か。暗灰～にぶい褐色。半透明粒、砂粒少量、白雲母微量含む。18は須恵器の坏。明灰色。砂粒少量、白雲母

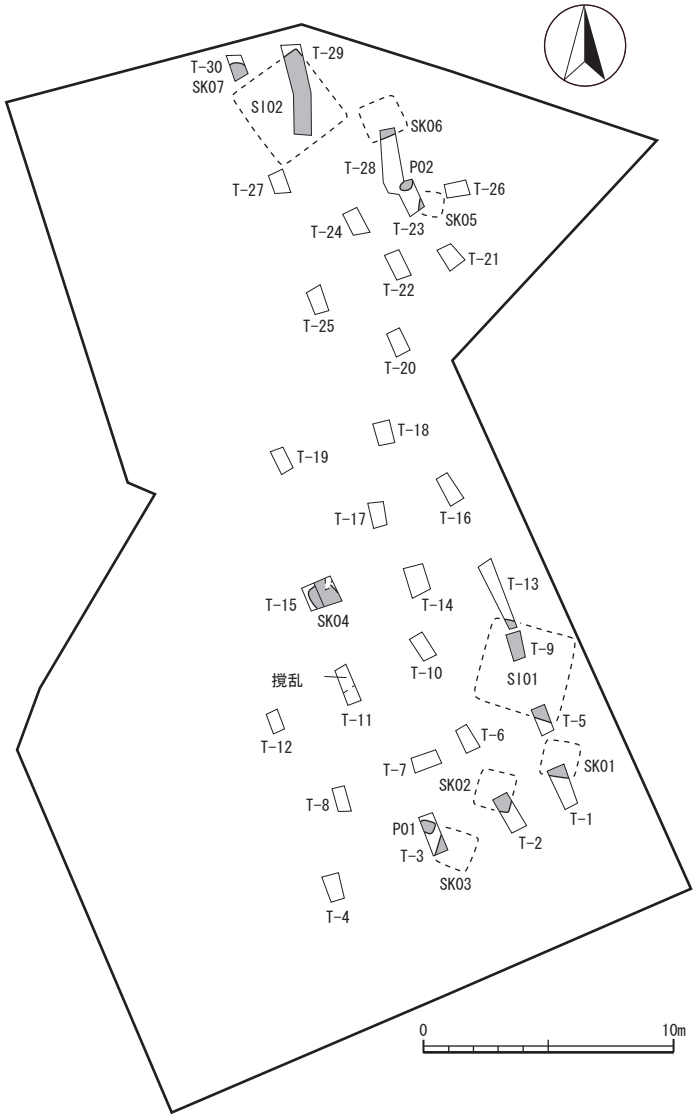


図 42　富田遺跡　全体図（S=1/300）

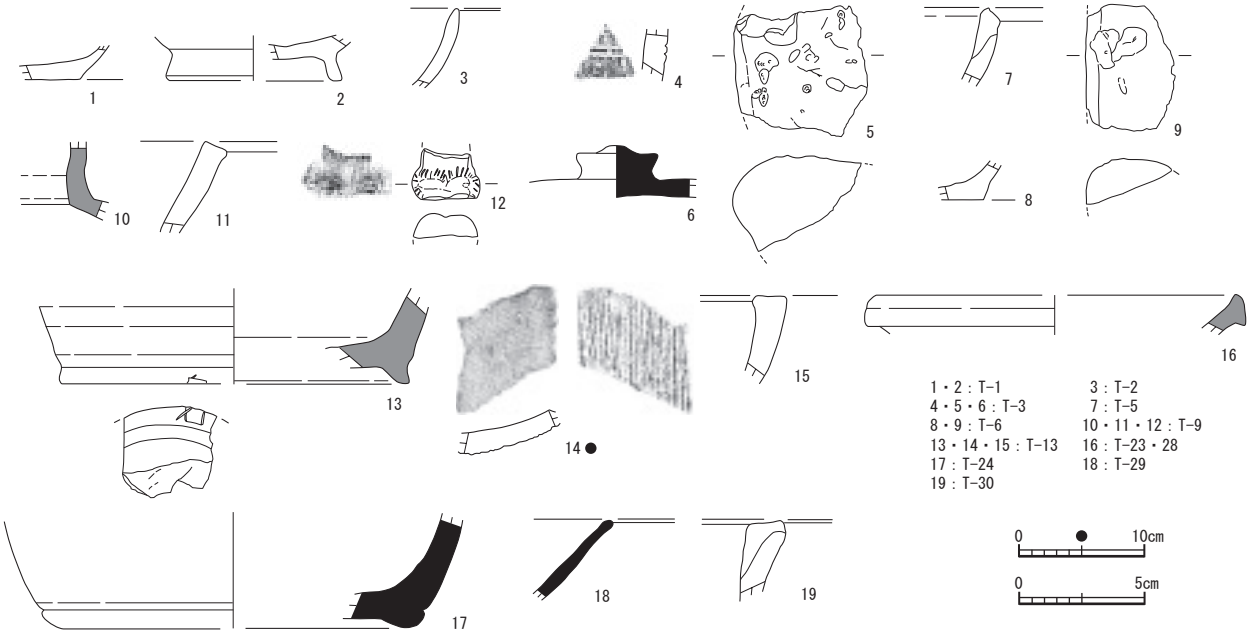


図 43　富田遺跡　出土遺物（S=1/3）

含む。焼成良好。19は土師質土器の鍋。明橙褐色。砂粒、白色粒・赤色粒・白雲母少量、黒雲母・黒色粒・骨粒微量含む。

38　鹿の子遺跡（第38次）

①所在地　石岡市鹿の子１丁目9361-１　**②開発面積**　440㎡　**③調査日**　平成23年12月13日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に21ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の中央から東側において平安時代の竪穴住居跡などを、開発区域の南側および西側では埋没谷を確認した。この開発に伴い、平成23年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

39　鹿の子遺跡（第39次）

①所在地　石岡市若松２丁目9024番１　**②開発面積**　313㎡　**③調査日**　平成23年12月19日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に15ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡２軒を確認した。この開発に伴い、平成23年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

40　国分遺跡

①所在地　石岡市府中５丁目8270、8269-１　**②開発面積**　981㎡　**③調査日**　平成23年12月26日～27日　**④調査原因**　宅地分譲　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に38ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の南側において竪穴住居跡２軒（SI01･02）を確認した。住居跡はいずれも北側にカマドを確認した。SI01は辺3.3ｍ程度、SI02は辺5.5m程度。確認面までの深さは25～40cm程度。出土遺物については別途報告する。

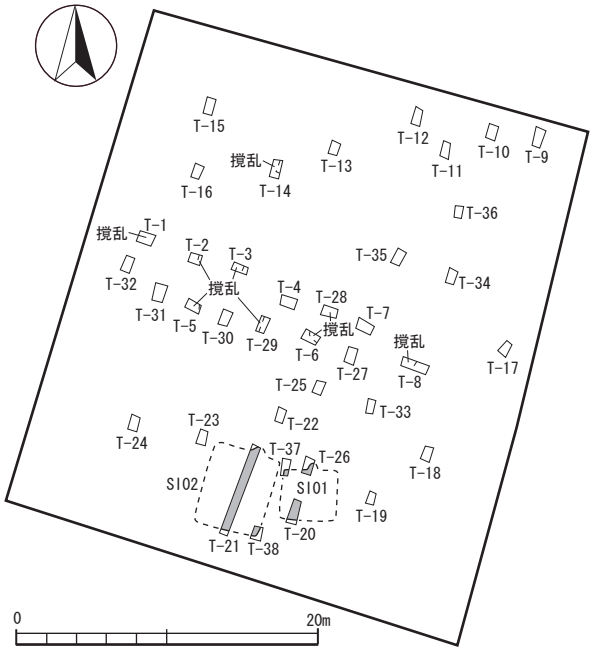


図 44　国分遺跡　全体図（S=1/500）

41　宮部遺跡（第5地点）

①所在地　石岡市若宮２丁目156-１　**②開発面積**　996㎡　**③調査日**　平成24年１月19日～23日　**④調査原因**　集合住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。なお開発地は、平成23年７月の試掘調査で奈良・平安時代の竪穴住居跡を確認した地点（「13　宮部遺跡（第４地点）」）の西側隣接地にあたる。調査の結果、竪穴住居跡４軒（SI01～04）、土坑３基（SK01～03）を確認した。　**⑦遺物**　１は土師器の坏。にぶい褐～明褐色。白雲母、黒雲母・半透明粒・

写真 17　宮部遺跡（第５地点）北東から右奥の建物が第３地点

黄褐色粒少量、骨針微量含む。２は土師器の坏。橙褐色。白雲母、白色粒・半透明粒・黄褐色粒少量含む。３は灰釉陶器の瓶類か。外面灰～オリーブ灰色、内面暗灰～灰色。白色粒少量、黒色粒微量含む。４は繊維を含む縄文時代前期の土器。暗赤褐色。白色粒、黄褐色粒少量含む。５は土師器の皿。外面にぶい褐色、内面暗褐色。白雲母、白色粒少量、半透明粒・赤色粒微量含む。焼成良好。６は土師器の高台坏。外面橙褐色、内面黒色。白色粒、半透明粒少量、白雲母・骨針微量含む。焼成良好。内面黒色処理。７は須恵器の甕。暗灰色。白雲母・白色粒、黄褐色

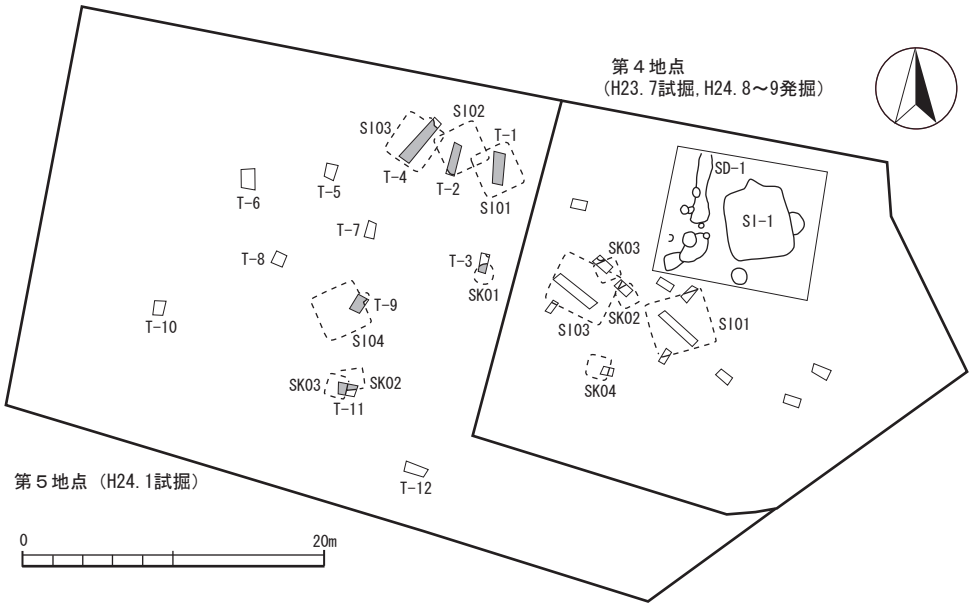


図 45　宮部遺跡（第５地点）全体図（S=1/500）

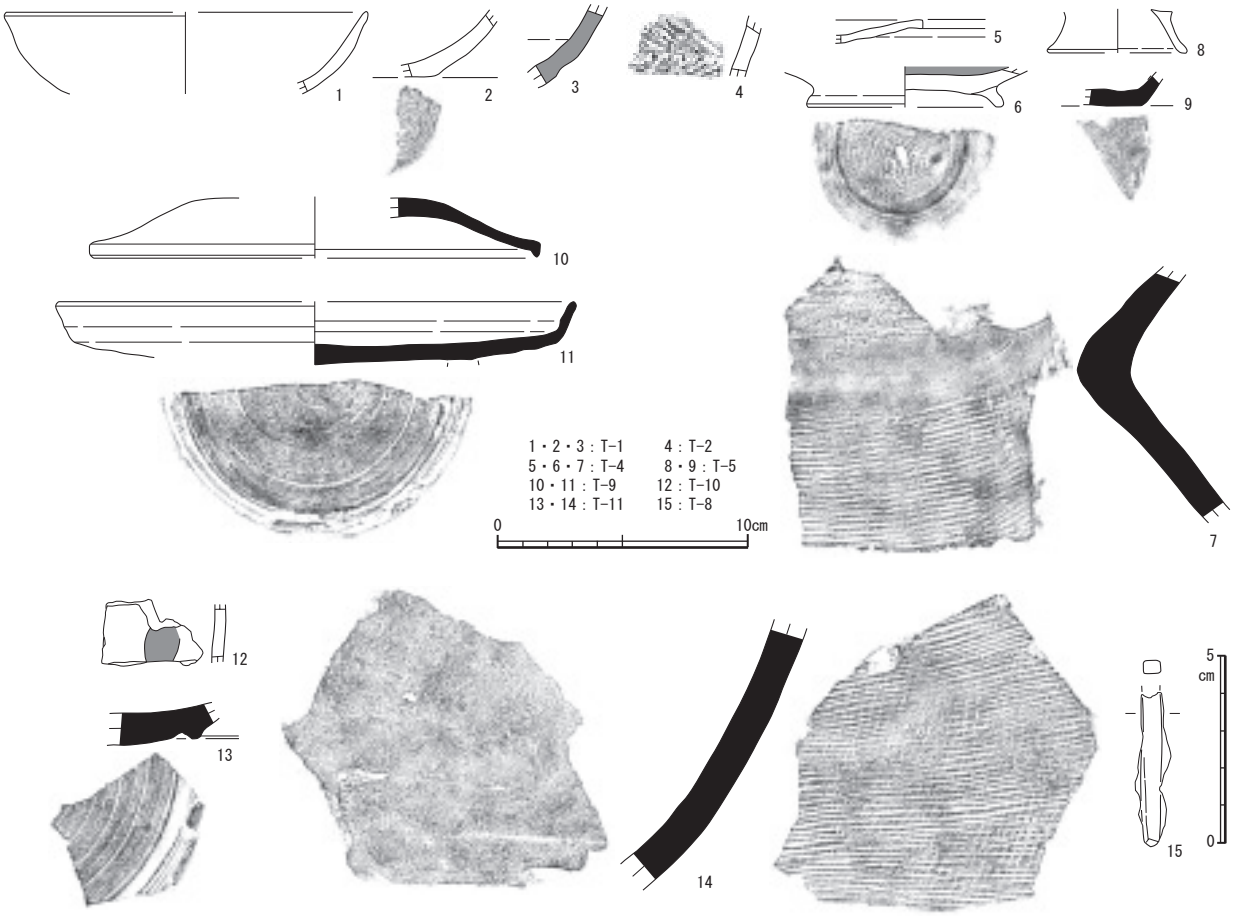


図 46　宮部遺跡（第５地点）出土遺物（S=1/3・1/2）

粒･半透明粒少量含む。8は高台坏の高台部。褐～暗褐色。白色粒･黄褐色粒少量。9は須恵器の坏。灰褐～灰色。白色粒・半透明粒、黄褐色粒微量含む。10は須恵器の蓋。灰～青灰色。白色粒、半透明粒、骨針微量含む。11は須恵器の高台盤。灰褐～灰色。白色粒・半透明粒、砂粒・黄褐色粒少量含む。焼成やや不良。12は土師器。外面墨書「□」か。褐～橙褐色。白雲母多量、白色粒、半透明粒・黄褐色粒少量含む。13は須恵器の高台坏。灰白。白雲母多量、白色粒少量、黄褐色粒微量含む。14は須恵器の甕。灰～暗灰色。白色粒・半透明粒、黄褐色粒微量含む。15は鉄釘。

42　尼寺ヶ原遺跡

①所在地　石岡市若松3丁目8620-2　**②開発面積**　335㎡　**③調査日**　平成24年２月15日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に13ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構は確認されなかった。地山確認面までの深さは25～40cm程度。　**⑦遺物**　土師質土器の鍋。外面暗褐色、内面橙褐色。黄褐色粒少量、白雲母・白色粒含む。外面煤付着。T-13出土。

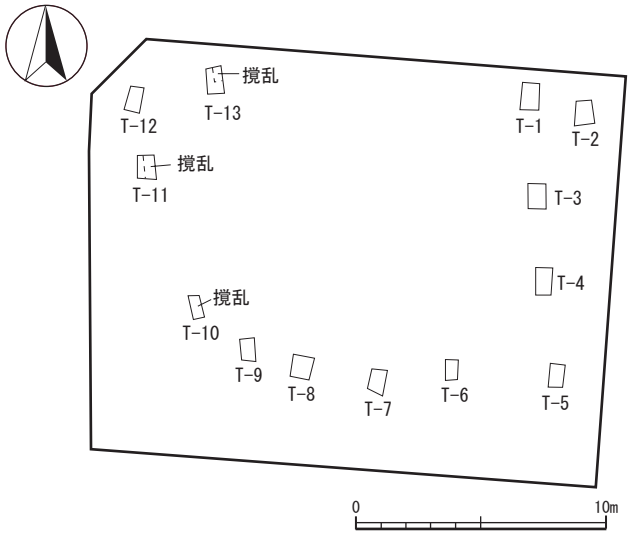


図 47　尼寺ヶ原遺跡　全体図（S=1/300）

43　尼寺ヶ原遺跡

①所在地　石岡市若松3丁目8560-2　**②開発面積**　978㎡　**③調査日**　平成24年２月20日　**④調査原因**　集合住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に６ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、各トレンチにおいて奈良・平安時代の土器・瓦・塼などを多く含む層を確認した。当地は東側より入り込んだ谷部分にあたり、また各トレンチにおいて同様の層が存在することから、周辺より遺物が流入もしくは遺棄され形成された遺物包含層と判断した。遺物包含層までの深さは70～80cm程度。出土遺物については別途報告する。

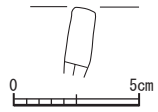


図 48　尼寺ヶ原遺跡　出土遺物（S=1/3）

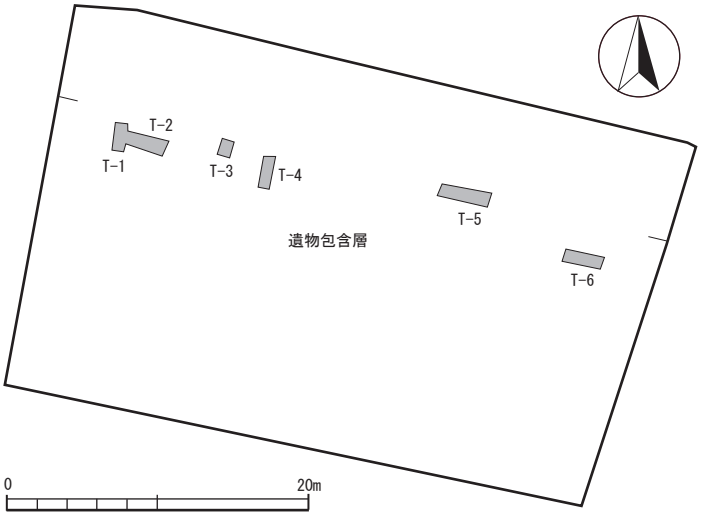


図 49　尼寺ヶ原遺跡　全体図（S=1/500）

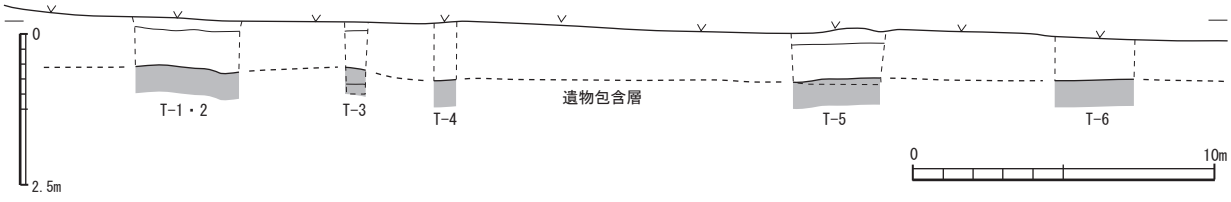


図 50　尼寺ヶ原遺跡　東西セクション図（S=1/250・深さ S=1/125）

44　国分遺跡

①所在地　石岡市府中５丁目8263番１　**②開発面積**　1,214㎡　**③調査日**　平成24年２月24日　**④調査原因**　個人住宅建設　**⑤調査担当者**　曾根俊雄　**⑥調査概要**　開発区域内に７ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、各トレンチとも大きく撹乱されている状態であり、遺構･遺物は確認できなかった。

45　東成井（未周知）

①所在地　石岡市東成井字園東2722-14ほか　**②開発面積**　2,325㎡　**③調査日**　平成24年３月２日　**④調査原因**　工場移設　**⑤調査担当者**　小杉山大輔　**⑥調査概要**　周知の遺跡の範囲外であるが、現地踏査の結果土器が採集されたため、試掘調査を行った。開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、土器（弥生時代、奈良・平安時代）が少量出土したものの、遺構は確認されなかった。今後周辺の踏査を行い、遺跡の範囲を確定する予定である。　**⑦遺物**　１は弥生土器の壺。外面にぶい淡褐色、内面にぶい明褐色。黒雲母・白雲母多量、砂粒・白色粒含む。内面輪積痕残る。焼成やや良。２は須恵器の蓋。外面灰色、内面暗灰色。白色粒多量、砂粒少量、骨針少量含む。焼成良好。外面に鉄分付着。焼成良好。３は土師器の埦。外面淡橙褐色、内面にぶい褐色。砂粒・黒雲母多量、黒色粒微量含む。４は須恵器の坏。明灰色。白色粒・砂粒少量、骨針・黒色粒微量含む。焼成良好。５は土師質土器の小皿。外面橙褐色、内面橙色。砂粒少量含む。焼成やや良。１～４は試掘トレンチ出土、５は表面採集。

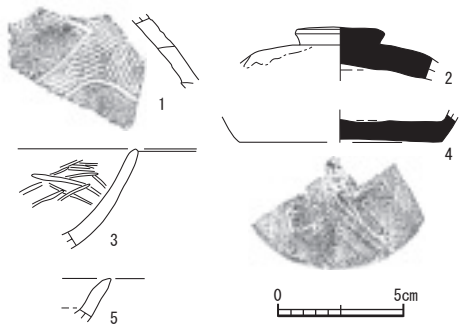


図 51　東成井　出土遺物（S=1/3）

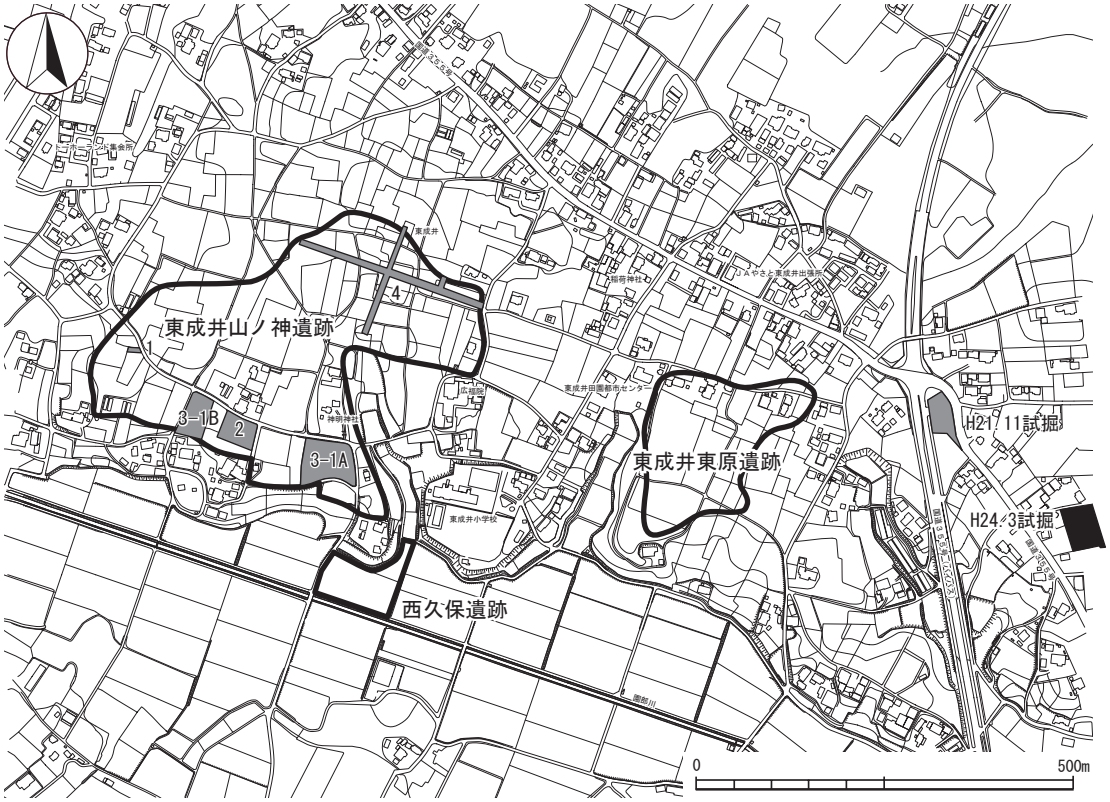


図 52　東成井　調査地点位置図（S=1/10,000）

46 弥陀ノ台遺跡

①所在地 石岡市小井戸字廣畑ケ550番8 **②開発面積** 499㎡ **③調査日** 平成24年3月21日 **④調査原因** 個人住宅建設 **⑤調査担当者** 曾根俊雄 **⑥調査概要** 開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代～中世の土器小片が出土したが、遺構は確認されなかった。地山確認面までの深さは西側では55cm程度だが東側では100cm前後と深く、東側には谷が入り込んでいた可能性がある。 **⑦遺物** 1は須恵器の坏。白灰色。白雲母多量、砂粒、半透明粒少量含む。焼成やや不良。2は土師質土器の鍋。外面淡褐色、内面淡暗褐色。黒雲母・白雲母多量、半透明粒・砂粒、赤色粒・骨針微量含む。焼成やや良。1・2ともに試掘トレンチ出土。

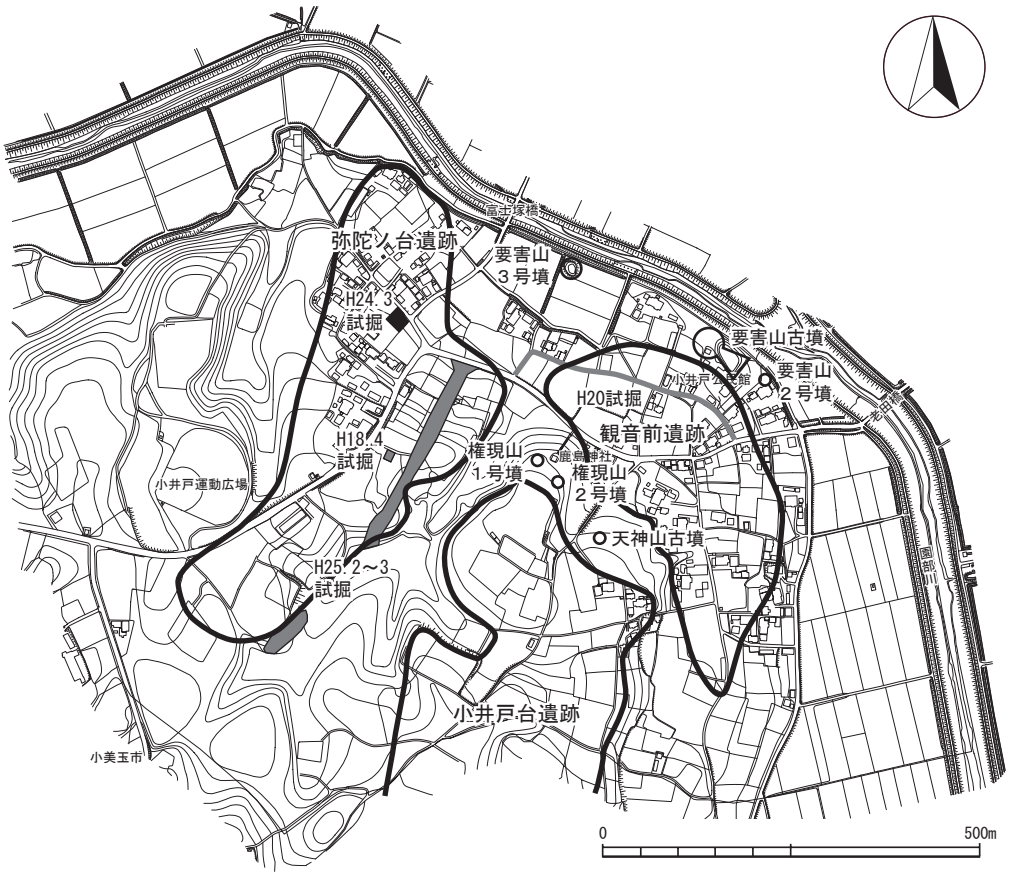


図53 弥陀ノ台遺跡 調査地点位置図（S=1/10,000）

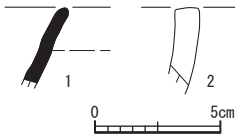


図54 弥陀ノ台遺跡 出土遺物（S=1/3）

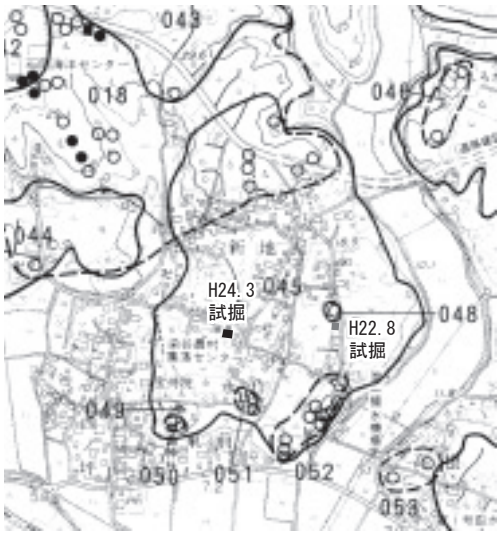


図55 狐塚遺跡 調査地点位置図（S=1/15,000）

47 狐塚遺跡

①所在地 石岡市染谷1097-2 **②開発面積** 133㎡ **③調査日** 平成24年3月27日 **④調査原因** 個人住宅建設 **⑤調査担当者** 曾根俊雄 **⑥調査概要** 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域のほぼ全域において埋没谷を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

Ⅲ　確認調査（平成23年度）

1　茨城廃寺跡（第４次）

①所在地　石岡市貝地１丁目1573、２丁目1985、5048-1　**②調査面積**　221㎡　**③調査日**　平成24年１月30日～３月28日、４月９日～24日　**④調査原因**　保存目的の範囲確認調査　**⑤調査担当者**　曾根俊雄

⑥調査概要　茨城廃寺跡は、恋瀬川と山王川にはさまれた標高24m前後の台地上に位置する。第１次～第３次調査（昭和54～56年度）によって、法隆寺式の伽藍配置をもつ初期寺院であり、また「茨木寺」という墨書土器の出土があり、茨城郡の郡寺と考えられている（黒澤ほか1982・1983・1984）。

今回の調査は第３次調査で確認されていた寺院地の区画溝を再確認し、延長部分を確認することで、寺院地の確定を目的とした。北東部（F地区）のF-２Tでは区画溝のコーナー部分を確認した。北西部（G地区）のG-１Tでは区画溝が途中で途切れ、溝の南側には谷地形が迫っていることを確認したことから、自然の地形を利用して区画としていたと考えられる。

写真１　F-2T（北から）

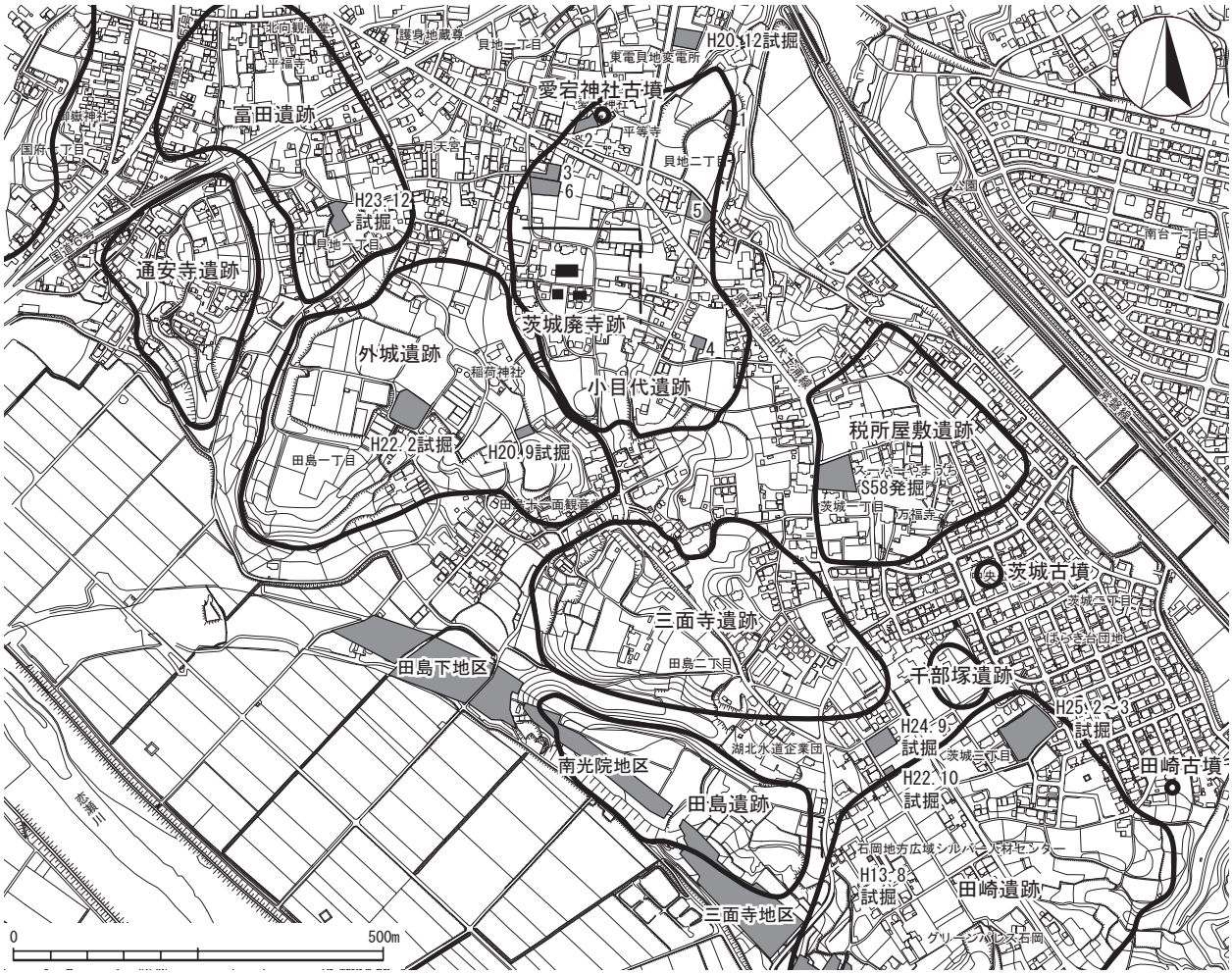


図１　茨城廃寺跡　位置図（S=1/10,000）

平成24年度以降も確認調査を継続予定であり、それらをまとめた報告書を別途刊行予定である。詳細は報告書にて報告する。

<引用文献>

黒澤彰哉ほか1982『茨城廃寺跡Ⅰ』石岡市教育委員会

黒澤彰哉ほか1983『茨城廃寺跡Ⅱ』石岡市教育委員会

黒澤彰哉ほか1984『茨城廃寺跡Ⅲ』石岡市教育委員会

石岡市教育委員会2012『茨城廃寺跡―第４次調査　現地説明会資料―』

写真２　G-1T（西から）

図２　茨城廃寺跡　全体図（S=1/1,500）

Ⅳ　発掘調査　白久台遺跡５次調査（２）　遺物編

白久台遺跡は石岡市石岡2488周辺に存在する東西200ｍ×南北200ｍの遺跡である（石岡市2001）。標高は約25ｍで川に向かうにつれて標高は低くなる。眼前に流れる山王川の左岸に当たる。

調査は昭和62年の１次調査を嚆矢として５次調査及び工事立会を含めて６現場が行われている。これらの内，３次調査から５次調査，工事立会調査の４現場分を『市内遺跡報告書　第７集』において報告した。しかしながら，紙面の関係で５次調査分の出土遺物が報告できなかったため，今回「白久台遺跡　５次調査（2）遺物編」として刊行することとした。それぞれの調査に関しては末尾の文献を参考にして欲しい。

１　白久台遺跡　５次調査

①所在地　石岡市石岡2490　**②調査面積**　401.5㎡　**③調査日**　平成18年５月１日～ ６月19日　**④調査原因**　土地区画整理　**⑤調査担当者**　小杉山大輔　**⑥調査内容・出土遺物**　図１・２は工事区域の試掘調査の際に検出された遺物である。T-２，３出土遺物は表土一括であるが，T-８からは1.5ｍほど掘り下げた地山直上の土層から大量の遺物が検出されている。出土位置から本調査で確認されたSK-１の延長上に存在しているものと思われる。T-８からは遺物収納箱１箱分の土器が検出されているが，全て縄文時代前・中期のものである。図８はSK-１の北東側台地上の遺構を検出した時の遺物である。「市内遺跡調査報告書　第７集」で報告したようにSK-１は北東側から流れ込む３次調査の第4層において比較的多くの土器が検出されている。したがって，この方向から多くの遺構も検出されている。３～５次調査及び工事立会調査も基本的に同様の傾向にある。図９はSK-１から検出された遺物である。109・110はSK-１の検出時に確認された遺物である。その他は谷底の地山を検出時に確認されている遺物である。上層は主に重機で掘らざるを得ない状況であったが，試掘調査時にT-８下層から多くの縄文土器を確認したため，下層のみ残してSK-１の掘削を行った。厳密に層位を押えることは出来なかったが，全体的に北東側から多くの遺物が検出されている。大半は縄文前・中期のものであり，132の羽口は混ざりこみである。

SK-２はSK-１の底から検出されている土坑である。先にも述べたようにSK-１は縄文時代の包含層が存在しており，検出面としてはこれよりも下層である。しかしながら，遺物は塼や須恵器が存在していることから当遺構はSK-１埋没後のものということになる。井戸のような性格の遺構であろうか。SK-３はSK-１掘削後に確認された遺構であり，出土遺物からも縄文時代のものである。図12に記載されているSK-４遺物は全て覆土中から出土したものである。完形に近い浅鉢も2点確認されており，土坑使用後の窪みに遺物を廃棄したものと思われる。縄文時代中期の遺物が多い。SD-５はSK-１埋没後に掘りこまれた遺構である。須恵器や灰釉陶器，土師器が検出されており，奈良平安時代の遺構である。SK-６は小土坑であるが，縄文時代前期の遺物が出土しており，数少ない前期まで遡る遺構である。正確は不明。

以上，みてきたように，当遺跡からは縄文時代前期前半後半，縄文時代中期の遺構･遺物が多く確認されている。これは白久台遺跡の他の地点と同様の傾向にあると言える。特にSK-１の北東側から流れ込む遺物が多い。生活の中心がこの方向にあったことが分かり，実際に遺構もその方向から確認されている。遺物の大半はこの時期のものであり，石岡市内における縄文時代の土地利用に関する好例と思われる。

弥生時代の遺構は確認されなかったが土器が数点検出されている。

古代の遺構としては溝や土坑が確認されている。しかしながら，調査の都合からSK-１の確認面での遺構検出が十分でなく，はっきりとした性格付けができない状況である。しかしながら，古代の遺物としては鉄生産の際に発生する羽口及び炉壁が存在することは注目される。通常，炉壁は製鉄，羽口は鍛冶の工程で発生するものであり，当地点周辺に製鉄から鍛冶までを行う工房が存在した可能性もある。ただし，炉壁は小破片が数点であり，製鉄炉

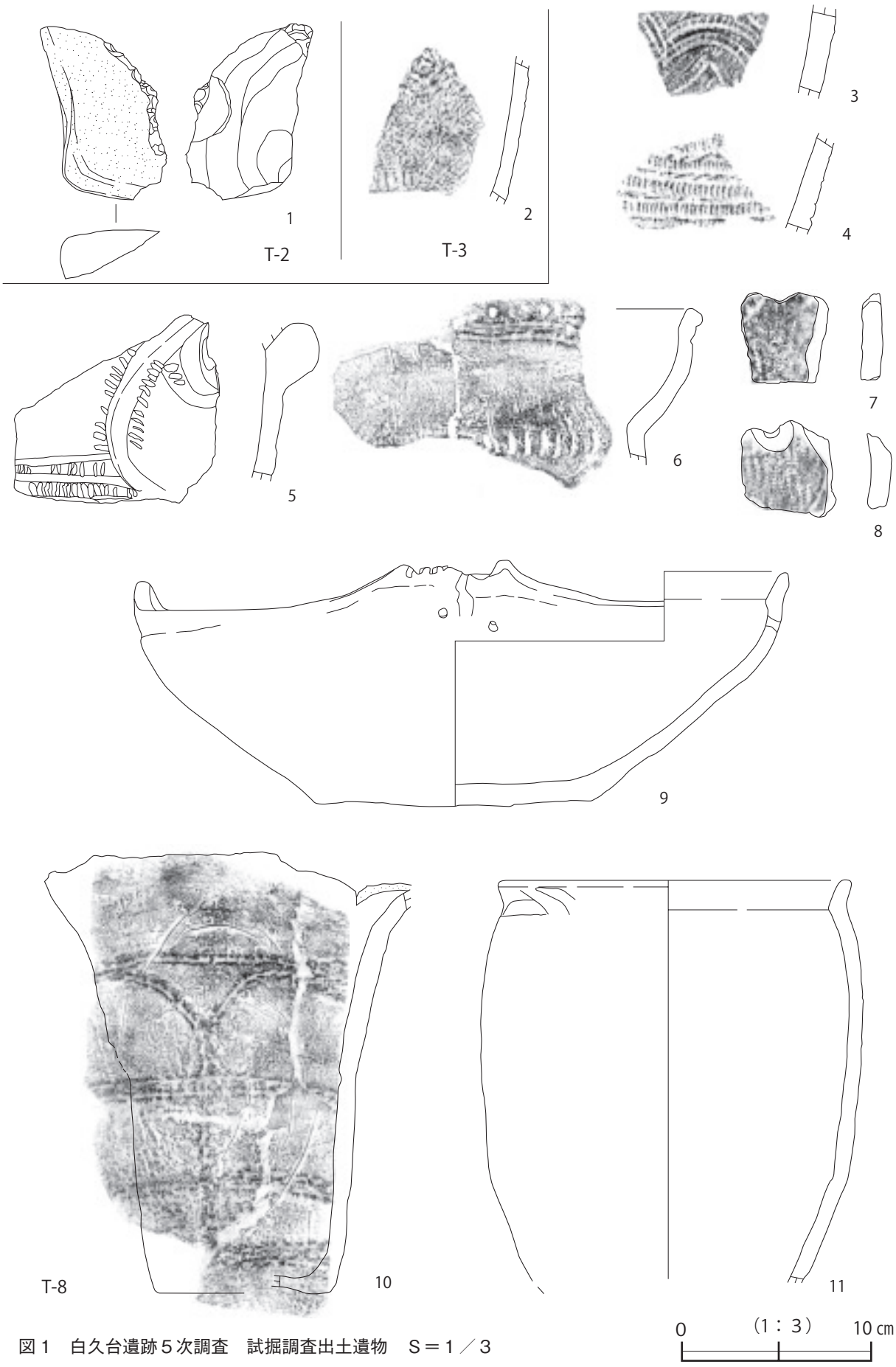


図１　白久台遺跡５次調査　試掘調査出土遺物　Ｓ＝１／３

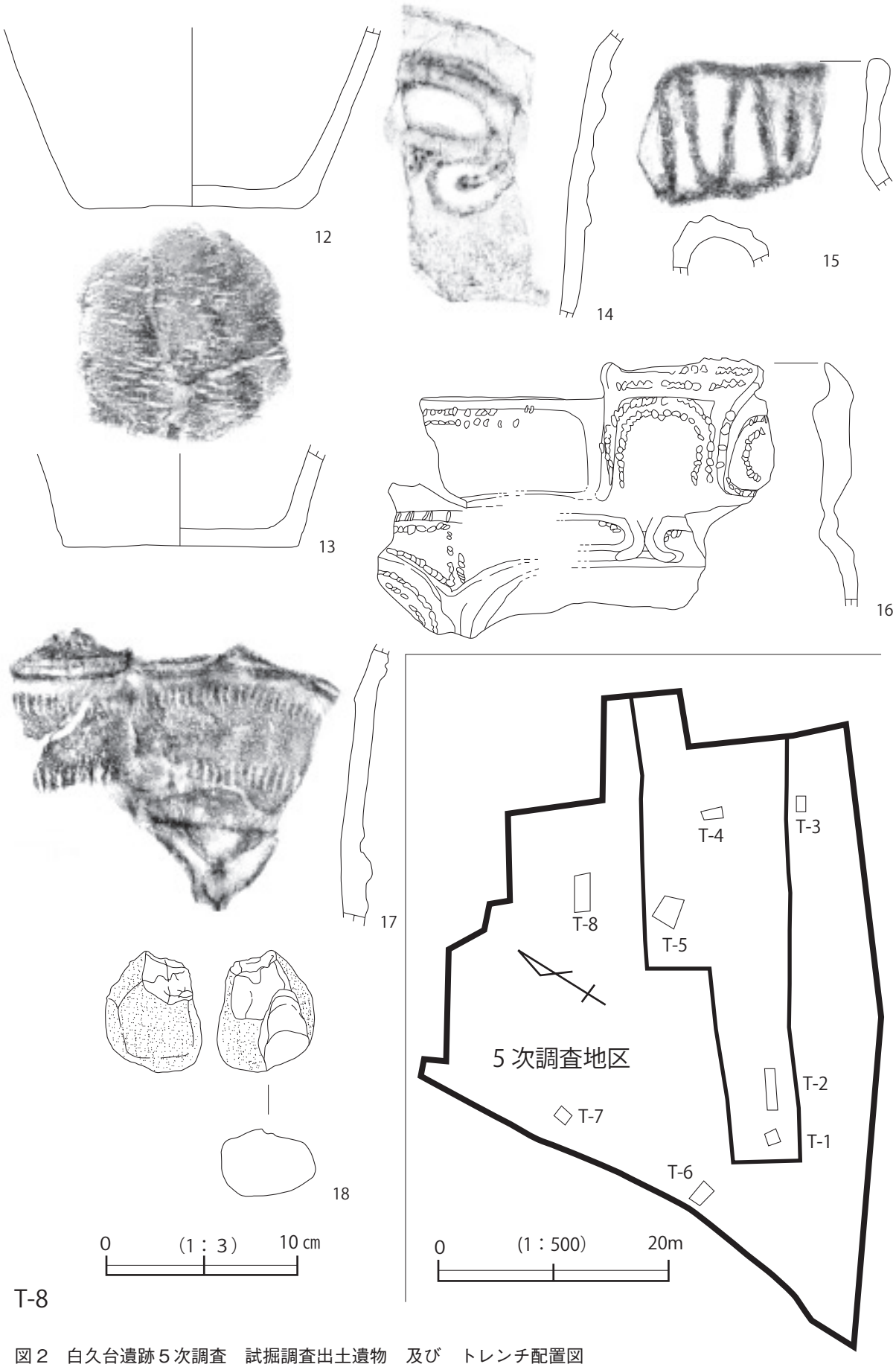


図２　白久台遺跡５次調査　試掘調査出土遺物　及び　トレンチ配置図

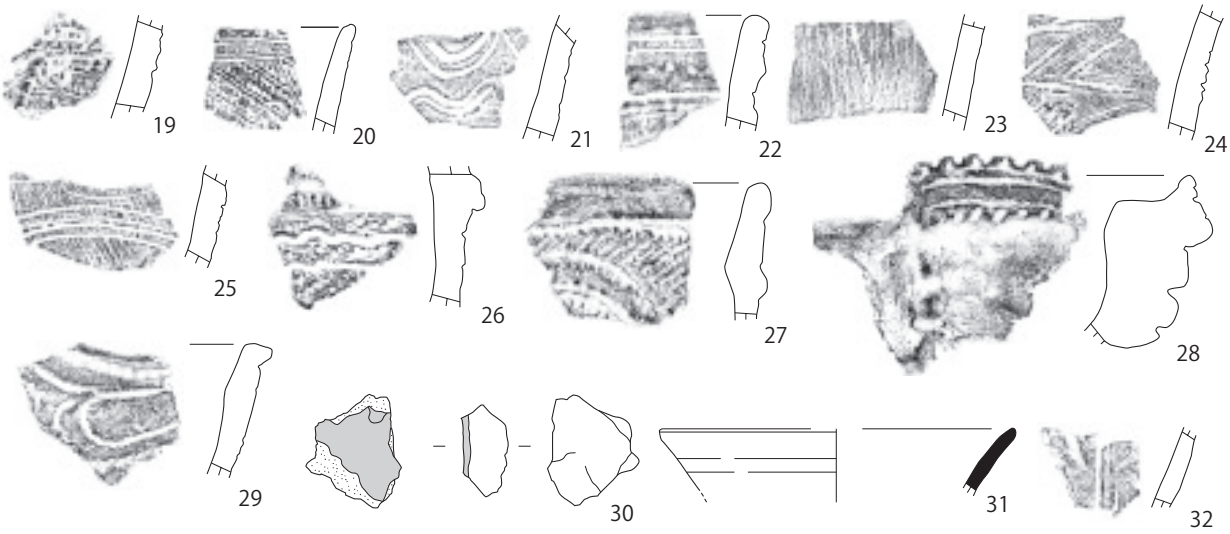


図３　白久台遺跡５次調査　表土一括　S＝１／３

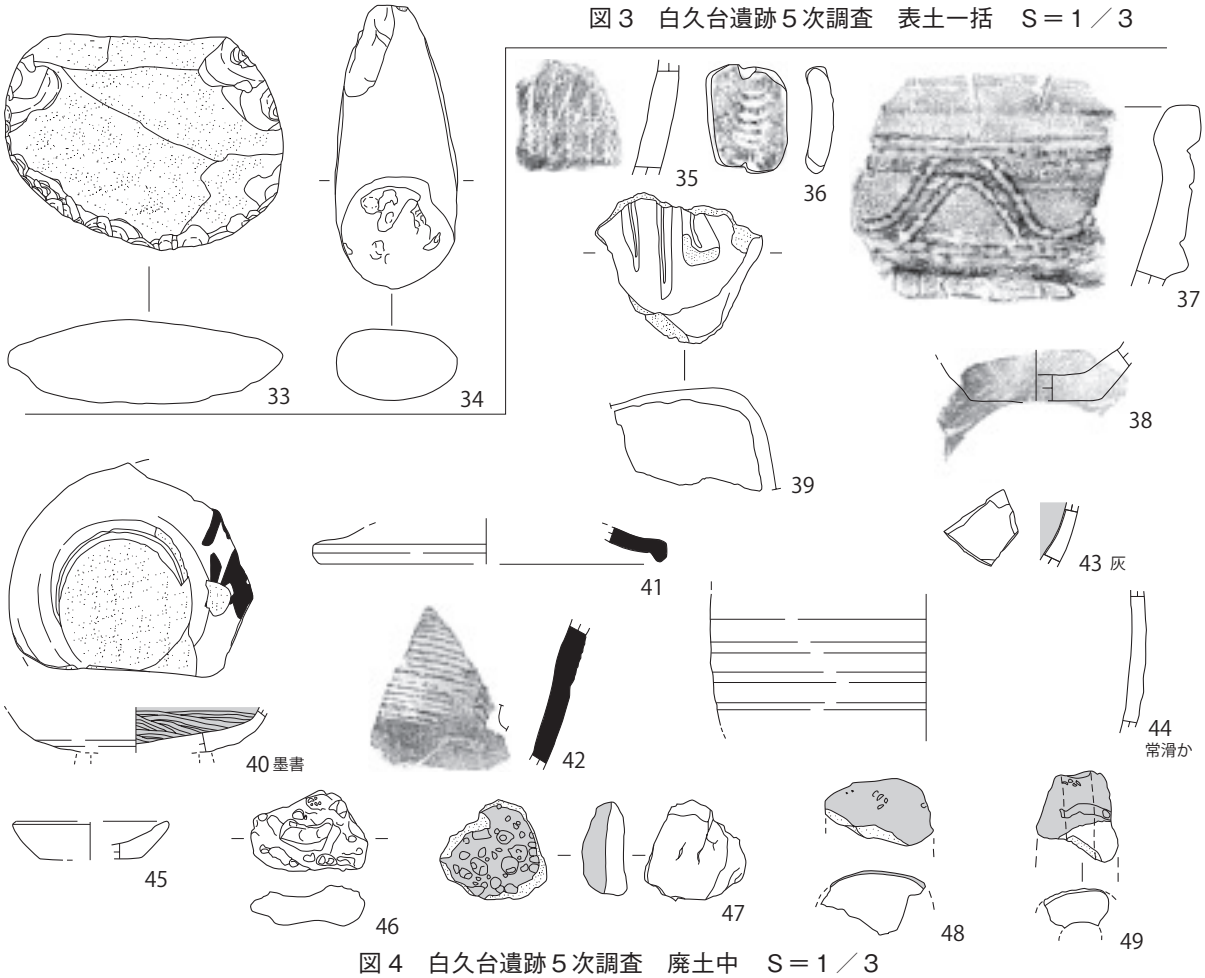


図４　白久台遺跡５次調査　廃土中　S＝１／３

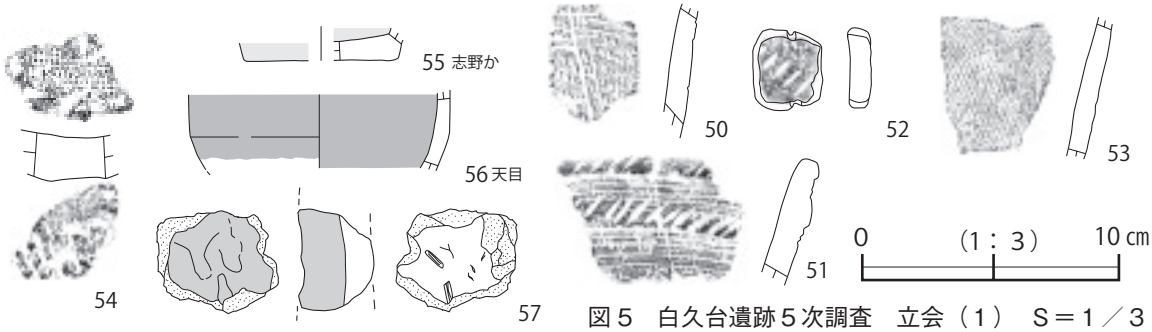


図５　白久台遺跡５次調査　立会（１）　S＝１／３

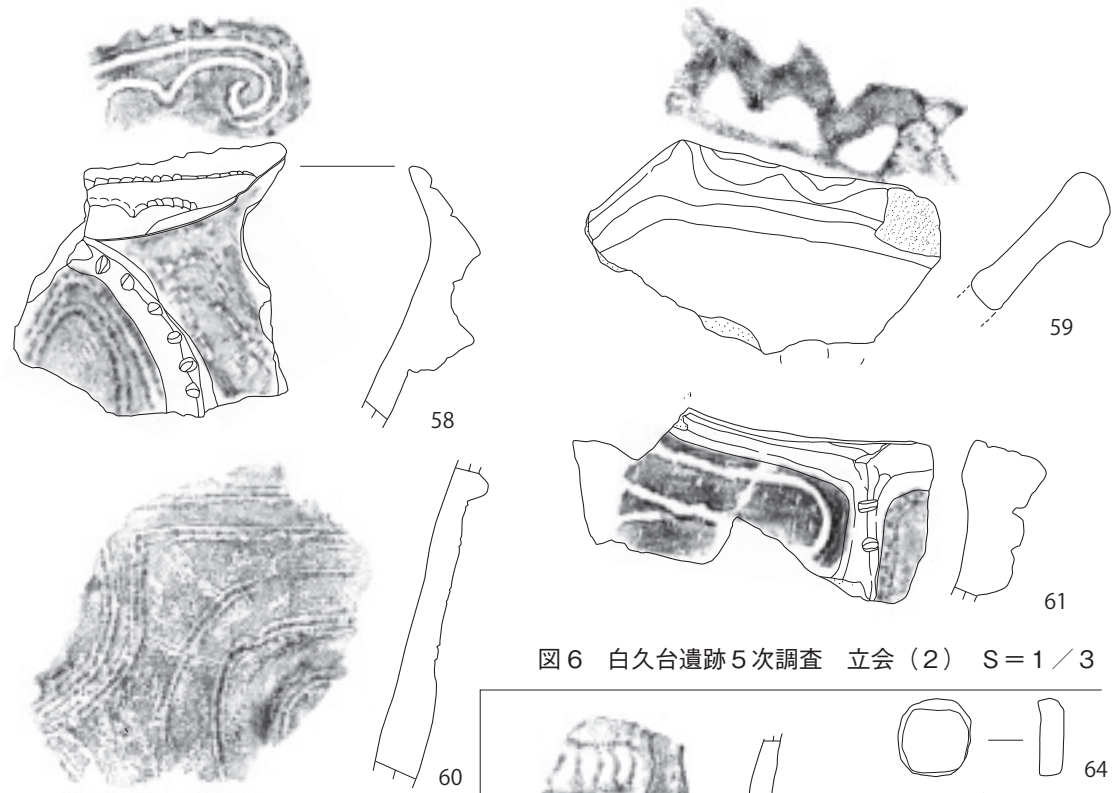


図６　白久台遺跡５次調査　立会（２）　S＝１／３

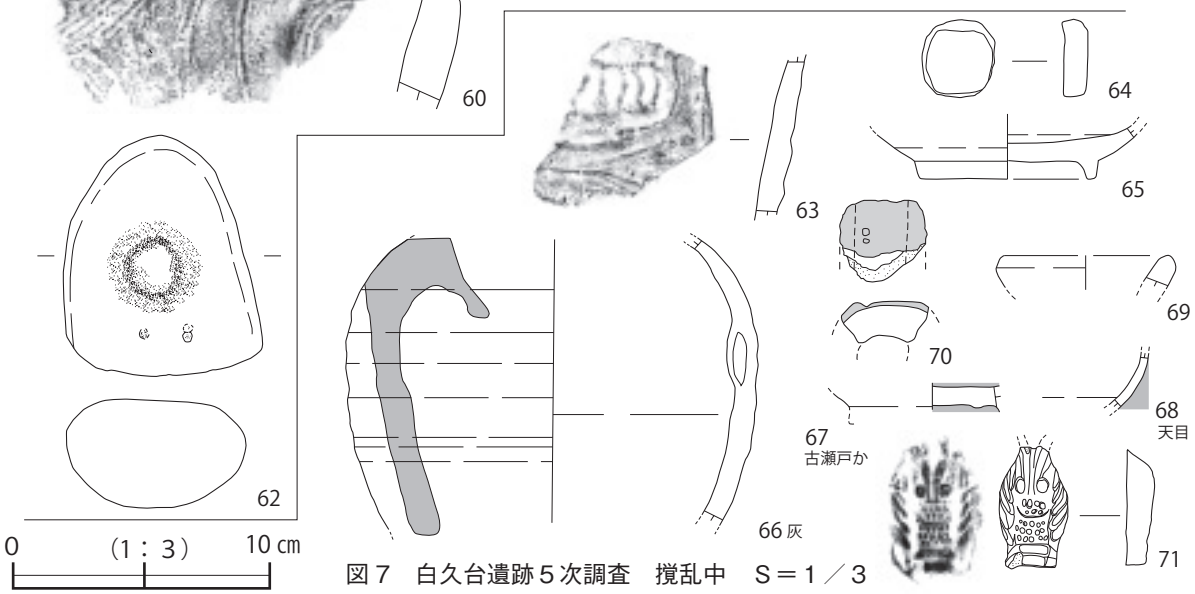


図７　白久台遺跡５次調査　撹乱中　S＝１／３

の規模を考慮するとやや物足りないものがある。近年では住居跡から炉壁が出土する例もあり（小林・宮崎2012）評価は慎重に行う必要がる。一方で，羽口は椀形滓と共に３～４点確認されており，比較的多いと言える。遺構に伴わないとはいえこれだけの点数が出土する例は石岡市内では限られており珍しい。常陸国府周辺の鉄生産遺跡としては宮平遺跡・栗田かなくそ山遺跡・瓦塚遺跡の製鉄炉，鹿の子遺跡・杉ノ井遺跡・茨城廃寺跡の鍛冶工房が挙げられる。また，近年では府中城跡からガラス玉の鋳型が出土している（小杉山・曾根・石山・鈴木2011）。小破片ではあるが常陸国府周辺の生産遺跡の様相を考える上でも重要な発見と言えよう。また，このような調査状況にもかかわらず灰釉陶器が比較的多く出土している点，また判別は不可能であるが墨書土器が1点確認されている点も集落の性格を考えるうえで重要な遺物である。

中世は明確な遺構は確認されなかったものの天目茶碗や土師質土器皿・鍋類・擂鉢が確認されている。全体的に小破片のため判然としないものも多いが古瀬戸や常滑，志野と思われるものも出土している。

近世以降の遺物としては海老形の土製品が確認されている。海老の触角部分まで細かく作られていたものと思われ，従来の泥面子とは性格が異なる可能性を考慮し土製品とした。

図８　白久台遺跡５次調査　調査区北東側検出時　Ｓ＝１／３

全体的にみて縄文時代前・中期を中心として近世まで多様な遺物が存在していることが判明した。これは山王川に面した日当たりのよい西側に向いた斜面としての立地的環境が日々の生活に適した場所であった所産であると思われる。逆に言うといまでこそ山王川はコンクリートで固められた小河川の様相を呈しているが，その歴史は縄文時代前期まで遡る日々の生活に富をもたらす恵みの多い河川であったということでもある。決して満足のいく調査ではなかったがこの１点を指摘できただけでも意義があったのではないだろうか。引き続きこれまであまり注目さ

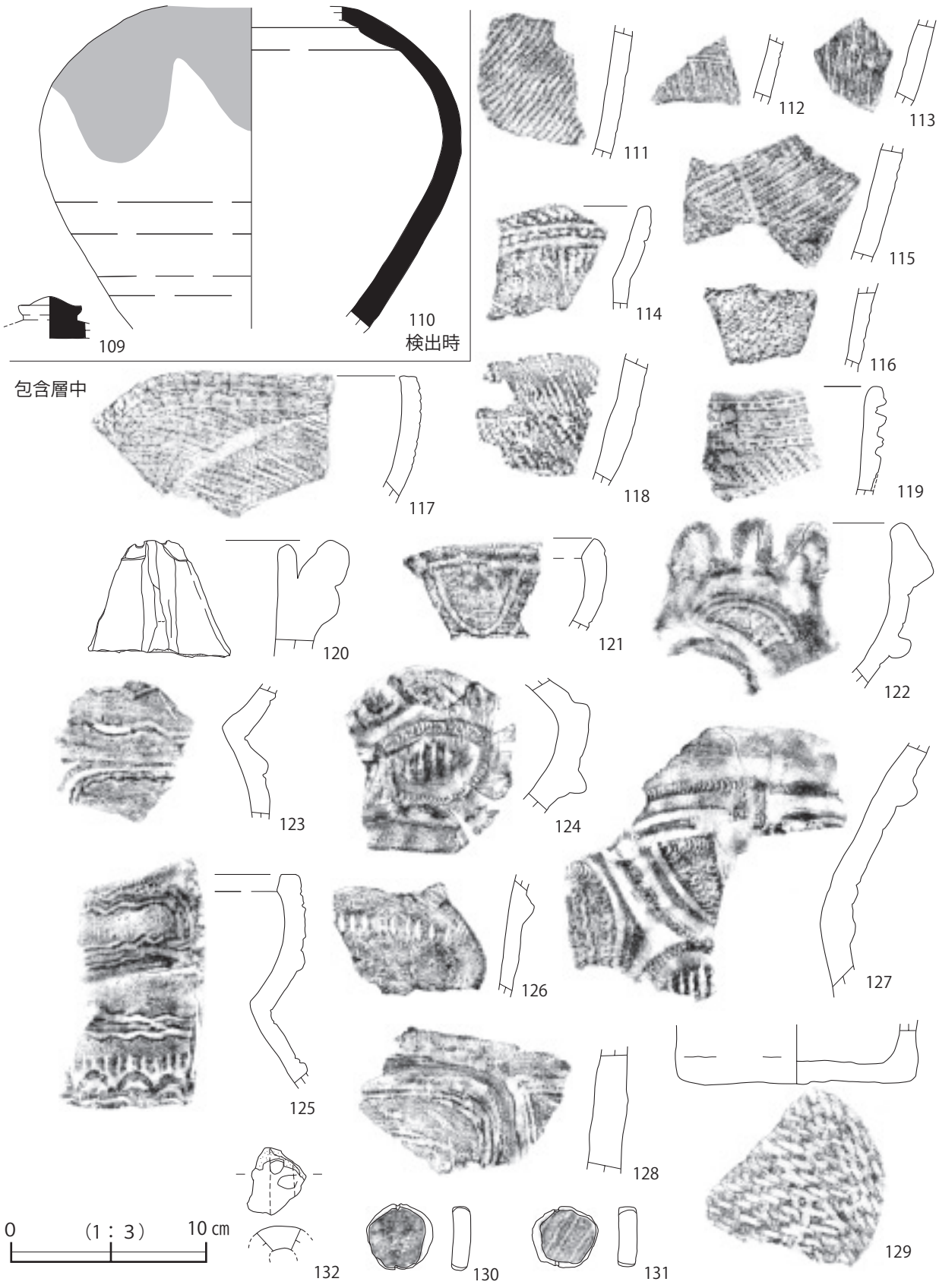


図９　白久台遺跡　ＳＫ－１　Ｓ＝１／３

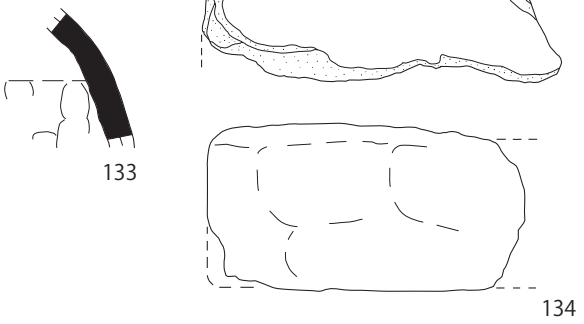


図 10　白久台遺跡５次調査　ＳＫ－２　Ｓ＝１／３

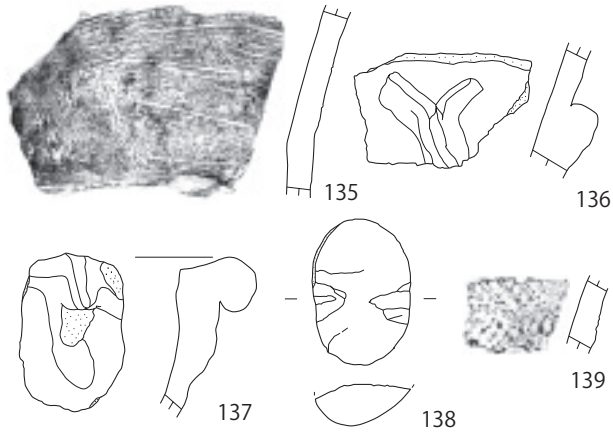


図 11　白久台遺跡５次調査　ＳＫ－３　Ｓ＝１／３

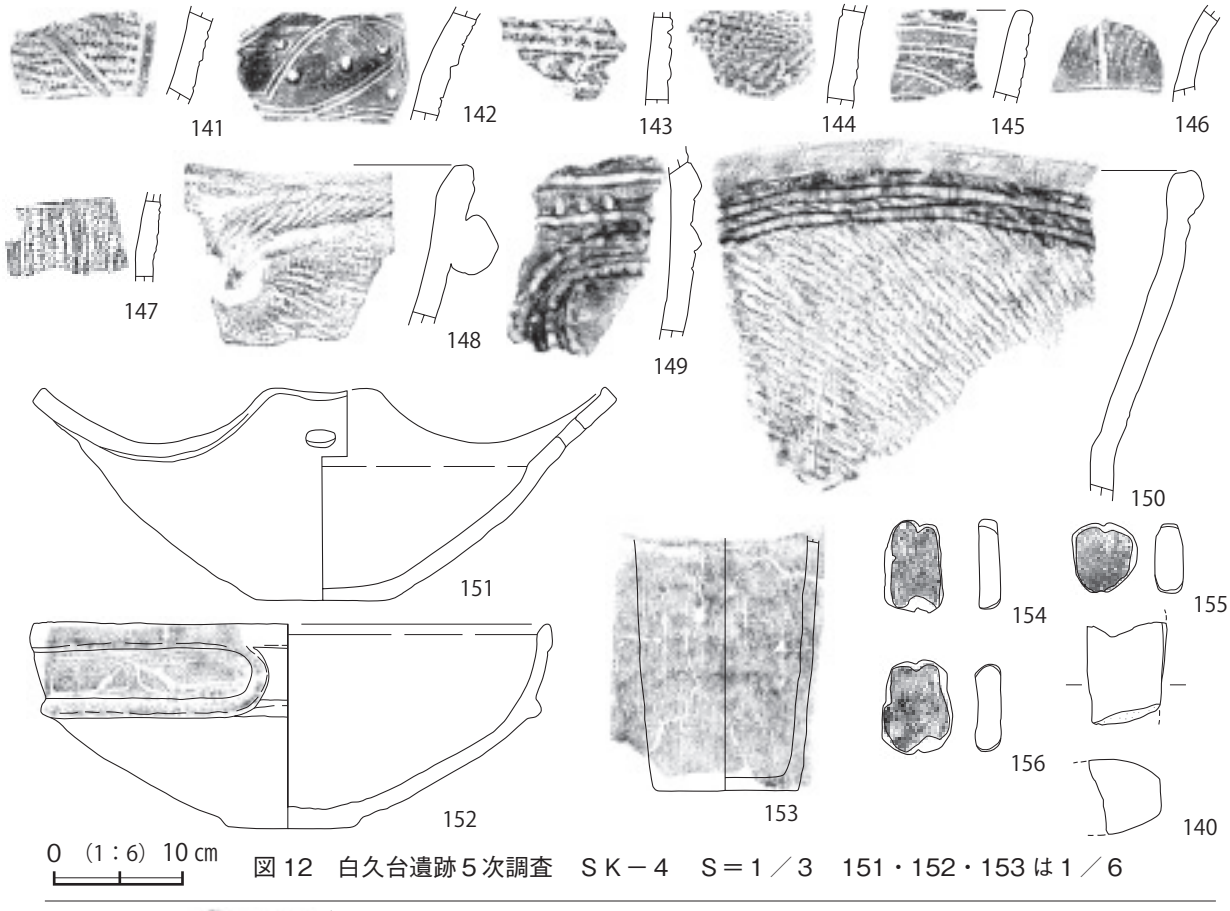


図 12　白久台遺跡５次調査　ＳＫ－４　Ｓ＝１／３　151・152・153 は１／６

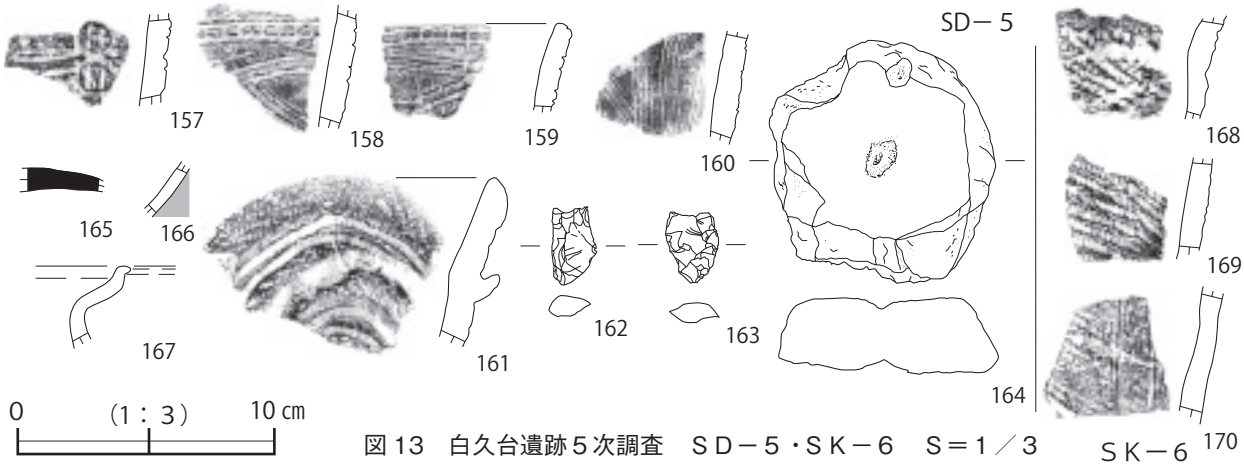


図 13　白久台遺跡５次調査　ＳＤ－５・ＳＫ－６　Ｓ＝１／３

れてこなかった山王川流域の歴史にも注目していく必要があろう。

<参考文献>

・白久台遺跡に関するもの

藤原均他1987「茨城県石岡市白久台遺跡調査概報」石岡市教育委員会・日本考古学研究所

安藤敏孝1988「白久台遺跡第2次発掘調査報告書」石岡市教育委員会

石岡市教育委員会編2001「石岡市遺跡分布調査報告」

小川和博2009「石岡市白久台遺跡の土器」『常総台地16　鴨志田篤二氏　考古学業45周年記念論集』常総台地研究会

小杉山大輔2009「常陸国府周辺における鉄生産遺跡の分布と若干の考察」『常総台地16　鴨志田篤二氏　考古学業45周年記念論集』常総台地研究会

小杉山大輔・曾根俊雄2012「市内遺跡調査報告書　第７集」石岡市教育委員会

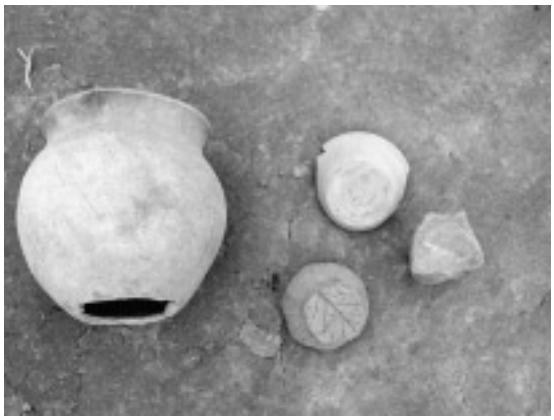
・その他

小杉山大輔・曾根俊雄・石山啓・鈴木徹2011「府中城跡」石岡市教育員会・有限会社勾玉工房Mogi

小林和彦・宮崎剛2012「宮内遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告書第359集

※　尚、発掘調査時に付近の住民より白久台遺跡出土個人資料を実見する機会を得、現地にて写真撮影を行った。上２枚は３～５次調査区北側の住民で、宅地の浄化槽工事中に出土した遺物である。やはり縄文時代中期の遺物が多い。下２枚は３～５次調査区の耕作中に出土した蜂の巣石である。背面は石皿となっている。いずれ、正式に報告したい。

個人所蔵資料（1）



個人所蔵資料（2）

蜂の巣石（表）

蜂の巣石（裏）

表１　白久台遺跡５次調査　出土遺物

遺物番号	出土場所	種別・器種	備　　考　　（ ）内は推定法量
1	5次調査　T-2	石器・器種不明	長さ8.6cm×幅5.5cm×厚さ2.1cm。石材不明。丸味を帯びた直方体の原石から横長の剥片を取り，スクレイパー状に刃部を作る。
2	5次調査　T-3	縄文土・深鉢	赤褐色。砂粒・植物繊維含む。焼成やや良い。無節縄文押圧。
3	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	黄褐色。白色粒・砂粒多い。焼成普通。半裁竹管による連続爪形文。
4	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	赤褐色。白色粒子･砂粒少し含む。焼成やや良。半裁竹管による連続爪形文。
5	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	淡赤褐色。白色粒子・砂粒多い。骨針含む。焼成やや悪い。キャタピラ文を施す。
6	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・砂粒多量。金雲母多い。焼成普通。結節沈線２条。
7	5次調査　T-8	縄文土・土器片錘	長さ4.9cm×幅4.6cm×厚さ1.1cm。褐色。白色粒子・金雲母少し含む。
8	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	長さ4.9cm×幅4.8cm×厚さ1.1cm。白色粒子砂粒多い。焼成普通。2次加工痕あり。
9	5次調査　T-8	縄文土・浅鉢	口径（35.0cm）×底径14.2cm×器高13.3cm。赤褐色。白色粒子･砂粒多い。金雲母・白雲母含む。焼成悪い。
10	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	底径（9.3cm）。白色粒子・砂粒多い。焼成悪い。表面剥離激しい。
11	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	口径（18.7cm）。暗赤褐色。白色粒子・金雲母含む。焼成悪い。指による調節痕跡あり。焼成悪く，表面の剥離激しい。無文。
12	5次調査　T-8	縄文土・浅鉢	底径（12.0cm）。暗褐色。白色粒子・金雲母・白雲母多い。焼成やや悪い。無文。底部に籠目痕あり。
13	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	底径（12.3cm）。淡赤褐色。白色粒子・砂粒・白雲母多量。焼成普通。
14	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・砂粒・金雲母含む。焼成悪い。表面剥離激しい。
15	5次調査　T-8	縄文土・深鉢か	淡橙褐色。白色粒子・砂粒多い。金雲母含む。焼成普通。隆帯を貼付する突起部。
16	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子多量,砂粒･白雲母含む。焼成悪い。有節沈線２条。隆帯施す。
17	5次調査　T-8	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子・金雲母・白雲母多量，砂粒含む。焼成やや悪い。隆帯を断面３角形に施し，有節沈線，爪形文施す。
18	5次調査　T-8	石器・残核か	長さ6.3cm×幅5.0cm×厚さ3.6cm。トロトロ石。小円礫から縦長の剥片を剥ぐ。
19	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	淡橙褐色。植物繊維含む。焼成普通。半裁竹管による連続爪形文。
20	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	褐色。植物繊維，砂粒少し含む。焼成普通。半裁竹管及び縄文を施す。
21	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	褐色。植物繊維含み，焼成やや悪い。半裁竹管による波状文。
22	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	淡黄褐色。植物繊維含み，白色粒子・骨針含む。焼成やや良。半裁竹管による連続爪形文。
23	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	淡暗褐色。白色粒子･白雲母･骨針含む。焼成普通。貝殻腹縁部による施文。
24	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	橙褐色。砂粒・骨針含む。焼成良好。
25	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	暗赤褐色。砂粒含む。焼成良好。撚糸文を地文に半裁竹管による平行沈線。
26	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	淡褐色。白色粒子・骨針・金雲母含む。焼成やや良。縄文を地文に波状沈線を施す。
27	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・金雲母含む。焼成やや良。縄文を地文に有節沈線。
28	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	淡橙褐色。金雲母多量に含む。焼成良好。2重の有節沈線。
29	5次調査　表土一括	縄文土・深鉢	暗褐色。金雲母多量に含む。白色粒子含む。焼成普通。結節沈線２条を施す。
30	5次調査　表土一括	鉄生産関連・炉壁	外面は還元し青灰色。白色粒子・砂粒含む。内面に鉱物付着。
31	5次調査　表土一括	須恵器・坏身	灰色。口径（14.0cm）。白色粒子・骨針含む。焼成良好。
32	5次調査　表土一括	土師質土器・擂鉢	橙褐色。白色粒子，砂粒含む。焼成やや良。３状１単位の擂り目。
33	5次調査　表土一括	石器・石斧か	長さ8.4cm×幅10.8cm×厚さ3.3cm。石材不明。扁平な円礫の周縁部に両面から加工を行い刃部を作る。
34	5次調査　表土一括	石器・磨製石斧	長さ11.3cm×幅4.7cm×厚さ2.8cm。緑泥片岩。当初は蛤状の刃だったものが欠損し，再度磨いたもの。基部にも欠損あり。
35	5次調査　廃土中	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・骨針含む。焼成普通。貝殻の腹縁部で押圧。
36	5次調査　廃土中	縄文土・土器片錘	長径4.2cm×短頚3.1cm×厚さ0.9cm。白色粒子・金雲母・白雲母含む。焼成普通。
37	5次調査　廃土中	縄文土・深鉢	淡赤褐色。白色粒子・金雲母含む。焼成良好。結節沈線２条。
38	5次調査　廃土中	弥生土・壺	底径（4.9cm）。暗赤褐色。白色粒子・白雲母・骨針少し含む。焼成良好。
39	5次調査　廃土中	石器・砥石	花崗岩。表面に溝状の研磨痕が３条残る。
40	5次調査　廃土中	土師器・台付坏	橙褐色。白色粒子・骨針・白雲母少し含む。焼成良好。墨書があるが判読不能。内面黒色処理及びヘラミガキ。
41	5次調査　廃土中	須恵器・坏蓋	口径（13.4cm）。白色粒子少し含む。焼成良好。
42	5次調査　廃土中	須恵器・甕	灰色。白色粒子・白雲母・骨針含む。焼成良好。二次加工痕あり。
43	5次調査　廃土中	灰釉陶器・坏か	明灰褐色。白色粒子をごくわずかに含む。焼成良好。内面に施釉されていることから坏の可能性が高い。

44	5次調査　廃土中	常滑・壺か	にぶい赤褐色。白色粒子・骨針含む。焼成良好。
45	5次調査　廃土中	土師質土器・皿	口径（6.1cm）×底径（4.0cm）×器高（2.0cm）。明褐色。白色粒子・白雲母含む。焼成普通。
46	5次調査　廃土中	鉄生産関連・鉄滓	長軸4.5cm×短軸3.2cm×厚さ1.6cm。磁石に反応を示す。鍛冶滓か。
47	5次調査　廃土中	鉄生産関連・炉壁	小破片。内面は鉄滓の付着というよりは炉壁が高温により溶解したように無数の気泡を持つ。外面は還元し青灰色。
48	5次調査　廃土中	鉄生産関連・羽口か	外面に鉄滓が付着。円形を呈することから羽口と思われる。内面は還元し青灰色化。
49	5次調査　廃土中	鉄生産関連・羽口	外面に鉄滓が付着。先端部か。白色粒を含む。厚さ1.4cm。内面暗赤褐色。
50	5次調査　立会	縄文土・深鉢	黒褐色。植物繊維含む。砂粒含む。焼成普通。縄文を地文として半裁竹管による平行沈線。
51	5次調査　立会	縄文土・深鉢	黄褐色。砂粒・骨針含む。焼成良好。半裁竹管に平行沈線。隆帯に斜位の押圧文。
52	5次調査　立会	縄文土・土器片錘	長径3.2cm×短径2.7cm×厚さ0.8cm。褐色。砂粒・白色粒子・金雲母含む。焼成良。
53	5次調査　立会	弥生土か・壺	褐色。白色粒子・砂粒多く含む。焼成良好。撚りの細い縄文を施文。
54	5次調査　立会	瓦・平瓦	灰色。白色粒子含む。焼成良好。凹面布目，凸面長縄叩き。
55	5次調査　立会	陶器・志野焼か	底径（6.0cm）。明灰白色の素地に灰白色の釉付着。胎土荒い。
56	5次調査　立会	陶器・天目茶垸	黒色。胎土暗茶褐色。焼成良好。
57	5次調査　立会	鉄生産関連・炉壁	内面は溶解した鉄滓が滴状に付着。外面暗赤褐色。胎土に白色粒子・スサワラ含む。
58	5次調査　立会	縄文土・深鉢	赤褐色。白色粒子・金雲母含む。焼成良好。結節沈線２条。扇状把手。
59	5次調査　立会	縄文土・浅鉢	赤褐色。白色粒子・金雲母多量に含む。焼成普通。
60	5次調査　立会	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・金雲母・白雲母含む。焼成普通。半裁竹管による沈線。断面三角の隆帯を施す。
61	5次調査　立会	縄文土・深鉢か	淡赤褐色。白色粒子・金雲母含む。焼成やや良。有節沈線，隆帯に爪形文。
62	5次調査　立会	石器・凹石	長径9.6cm×短径7.6cm×厚さ4.4cm。砂岩。
63	5次調査　撹乱中	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・金雲母・白雲母・骨針含む。焼成普通。隆帯による枠状の区画。内部に連続爪形文。
64	5次調査　撹乱中	縄文・土製円盤	長径3.1cm×短径2.8cm×厚さ1.0cm。褐色。白色粒子・金雲母含む。焼成普通。底部を利用か。
65	5次調査　撹乱中	灰釉陶器・垸か	底径7.0cm。灰色。白色粒子含む。焼成良好。
66	5次調査　撹乱中	灰釉陶器・瓶	暗褐色。白色粒子含む。焼成良好。
67	5次調査　撹乱中	古瀬戸か・垸か	明灰褐色。にぶい淡緑色。焼成良好。
68	5次調査　撹乱中	陶器・天目茶碗か	暗褐色。焼成良好。
69	5次調査　撹乱中	土師質土器・皿	口径（6.4cm）。明橙褐色。白色粒子・赤色粒子少し含む。焼成普通。
70	5次調査　撹乱中	鉄生産関連・羽口	先端部。外面に溶解した鉄滓付着。内面は暗赤褐色。白色粒子含む。
71	5次調査　撹乱中	中近土・土製品	長さ4.7cm×幅2.7cm×厚さ1.1cm。暗褐色。焼成良好。
72	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	明黄褐色。植物繊維含む。白色粒子・白雲母含む。焼成やや悪い。撚糸文か。
73	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	黄褐色。植物繊維含む。白色粒子含む。焼成普通。半裁竹管による連続爪形文。竹管文による連続押圧による施文。
74	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子・白雲母含む。焼成良好。結節沈線。口縁隆帯に斜位の刻み。
75	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子含む。焼成やや良。半裁竹管による平行沈線。竹管状工具による円形の文様を押圧。
76	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	淡橙褐色。植物繊維含む。焼成普通。半裁竹管による平行条線を放射状に施し，中央に円形竹管文を刺突。
77	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	黒褐色。植物繊維含む。白色粒子含む。焼成普通。羽状縄文を施す。
78	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	淡黄褐色。白色粒子・金雲母・白雲母含む。焼成普通。半裁竹管による平行沈線。
79	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	黒褐色。植物繊維含む。白雲母少し。焼成やや良。半裁竹管による平行沈線。
80	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	明褐色。白色粒子含む。焼成良好。半裁竹管による連続爪形文。
81	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	褐色。植物繊維含む。白色粒子・白雲母少し含む。焼成やや悪い。羽状縄文。
82	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	橙褐色。植物繊維含む。砂粒含む。焼成普通。
83	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	赤褐色。白色粒子・白雲母少し含む。焼成良好。半裁竹管を施す。
84	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	褐色。植物繊維含む。白色粒子・白雲母・金雲母含む。縄文を地文に半裁竹管による平行条線。
85	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	橙褐色。白色粒子含む。半裁竹管による連続爪形文。
86	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・金雲母多い。焼成普通。縄文を地文とし沈線で円形を描く。内部には円形竹管による刺突文。
87	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・金雲母多量に含む。白雲母含む。焼成普通。有節沈線１条。隆帯上に指頭圧痕。

88	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	明褐色。白色粒子・白雲母含む。焼成やや悪い。口縁部隆帯下にキャタピラ文。結節沈線を充填。
89	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・金雲母多量に含む。焼成やや良。有節沈線。隆帯上に連続刻み目。口唇部に連続爪形文。
90	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	明褐色。白色粒子・白雲母含む。焼成良好。渦巻文。
91	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・浅鉢か	黒褐色。白色粒子・白雲母多い。焼成普通。底部に木葉痕・籠目痕。指による調整痕跡あり。
92	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子・金雲母含む。焼成普通。波状口縁。縄文施文。
93	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・土器片錘	長さ4.5cm×幅4.5cm×厚さ1.1cm。暗褐色。植物繊維含む。白色粒子含む。焼成やや悪い。半裁竹管による平行沈線。爪形文施す。
94	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・土器片錘	長さ4.5cm×幅3.1cm×厚さ1.1cm。暗褐色。白色粒子・金雲母多量に含む。焼成普通。
95	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・土器片錘	長さ3.0cm×幅2.8cm×厚さ1.3cm。褐色。白色粒子・金雲母含む。焼成良。
96	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・土器片錘	幅3.1cm×厚さ0.8cm。黒褐色。白色粒子・金雲母多量。焼成やや良。一部欠損。
97	5次調査 調査区北東側検出時	縄文土・土製円盤	径3.3cm×厚さ0.9cm。淡赤褐色。白色粒子・金雲母・白雲母多い。焼成やや良。
98	5次調査 調査区北東側検出時	石器・磨製石斧	幅4.3cm×厚さ1.4cm。石材不明。基部欠損。
99	5次調査 調査区北東側検出時	石器・打製石斧	長さ9.2cm×幅5.9cm×厚さ1.8cm。石材不明。基部一部欠損。
100	5次調査 調査区北東側検出時	石器・蜂の巣石	厚さ4.6cm。火山岩。表裏に使用痕あり。
101	5次調査 調査区北東側検出時	石器・磨石/叩き石	厚さ3.6cm。石材不明。
102	5次調査 調査区北東側検出時	灰釉陶器・瓶	灰褐色。白色粒子わずかに含む。釉はにぶい緑色。
103	5次調査 調査区北東側検出時	灰釉陶器・瓶か	淡緑色。焼成良好。
104	5次調査 調査区北東側検出時	灰釉陶器・不明	外面淡緑色。内面明灰色。焼成良好。
105	5次調査 調査区北東側検出時	土師質土器・鍋類	暗褐色。白色粒子・金雲母・白雲母含む。焼成良好。
106	5次調査 調査区北東側検出時	土師質土器・鍋類	明褐色。白色粒子・金雲母・白雲母・骨針含む。焼成普通。
107	5次調査 調査区北東側検出時	土師質土器・鍋類	赤褐色。白色粒子・白雲母含む。焼成普通。外面煤付着。
108	5次調査 調査区北東側検出時	鉄生産関連・椀形滓	長径6.5cm×短径5.1cm×厚さ1.6cm。
109	5次調査 SK1検出時	須恵器・坏蓋	明灰色。白色粒・白雲母・金雲母含む。焼成良好。
110	5次調査 SK1検出時	須恵器・短頸壺	暗灰色。自然釉緑色。白色粒子・骨針含む。焼成良好。
111	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	褐色。植物繊維含む。白色粒子少量含む。焼成普通。
112	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	灰褐色。白色粒子・白雲母少し含む。焼成普通。半裁竹管による平行沈線。貝殻腹縁文。
113	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	淡黄褐色。植物繊維含む。金雲母・白雲母含む。焼成普通。貝殻腹縁による施文。
114	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	暗褐色。金雲母多量，白色粒子含む。焼成普通。縄文を地文に口縁下に半裁竹管による平行沈線。
115	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	淡赤褐色。植物繊維含む。焼成普通。羽状縄文を施す。
116	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	明褐色。植物繊維・白色粒子含む。焼成普通。縄文を地文に斜位の平行沈線。
117	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	赤褐色。植物繊維含む。白色粒子・金雲母含む。焼成普通。羽状縄文を地文に半裁竹管による連続爪形文。
118	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	黒褐色。植物繊維含む。焼成普通。地文に縄文を施す。
119	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	淡褐色。植物繊維含む。白色粒子・金雲母・白雲母含む。焼成普通。半裁竹管による連続爪形文。円形の刺突文。
120	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子含む。金雲母多い。焼成良好。
121	5次調査 SK1包含層	縄文土・浅鉢	茶褐色。白色粒子・金雲母・白雲母多い。焼成やや良。有節沈線施す。
122	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子・金雲母・白雲母多量に含む。焼成良好。半裁竹管による区画に内部に縄文を施す。
123	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	茶褐色。金雲母多量。焼成やや良好。隆線で楕円形の区画文。それに沿って有節沈線。また沈線による蛇行文。
124	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子・金雲母多量。焼成普通。隆帯で円形区画，そのうえに半裁竹管による連続爪形文。
125	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子含む。金雲母大量。焼成普通。
126	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子含む。金雲母多量。焼成普通。連続爪形文。断面３角の隆帯。
127	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	橙褐色。白色粒子・金雲母多量に含む。焼成やや悪い。幅広の連続爪形文。
128	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子多い。金雲母多量。焼成普通。太めの隆帯を貼付。
129	5次調査 SK1包含層	縄文土・深鉢	底径(12.0)cm。淡赤褐色。白色粒子・金雲母・白雲母多量に含む。焼成普通。
130	5次調査 SK1包含層	縄文土・土器片錘	長さ3.5cm×幅3.2cm×厚さ0.9cm。褐色。白色粒子・金雲母多量に含む。焼成普通。
131	5次調査 SK1包含層	縄文土・土器片錘	長さ3.2cm×幅3.3cm×厚さ0.9cm。橙褐色。白雲母含む。焼成やや良。
132	5次調査 SK1包含層	鉄生産関連・羽口	表面黒色，内面赤褐色。胎土白色粒子少し含む。指頭圧痕あり。鉄滓の付着なし。

133	5次調査　SK-2	須恵器・甕	暗灰色。白色粒子・骨針微量に含む。焼成良好。
134	5次調査　SK-2	瓦・塼	厚さ6.7cm。灰褐色。白色粒子多量に含む。焼成悪い。
135	5次調査　SK-3	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子多量に含む。金雲母多い。焼成やや良。櫛状工具による沈線。
136	5次調査　SK-3	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子・金雲母・白雲母含む。隆帯をY字状に貼付。
137	5次調査　SK-3	縄文土・深鉢	暗褐色。白色粒子多い。金雲母少し。焼成悪い。
138	5次調査　SK-3	石器・玉類？	長さ5.8cm×幅3.8cm。楕円形の円礫を両側から穿孔している。穿孔途中に半壊し，廃棄したものか。
139	5次調査　SK-3	縄文土・深鉢	褐色。植物繊維を含む。金雲母少し。焼成やや悪い。
140	5次調査　SK-4	石器・磨製石斧	厚さ3.0cm。石材不明。基部・刃部欠損。
141	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子・白雲母少し含む。焼成普通。縄文を地文に半裁竹管による平行沈線。
142	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	淡褐色。白色粒少量・白雲母多い。焼成良好。半裁竹管による平行沈線及び押圧。
143	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	赤褐色。白色粒子多い。焼成普通。半裁竹管による連続爪形文及び平行沈線。
144	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	明黄褐色。植物繊維含む。白雲母少し。焼成やや悪い。羽状縄文施文。
145	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	明橙褐色。植物繊維含む。白色粒子多い。白雲母少し。焼成普通。半裁竹管による平行沈線。
146	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	暗褐色。植物繊維含む。白色粒子・白雲母含む。焼成やや悪い。縄文まばらに施文。
147	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	黄橙褐色。植物繊維含む。白色粒子・白雲母少し含む。焼成普通。半裁竹管による平行沈線。
148	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	淡褐色。白色粒子少し。金雲母多い。焼成良好。隆帯，地文に縄文を施す。
149	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	淡赤褐色。白色粒子・金雲母多い。焼成普通。有節沈線，キャタピラ文。
150	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子多い。焼成普通。縄文を地文に横位に沈線。
151	5次調査　SK-4	縄文土・浅鉢	口径45.8cm×底径10.2cm×器高17.0cm。暗褐色。白色粒子多い。焼成普通。４つの波状把手。
152	5次調査　SK-4	縄文土・浅鉢	口径40.6cm×底径9.9cm×器高16.2cm。茶褐色。白色粒多い。焼成普通。隆帯で区画し，内部に沈線。
153	5次調査　SK-4	縄文土・深鉢	底径11.1cm。赤褐色。白色粒・金雲母多量。焼成普通。指による調整痕跡残る。
154	5次調査　SK-4	縄文土・土器片錘	長さ3.6cm×幅2.2cm×厚さ0.8cm。暗褐色。白色粒子・金雲母多い。焼成普通。
155	5次調査　SK-4	縄文土・土器片錘	長さ2.8cm×幅2.5cm×厚さ1.1cm。褐色。白色粒子・金雲母・白雲母含む。焼成悪い。
156	5次調査　SK-4	縄文土・土器片錘	長さ3.8cm×幅2.8cm×厚さ1.0cm。赤褐色。白色粒子・金雲母少し含む。焼成良好。
157	5次調査　SD-5	縄文土・深鉢	明褐色。白色粒子・金雲母少し含む。焼成やや良。半裁竹管による平行沈線。円形竹管を縦位に施し，その中に沈線。
158	5次調査　SD-5	縄文土・深鉢	明橙褐色。白色粒子・金雲母少し。焼成良好。４条１単位の擂り目
159	5次調査　SD-5	縄文土・深鉢	褐色。白色粒子含む。焼成良好。半裁竹管による平行沈線。
160	5次調査　SD-5	土師質土・擂鉢	黒褐色。白色粒子・白雲母少し。焼成やや良。櫛状工具による平行沈線文。
161	5次調査　SD-5	縄文土・深鉢	淡赤褐色。白色粒子多く，金雲母少し含む。焼成普通。縄文を地文に沈線を施す。
162	5次調査　SD-5	石器・剥片	長さ2.8cm×幅1.7cm×厚さ0.8cm。石材不明。
163	5次調査　SD-5	石器・石鏃未製品か	長さ3.7cm×幅2.0cm×厚さ0.8cm。頁岩。
164	5次調査　SD-5	石器・凹石	長径9.2cm×短径8.7cm×厚さ3.0cm。火山岩。表裏に使用痕跡あり。円礫の周縁部を加工している。
165	5次調査　SD-5	須恵器・坏蓋	灰色。白色粒子・白雲母少し含む。天井部ヘラ切り。焼成良好。
166	5次調査　SD-5	灰釉陶器・埦か	白灰色。外面に釉あり，淡緑色を呈する。砂粒含む。焼成良好。
167	5次調査　SD-5	土師質土器・甕	淡橙褐色。白色粒子・白雲母・骨針含む。焼成良好。
168	5次調査　SK-6	縄文土・深鉢	暗褐色。植物繊維含む。砂粒わずか。焼成悪い。
169	5次調査　SK-6	縄文土・深鉢	暗褐色。植物繊維含む。白色粒子・白雲母少し含む。焼成やや良い。
170	5次調査　SK-6	縄文土・深鉢	明茶褐色。植物繊維含む。金雲母少し。焼成やや良。半裁竹管による平行沈線。

調査区完掘状況１（北東から）

調査区完掘状況２（南西から）

調査区完掘状況３（南西から）

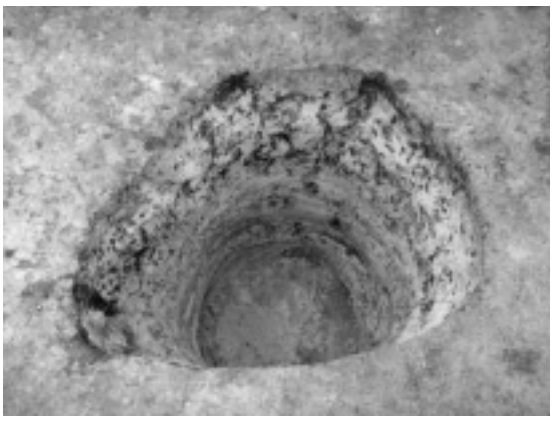
ＳＫ－１土層（北西から）

ＳＫ－４検出状況（東から）

ＳＫ－４遺物出土状況（東から）

ＳＫ－４土層（南から）

ＳＫ－４完掘（南東から）



ＳＫ－２完掘（西から）

ＳＫ－２降雨後（北西から）

ＳＫ－３完掘（東から）

ＳＫ－３降雨後（東から）

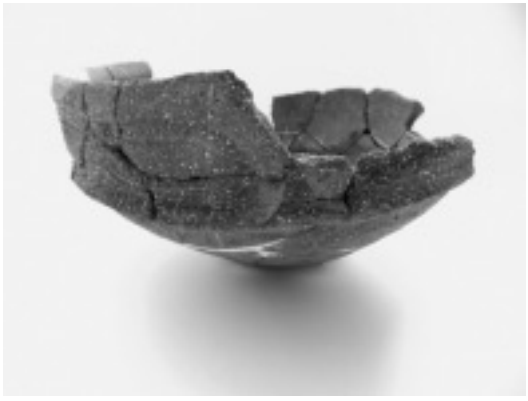
ＳＤ－５（西から）

縄文土器（9）

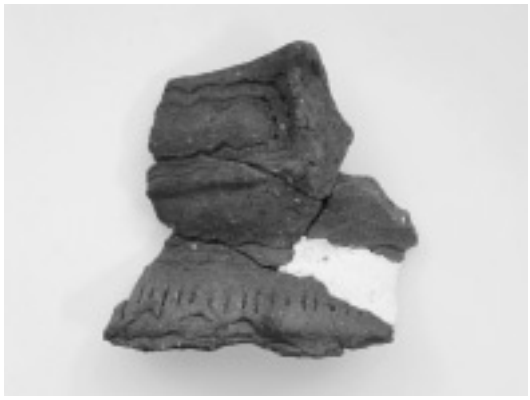
縄文土器（10）

縄文土器（11）

縄文土器（151）

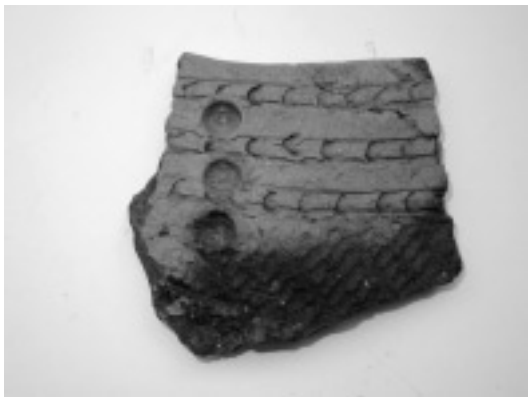


縄文土器（152）



縄文土器（125）

縄文土器（127）



縄文土器（119）

縄文土器（158・159・157）

縄文土器（12）

墨書土器（40）

灰釉陶器（66）

灰釉陶器（102）

須恵器（110）

羽口（49・132・70）

炉壁内面（57・30）

炉壁外面（57・30）

鉄塊（46）

擂鉢（160）

Ⅴ　その他の調査

1　旭遺跡

旭遺跡は石岡市太田字旭343ほかに所在する。現地踏査の際に採集した土器を紹介する。1は縄文土器。淡褐色。白色粒多量、赤褐色粒少量、骨針微量含む。浮島式。2は須恵器の高台坏。灰色。砂粒、白色粒少量含む。焼成良好。

旭遺跡は台地の高所を中心に土師器片が散布することから奈良・平安時代の遺跡と考えられていたが（西宮1998）、今回縄文土器も採集されたことから、奈良・平安時代だけではなく縄文時代も含む複合遺跡といえる。

<引用文献>西宮一男1998『八郷町遺跡台帳　No.3』八郷町教育委員会

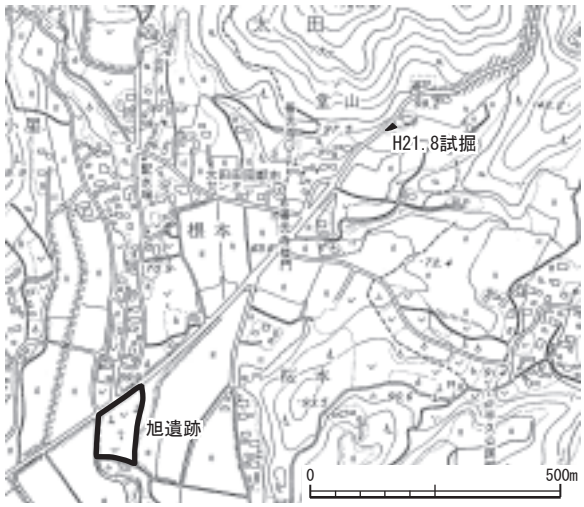


図1　旭遺跡　位置図（S=1/15,000）

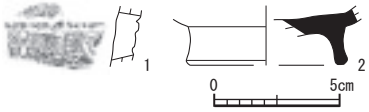


図2　旭遺跡
採集土器 (S=1/3)

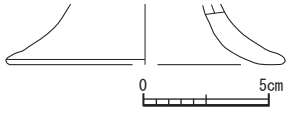


図3　小倉古墳群
採集土器 (S=1/3)

2　小倉古墳群

小倉古墳群は石岡市小倉字沖の内469-1ほかに所在し、方墳1基、円墳2基から構成される。現地踏査の際に採集した土器を紹介する。土師器の高坏。にぶい橙褐色。砂粒、黒色粒・白雲母微量含む。

小倉古墳群の詳細な時期は不明だが、周辺の前原遺跡や神取遺跡、申内遺跡では古墳時代の土器が採集されており、集落の展開が予想されている。今回採集した土器が古墳群の時期そのものを示すとは断定できないが、古墳群もしくは広がっている集落の時期の一端を示すと考えられるだろう。

図4　小倉古墳群　位置図（S=1/15,000）

3　丸山古墳群

丸山古墳群は前期の前方後方墳である丸山古墳や、横穴式石室を内蔵する後期の前方後円墳である丸山4号墳などから構成される。現地踏査の際に採集した弥生土器を紹介する。1は淡褐色。白色粒・半透明粒・黄褐色粒少量、白雲母微量含む。焼成良好。2は外面暗褐色、内面淡褐色。白雲母多量、白色粒・砂粒・黄褐色粒微量含む。

丸山古墳群において弥生土器が採集されたのは初めてだが、1952年の丸山3号墳発掘時には弥生時代「後期の久ヶ原式併行」の土器が出土したとある（後藤・大塚1957）。

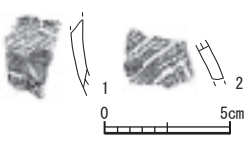


図5　丸山古墳群
採集遺物（S=1/3）

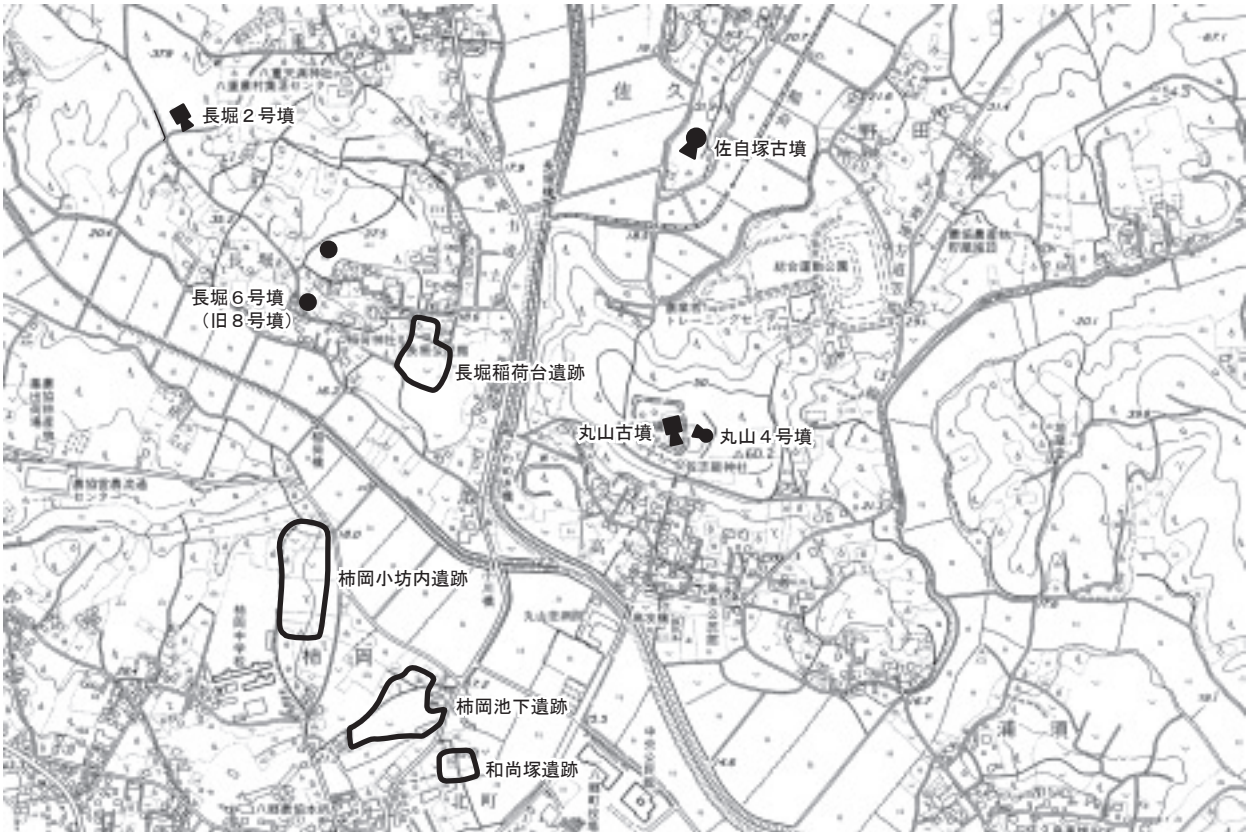


図６　丸山古墳群・長堀６号墳　位置図（S=1/15,000）

古墳群と重複するように弥生時代の遺跡が存在していたと考えられるだろう。

<引用文献>後藤守一・大塚初重1957『常陸丸山古墳』丸山古墳顕彰会

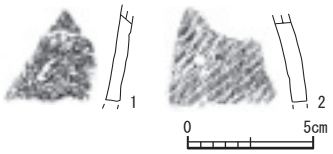


図７　長堀６号墳採集遺物（S=1/3）

4　長堀６号墳

長堀６号墳は現在径30m程度の円墳状だが、『常陸丸山古墳』（後藤・大塚1957）での「長堀第８号墳」と考えられる（佐々木･鶴見2012）。「長堀第８号墳」は墳丘長43mの前方後円墳で、後円部と前方部との比高差が大きいことから、「長堀支群の４基の前方後円墳中最も古い形式にあたる」とされた。残念ながら現在では前方部は削平されてしまったことになるが、二重口縁壺などが採集されており（小杉山2007）、後藤・大塚1957での墳丘観察結果と合わせ前期古墳と考えられる（曾根2010）。

新たに現地踏査の際に墳丘盛土より採集した土器を紹介する。１は繊維を含む縄文時代前期の土器。外面橙褐色、内面にぶい褐色。白色粒・黄褐色粒少量、角閃石・砂粒微量含む。２は弥生土器。外面褐～明褐色、内面褐～にぶい褐色。白色粒多量、半透明粒、骨針・黄褐色粒微量含む。焼成やや不良。

今回紹介した土器は、採集地点やその時代から古墳に伴うというよりも、古墳築造時の旧表土もしくは盛土中に含まれていた資料と考えられる。長堀６号墳の東側には長堀稲荷台遺跡が存在するが、６号墳の地点もしくは盛土が採取された地点まで遺跡が広がっていたと考えられるだろう。

<引用文献>

小杉山大輔2007『市内遺跡調査報告書　第２集』石岡市教育委員会

後藤守一・大塚初重1957『常陸丸山古墳』丸山古墳顕彰会

佐々木憲一・鶴見諒平2012「茨城県石岡市丸山４号墳再測量調査報告」『古代学研究所紀要』16

曾根俊雄2010「石岡市域の古墳群」『常陸の古墳群』六一書房

Ⅵ　埋蔵文化財包蔵地の新規登録と範囲変更

石岡市には現在394の埋蔵文化財包蔵地が存在し、これらの埋蔵文化財包蔵地の範囲を示すものとして、『石岡市遺跡分布調査報告』（石岡市教育委員会・石岡市遺跡分布調査会2001）および『茨城県遺跡地図』（茨城県教育委員会2001）が発行されている。だが、発行後の現地踏査や試掘調査などによって、新規発見や範囲変更が生じていることから、それら包蔵地について一覧表の形で報告する。なお、包蔵地の位置・範囲については既存のものを含め「いばらきデジタルマップ」で公開している。

新規登録遺跡

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	新規登録年度
八郷-128	赤羽根遺跡	小屋字赤羽根1334-1	古墳，中世	古墳 城館跡	平成14年度
八郷-129	猫松遺跡	真家2826-7ほか	縄文，古墳	集落跡	平成15年度
八郷-130	長原遺跡	真家2833-40ほか	縄文，古墳	包蔵地	平成15年度
八郷-131	宿畑遺跡	下林862ほか	奈良・平安	包蔵地	平成17年度
八郷-132	柿岡池下遺跡	柿岡字池下3023ほか	縄文，古墳，近世	包蔵地	平成17年度
八郷-133	須釜堀内遺跡	須釜字堀内1340-4ほか	縄文，古墳，奈良・平安，中世	包蔵地	平成18年度
八郷-134	佐久松山遺跡	佐久290ほか	古墳，奈良・平安	包蔵地	平成19年度
八郷-135	佐久上ノ内遺跡	佐久691ほか	縄文，古墳，奈良・平安	包蔵地	平成19年度
八郷-136	佐久上ノ内古墳群	佐久695-1ほか	古墳	古墳群	平成19年度
八郷-137	東成井山ノ神遺跡	東成井字山ノ神328-2ほか	縄文，古墳，奈良・平安，中世	集落跡	平成21年度 （平成22年度 範囲変更）
八郷-138	真家木崎遺跡	真家字木崎104ほか	旧石器，縄文，奈良・平安	包蔵地	平成21年度
八郷-139	宇治会新立遺跡	宇治会字新立2132-1ほか	古墳	包蔵地	平成21年度
八郷-140	東成井東原遺跡	東成井1394-1ほか	古墳，奈良・平安	集落跡	平成22年度
八郷-141	野田田向遺跡	野田字田向116-2ほか	弥生，古墳，奈良・平安，中世	包蔵地	平成23年度
八郷-142	片野柳原遺跡	片野324ほか	縄文，弥生，古墳，中世	包蔵地	平成23年度
八郷-143	柿岡小坊内遺跡	柿岡3124-1ほか	縄文，奈良・平安，中世	集落跡	平成24年度
八郷-144	山崎塩海道遺跡	山崎2925ほか	中世	城館跡	平成24年度

包蔵地範囲･位置変更

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	範囲変更年度
石岡-020	中島遺跡	染谷字中島1749	縄文，古墳，奈良・平安，中世	集落跡	平成21年度
石岡-111	山王遺跡	石岡一丁目9ほか	縄文，古墳，奈良・平安	包蔵地	平成24年度
石岡-221	町塚遺跡	石川字代田後1099ほか	奈良・平安	集落跡	平成24年度
八郷-010	中道遺跡	柿岡字中道2267ほか	縄文，弥生，古墳，奈良・平安	集落跡	平成20年度
八郷-044	諏訪山砦址	吉生1028-1ほか	中世	城館跡	平成21年度
八郷-100	野田館跡	瓦谷761-1ほか	中世	城館跡	平成23年度
八郷-126	サカイツカ遺跡	金指字サカイツカ583ほか	弥生，古墳	集落跡	平成24年度

報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡調査報告書
副書名	
巻次	第８集
編集者名	小杉山 大輔　　曾根 俊雄
著者名	小杉山 大輔　　曾根 俊雄
編集機関	石岡市教育委員会
所在地	〒315-0195　茨城県石岡市柿岡5680番１　TEL 0299-43-1111
発行年月日	2013（平成25）年３月29日

ふりがな	ふりがな	市コード	北緯	調査開始日	調査面積	調査原因	主な遺構（時期）
遺跡名	所在地	遺跡番号	東経	調査終了日			
白久台遺跡 ５次調査	石岡市石岡2490	08205	36° 11′ 32″	20060501	401.5㎡	土地区画整理	土坑・溝・埋没谷
		073	140° 16′ 57″	20060619			

市内遺跡調査報告書
第８集

2013（平成25）年３月29日発行

編集　石岡市教育委員会　生涯学習課
発行　石岡市教育委員会
〒315-0195　茨城県石岡市柿岡5680-1
TEL　0299-43-1111(代)
FAX　0299-43-1117

印刷　株式会社　須崎印刷
〒315-0013　茨城県石岡市府中1-3-16